TDB 電子認証サービス TypeA

TypeA ご利用ソフト V3.1

取扱説明書

2010年 2月22日

Rev 1.2

株式会社帝国データバンク

©TEIKOKU DATABANK,LTD. 2010
All Rights Reserved.

目次

1. TypeA ご利用ソフト 概要 1

2. システム要件 2

3. インストール・IC カードの確認・環境設定 3

3.1. IC カードリーダドライバのインストール 7
3.2. Java 実行環境のインストール 9
3.3. TypeA ご利用ソフトのインストール 17

初期セットアップ（環境設定） 29

3.4. IC カード動作確認 30
3.4.1. IC カード動作確認 30
3.4.2. 受領書送信 35
3.5. リポジトリ接続テスト 40
3.6. セキュリティポリシー設定 45
3.7. Internet Explorer への証明書登録 47

4. クライアントツール 50

4.1. IC カードロック解除ツール 50
4.2. 認証局証明書管理ツール 54
4.3. ポリシー設定ツール 60
4.4. e-Tax 設定ツール 66
4.5. リポジトリ接続プロトコル設定ツール 70

5. アンインストール 74

5.1. IC カードリーダ ドライバのアンインストール 74
5.2. Java 実行環境のアンインストール 74
5.3. TypeA ご利用ソフトのアンインストール 75

6. トラブルシューティング 76

6.1. Java 実行環境に関するトラブルシューティング 76
6.1.1. Java 実行環境の確認方法 76
6.2. 受領書送信に関するトラブルシューティング 78
6.2.1. 受領書送信でエラーが発生する。 78
6.3. e-Tax 設定に関するトラブルシューティング 81

7. 用語解説 83

8. よくある質問 83

1. TypeA ご利用ソフト 概要

「TypeA ご利用ソフト」のご利用ありがとうございます。
「TypeA ご利用ソフト」は、以下のシステムをご利用いただける環境を提供します。

- 電子入札コアシステム
- 電子入札・開札システム
- 国税電子申告・納税システム（e-Tax）・地方税ポータルシステム（eLTAX）
- 電子申請システム
- 電子契約
- e-文書法

また、以下の各種管理機能をご提供します。

- IC カード動作確認機能
- 受領書送信機能
- リポジトリ接続テスト機能
- セキュリティポリシー設定機能
- Internet Explorer への証明書登録機能
- 認証局証明書管理機能
- IC カードの e-Tax 対応設定機能
- IC カードロック解除機能
- LDAP プロキシ対応設定機能（別途、サーバオプション製品が必要）

IC カードは不正使用を防止するために、５回連続して PIN (Personal Identification Number) を間違えると IC カード がロックし、その後正しい PIN を入力しても受け付けず IC カードが利用できなくなります。
IC カードをロックさせてしまった場合には、IC カードのロックを解除し、使用してください（詳細は50ページの「IC カードロック解除ツール」をご参照ください）。

なお、最新情報については、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページをご参照ください
（URL http://www.tdb.co.jp/typeA/）。

商標

- TARGUSYS は東芝ソリューション株式会社の登録商標です。
- Microsoft, Windows, Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標および登録商標です。
- Java は、米国 Sun Microsystems の米国およびその他の国における商標および登録商標です。
- その他の社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

2. システム要件

★ハードウェア

機種	以下「★ソフトウェア」の Windows 2000/XP が動作する PC
ＣＰＵ	PentiumIII800MHz 以上 1.2GHz 以上を推奨
メモリ容量	２５６ＭＢ以上を推奨
ディスク容量	インストール先のドライブに５００ＭＢ以上の空きディスク領域
機器	IC カードリーダ（PC/SC 対応） 弊社指定以外の IC カードリーダは、サポート対象外です。

機種	以下「★ソフトウェア」の Windows Vista が動作する PC
ＣＰＵ	Core Duo 1.6GHz 同等以上
メモリ容量	１．０ＧＢ以上を推奨
ディスク容量	インストール先のドライブに１ＧＢ以上の空きディスク領域
機器	IC カードリーダ（PC/SC 対応） 弊社指定以外の IC カードリーダは、サポート対象外です。

★ソフトウェア

OS	Microsoft Windows 2000 Professional SP4 Microsoft Windows XP Home Edition SP2　または SP3 Microsoft Windows XP Professional SP2　または SP3 Microsoft Windows Vista Home Premium SP なし　または SP1 Microsoft Windows Vista Business SP なし　または SP1
ブラウザ	Internet Explorer 6.0 SP1(Windows 2000) Internet Explorer 6.0 SP2(Windows XP) Internet Explorer 7.0(Windows XP/Vista)
Java 実行環境	Java 2 Runtime Environment 1.3.1_09 / 1.3.1_19 Java 2 Runtime Environment 1.4.2_17 Java 2 Runtime Environment 5.0 Update15 Java 2 Runtime Environment 6.0 Update3

★通信環境

回線	インターネットに接続可能な環境が必要です。また、快適な操作環境をご利用いただくため、高速回線による常時接続をお奨めいたします。
プロトコル	以下のプロトコルを使用いたしますので、事前に使用可能であることをご確認ください。 ※　HTTP、HTTPS、SMTP、LDAP お客様の通信環境によっては FireWall 等により LDAP の通信を許可していない場合がございます。パソコン、またはネットワークの管理者にお尋ねください。

以上の要件が満たされている場合でも、ハードウェア、ソフトウェアの相性等により、ご利用いただけない場合がございますことをご了承ください。また他のソフトウェアから影響される場合がありますので、専用のパソコンをご用意いただくことを推奨いたします。

3. インストール・IC カードの確認・環境設定

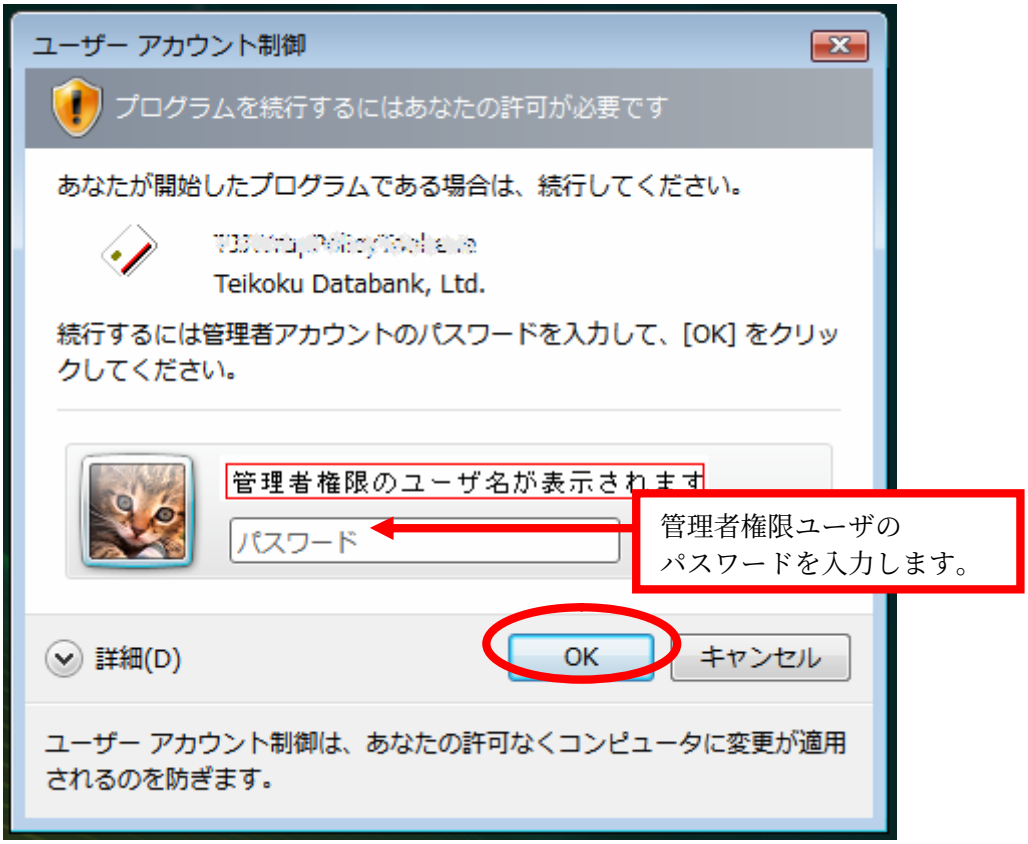
準備

インストールは管理者権限を持つユーザ(Administrator グループのユーザ)で行ってください。
また、全ての Windows プログラム（スタートアップに含まれるアプリケーションや、常駐ソフト（ウイルス駆除ソフト等）を含む）を必ず終了してから行うようにしてください。
なお、Windows Vista をご使用の場合には、ユーザ・アカウント制御（User Account Control：以降 UAC と記載）により必要に応じて警告画面が表示されます。

Windows Vista の UAC 説明

Windows Vista では管理者権限ユーザであっても、管理者権限にて動作が必要な場合は
以下のような確認画面が表示されます。内容を確認のうえ[続行(C)]を選択してください。

また、一般ユーザが管理者権限の必要なツールを動作させた場合は、以下のような UAC 画面が表示されます。管理者権限ユーザのパスワードを入力し[ＯＫ]を選択することで動作することが出来ます。



【パソコンのユーザ名およびドメイン名に関する制限事項について】

電子入札コアシステム開発コンソーシアムから、電子入札にご利用するパソコンの「ユーザ名」および「ドメイン名」に関する制限事項が案内されております。
具体的には、ユーザ名およびドメイン名に、２バイト文字は使用できません。

詳細は、TDB ホームページ（URL　http://www.tdb.co.jp/typeA/）の、
「ダウンロード」－「電子入札コアシステム関連」－「パソコンの「ユーザ名」、「ドメイン名」の確認方法について」を参照してください。

なお当社では、ユーザ名、ドメイン名の変更については、お客様のネットワーク環境、インターネット環境に多大な影響を及ぼすため、サポートをさせていただくことが出来ません。
ユーザ名、ドメイン名の変更は、パソコン管理者またはネットワーク管理者にご相談の上、お客さまの責任のもとで変更をお願いします。

手順

・TypeA ご利用ソフトの旧バージョンのアンインストール
(1) IC カードリーダドライバのインストール （ 7ページ）
(2) Java 実行環境のインストール （ 9ページ）
(3) TypeA ご利用ソフトのインストール （17ページ）
(4) 初期セットアップ（環境設定） （29ページ）
1) IC カード動作確認 （30ページ）
2) 受領書送信 （35ページ）
3) リポジトリ接続テスト （40ページ）
4) セキュリティポリシー設定 （45ページ）
5) Internet Explorer への証明書登録 （47ページ）

TypeA ご利用ソフトの旧バージョンのアンインストール

既に TypeA ご利用ソフト V1.0/V1.1/V2.0/V2.1/V3.0 をインストールされているお客さまが V3.1 をインストールする場合は、TypeA ご利用ソフト V1.0/V1.1/V2.0/V2.1/V3.0 をアンインストールしてください。

初めて TypeA ご利用ソフトをインストールされるお客さまは本手順を実施する必要はありません。

① アンインストール対象のソフトウェア

TypeA ご利用ソフト V1.0/V1.1 をインストールしている場合
1) TypeA 受領書送信ツール V1.0
2) e-Tax プラグインソフト（e-Tax 設定ツール）
3) TypeA ご利用ソフト V1.0(V1.08 含む)/V1.1
4) TARGUSYS クライアントソフト V2.0/V3.0
5) Java 実行環境（1.3.1_06）（注１）
※以上 3)から 4)は、取扱説明書に記載のとおりの手順を実施すると、連続した作業です。

TypeA ご利用ソフト V2.0/V2.1 をインストールしている場合
1) TypeA ご利用ソフト V2.0
2) TARGUSYS クライアントソフト V6.0
3) e-Tax プラグインソフト（e-Tax 設定ツール）
4) Java 実行環境(1.3.1_09 または 1.3.1_19) （注１）
※以上 1)から 3)は、取扱説明書に記載のとおりの手順を実施すると、連続した作業です。

TypeA ご利用ソフト V3.0 をインストールしている場合
1) TypeA ご利用ソフト V3.0
2) Java 実行環境(6.0Update3) （注１）

（注１）Java 実行環境のバージョンを変更しない場合は、アンインストールの必要はありません。

② アンインストール手順

アンインストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

アンインストールは、必ず上記記載の順番で行ってください。

各ソフトウェアのアンインストール手順につきましては、それぞれのバージョンに付属しています取扱説明書をご参照ください。

3.1. IC カードリーダドライバのインストール

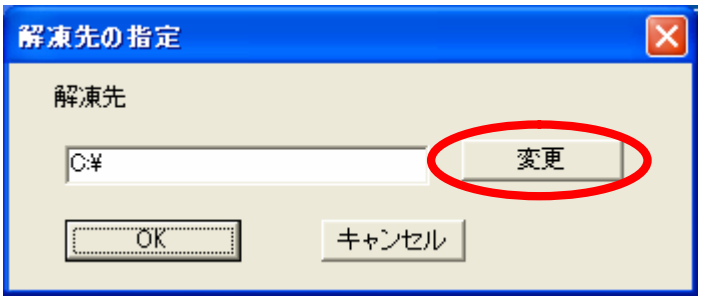
準備

インストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

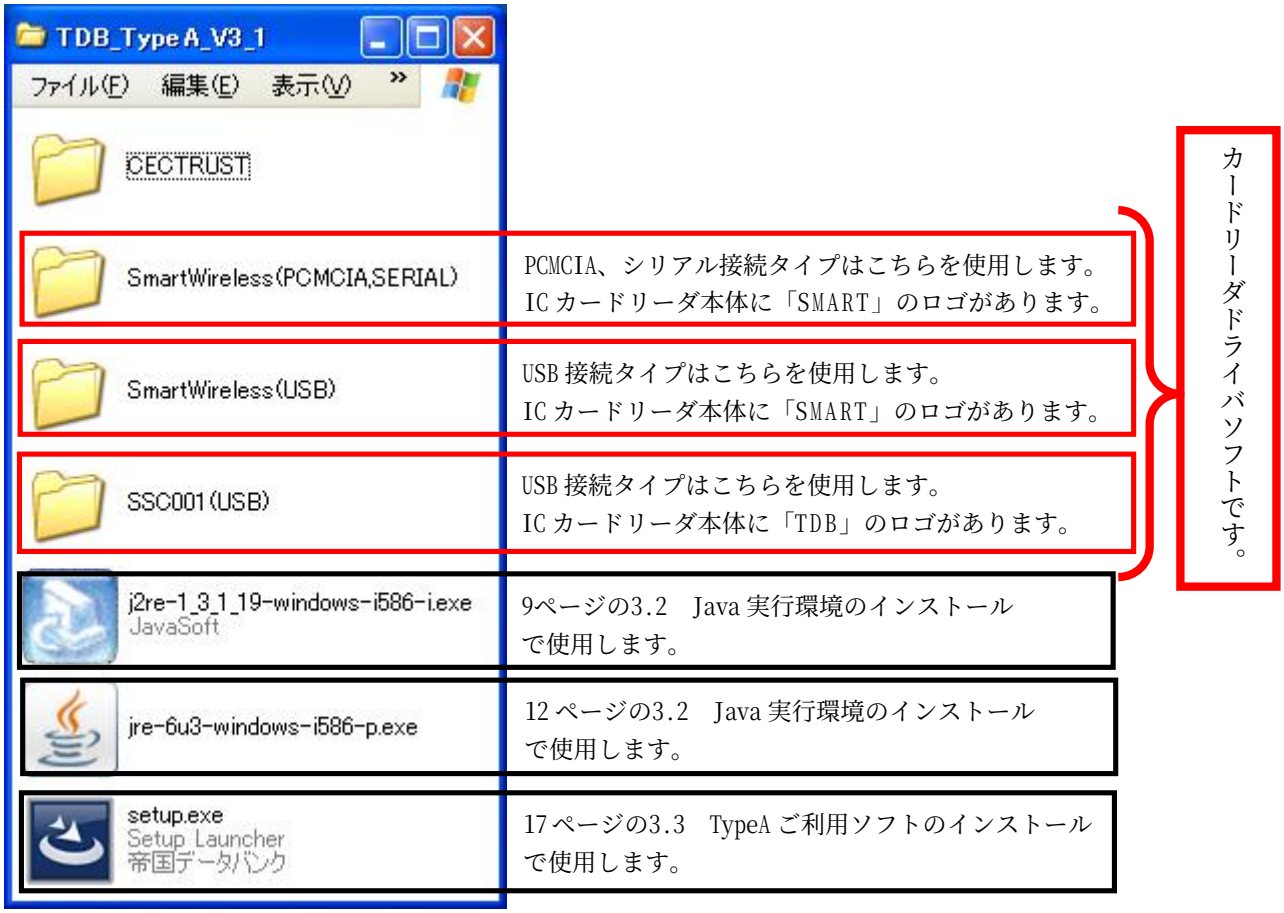
手順

① TDB ホームページ（URL　http://www.tdb.co.jp/typeA/）の、[ダウンロード]－[TypeA ご利用ソフト Ver3.1]より、「TypeA ご利用ソフト Ver3.1」をダウンロードします。
※このダウンロードしたファイルは、本取扱説明書の「3.1　IC カードリーダドライバのインストール」から「3.7　Internet Explorer への証明書登録」までの作業で必要となります。
作業しやすい「デスクトップ」等にダウンロードすることをお勧めします。

② ダウンロードしたファイル「TDB_TypeA_V3_1.exe」をダブルクリックすると、「解凍先の指定」ダイアログが表示されます。
[変更]ボタンで解凍先フォルダを指定して[OK]ボタンを押してください。
※このダウンロードしたファイルは、本取扱説明書の「3.1　IC カードリーダドライバのインストール」から「3.7　Internet Explorer への証明書登録」までの作業で必要となります。
作業しやすい「デスクトップ」等に解凍することをお勧めします。



③　解凍されたフォルダを開くと、以下のようなファイルやフォルダが表示されます。



④　各ドライバソフトのインストール手順につきましては、それぞれフォルダの中にある「インストールマニュアル」をご参照ください。

3.2. Java 実行環境のインストール

TypeA ご利用ソフトをお使いいただくためには、推奨する Java 実行環境をインストールし、デフォルトの Java 実行環境として利用可能な状態にする必要があります。

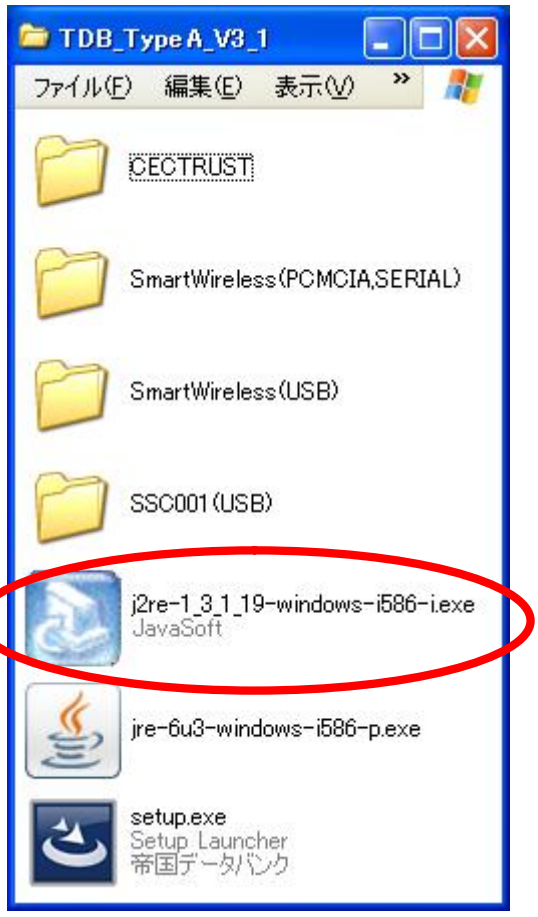
準備

インストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。
既に Java 実行環境(推奨バージョン以外)がインストールされている場合は、必ず先にその Java 実行環境をアンインストールしてください。
複数バージョンの Java 実行環境がインストールされている場合には、TypeA ご利用ソフトが正しく動作しない場合があります。

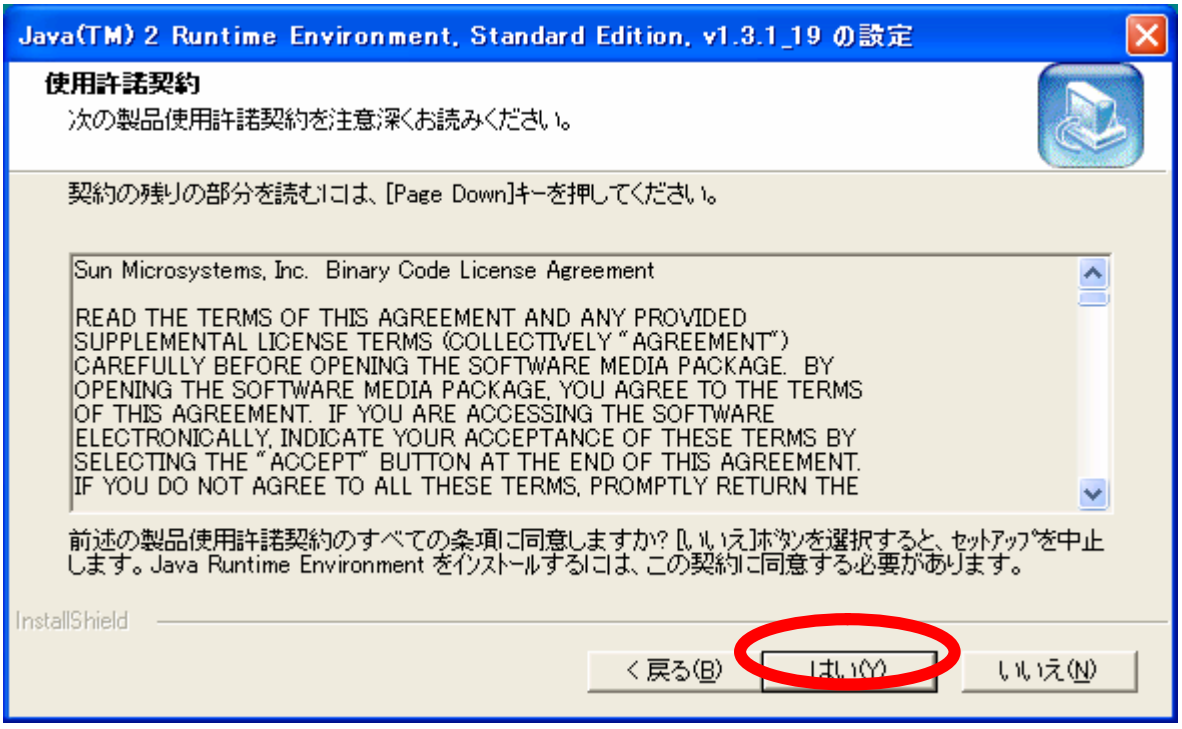
本手順では JRE 1.3.1_19（P9）と JRE 6.0 Update3（P12）でのインストールについて書かれていますが、発注機関が推奨する Java 実行環境をインストールするようにしてください。
なお、既に推奨バージョンの Java 実行環境がインストールされており、かつその Java 実行環境にてお使いの場合は、本手順を実施する必要はありません。「3.3 TypeA ご利用ソフトのインストール」へお進みください。

手順（JRE 1.3.1_19 をインストールする場合）

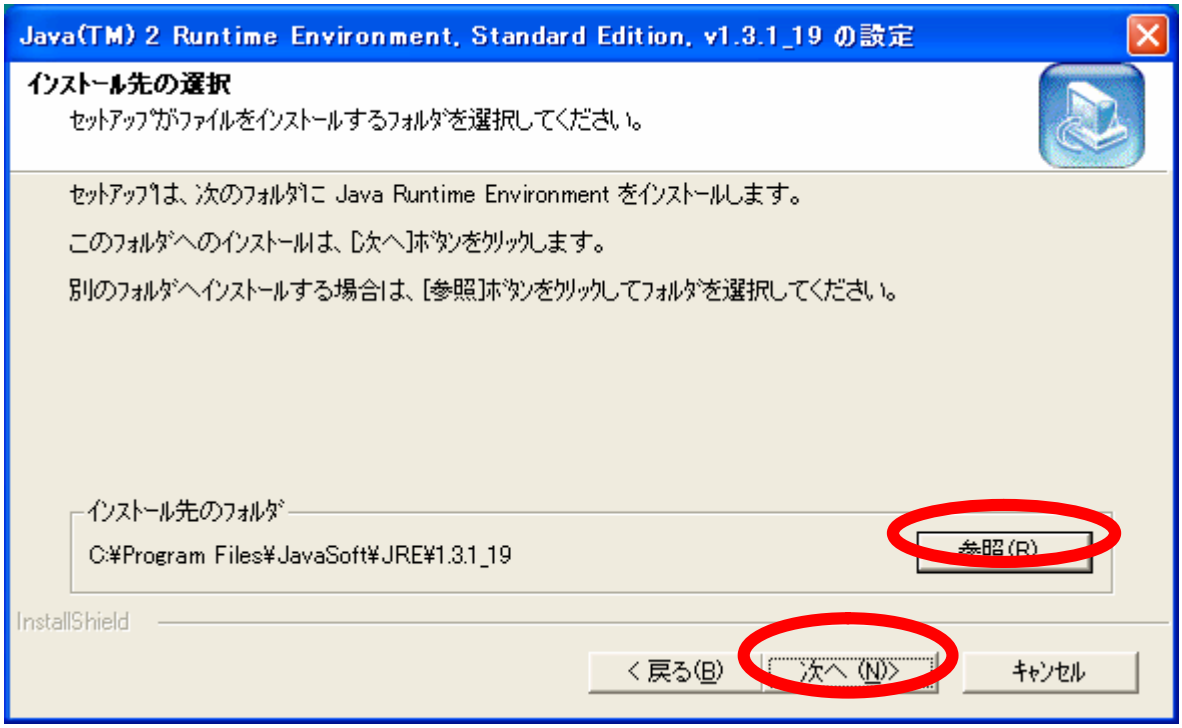
① 「3.1 IC カードリーダドライバのインストール」の③で展開したフォルダ内の「j2re-1_3_1_19-windows-i586-i.exe」を起動し、インストールを開始します。



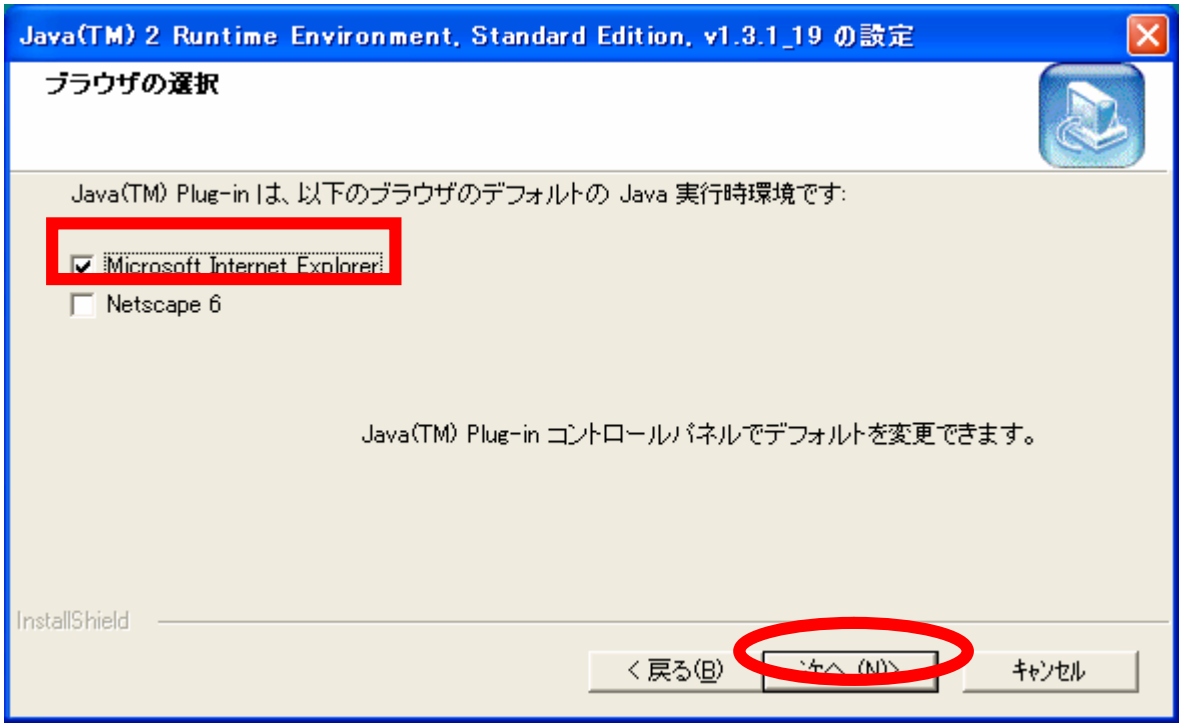
② 使用許諾契約をお読みになり、同意されましたら[はい]ボタンを押してください。



③ 特に問題が無い限りデフォルトのインストール先のままで[次へ]ボタンを押してください。
インストール先のフォルダを変更する場合は[参照]ボタンを押してインストール先を、任意のフォルダに変更して[次へ]を押してください。

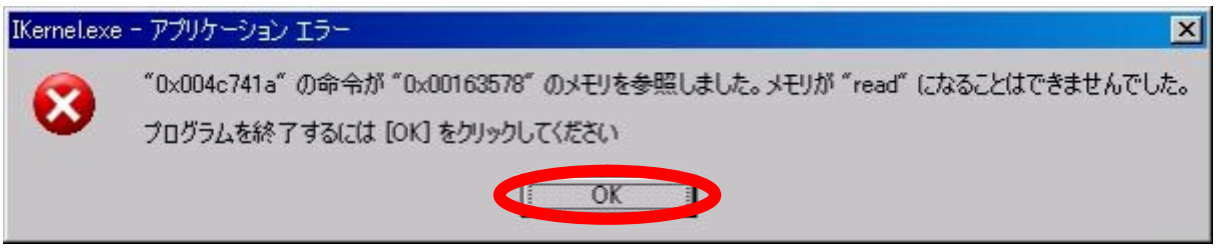


④ **[Microsoft Internet Explorer]にチェックを入れ、[Netscape]にチェックが入っていないことを確認し、[次へ]ボタンを押してください。**
もし、ここでチェックを忘れた場合には、Java 実行環境のインストール後、「TypeA ご利用ソフト環境設定手順書」の「6.1　Java 実行環境に関するトラブルシューティング」を確認の上、ブラウザへの設定を必ず行うようにしてください。



⑤ 画面中央に「インストール完了」と表示され、そのまま画面が閉じればインストールが正しく行われています。

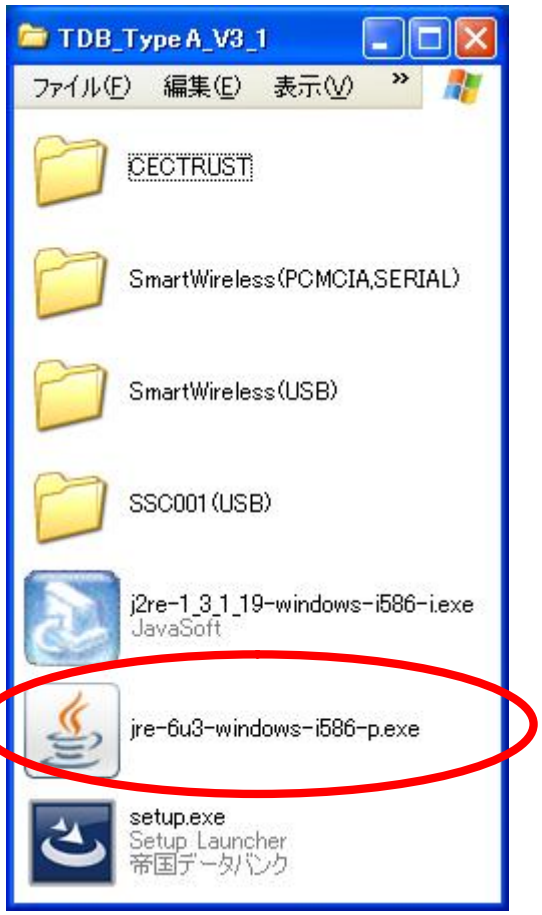
★パソコンの OS が Windows XP の場合、インストール直後に以下の画面が表示される場合がありますが、[OK]を押してそのまま作業を続けてください。



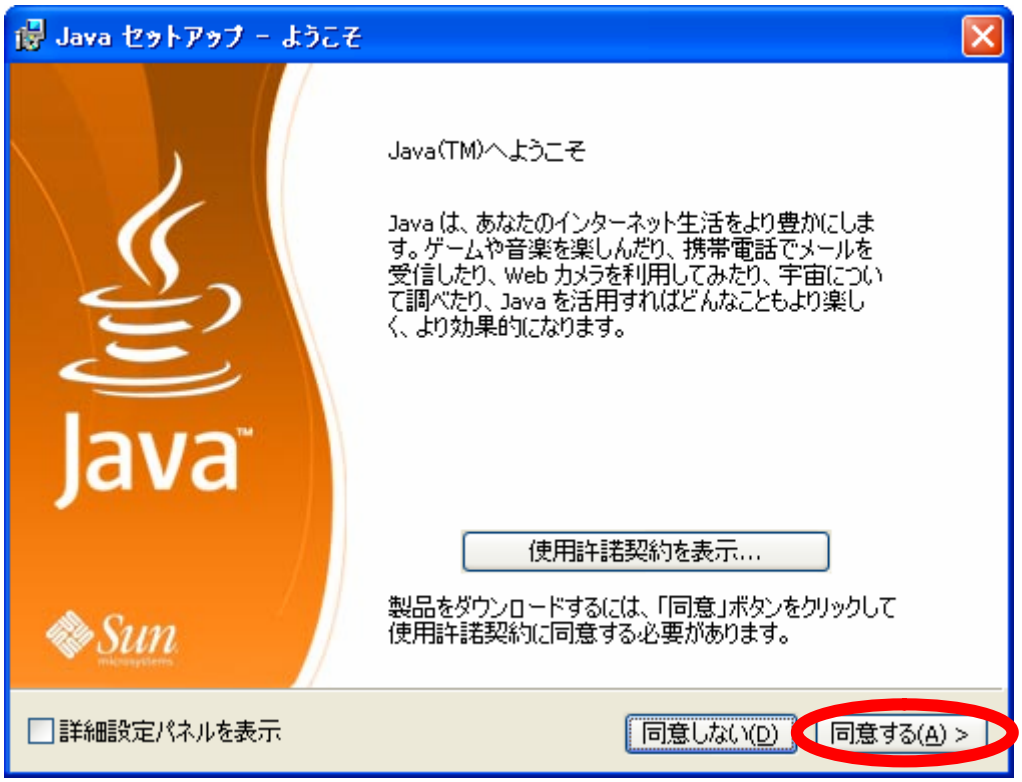
プログラムを有効にするため、必ず PC を手動で再起動してください。

手順（JRE 6.0 Update3 をインストールする場合）

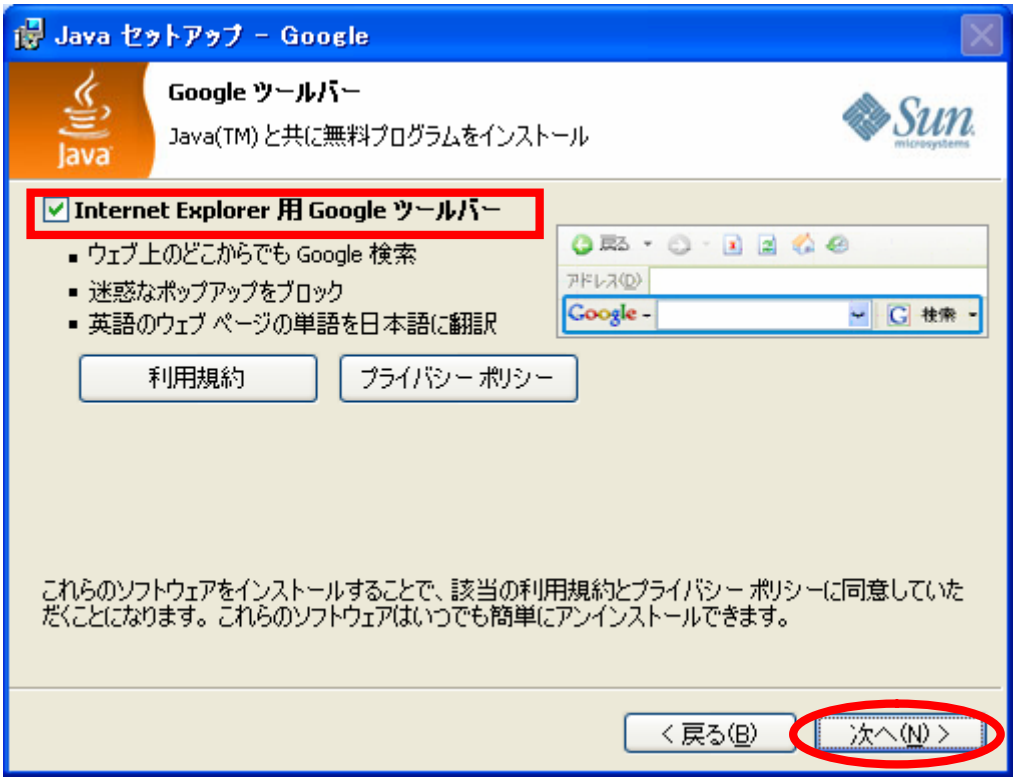
① 「3.1　IC カードリーダドライバのインストール」の③で展開したフォルダ内の「jre-6u3-windows-i586-p.exe」を起動し、インストールを開始します。



② 必要に応じて「使用許諾契約を表示…」ボタンにより使用許諾契約をお読みになり、同意されましたら[同意する]ボタンを押してください。

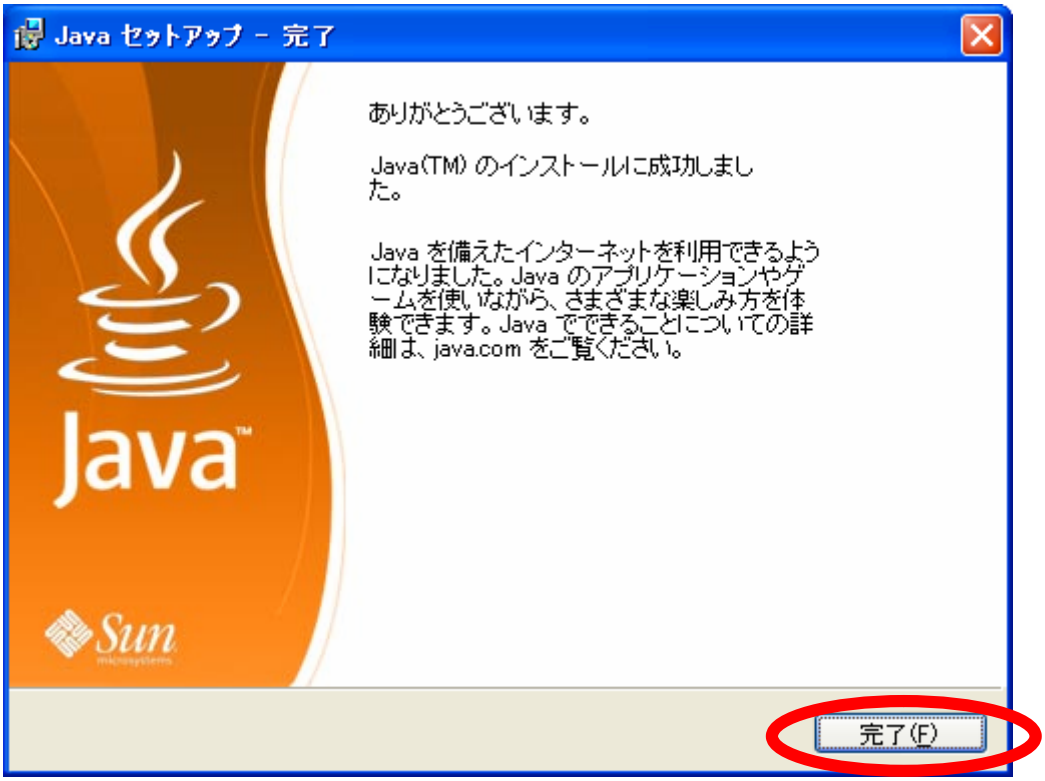


③ お使いのパソコンにツールバーがインストールされていない場合は、以下の画面が表示されます。チェックを外して〔次へ〕を押します。



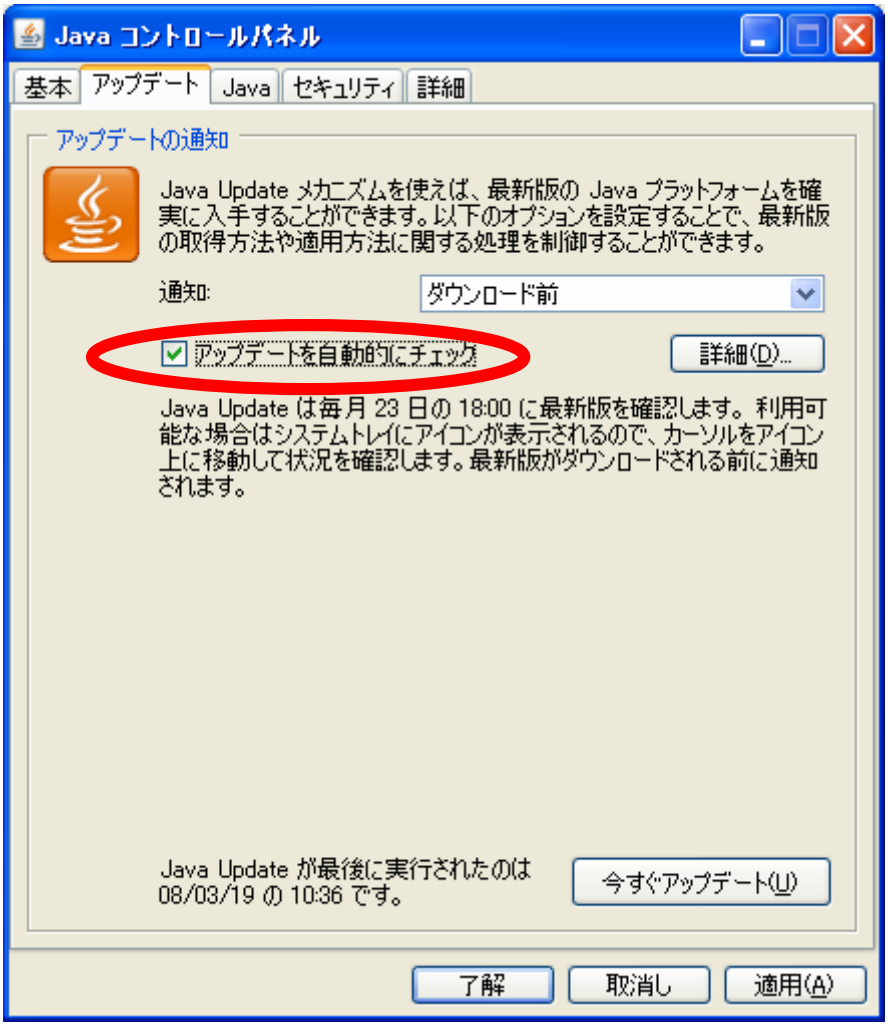
④　インストールが開始されますが、お使いのハードウェアの性能によってはしばらく時間がかかります。

⑤　画面中央に以下のとおり「インストールに成功しました」と表示されれば、インストールが正しく行われています。[完了]ボタンを押してインストール作業を終了させてください。

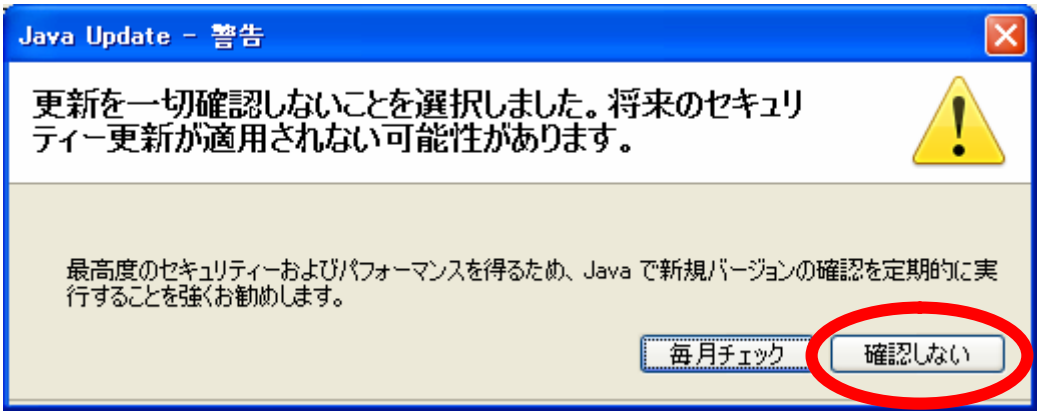


⑥　インストール完了後、Java 実行環境の自動アップデート機能を停止させる必要があります。
コントロールパネルより[Java]を起動してください。

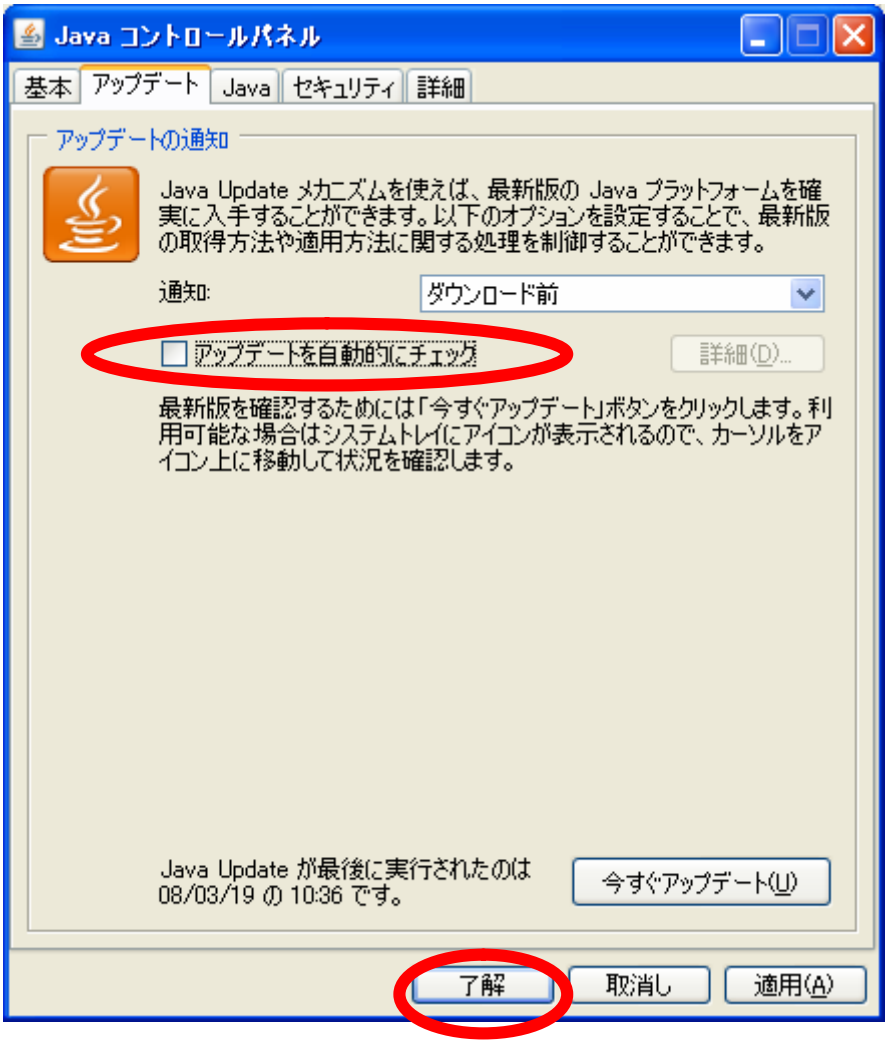
⑦　Java コントロールパネルの[アップデート]タブを選択し、[アップデートを自動的にチェック]についているチェックをクリックし外します。



⑧　この時、以下の警告が表示されますが[確認しない]ボタンを押してください。



⑨　[アップデートを自動的にチェック]のチェックが外れていることを確認し[了解]ボタンを押し、Java コントロールパネルを終了させてください。



⑩　プログラムを有効にするため、必ず PC を**手動で再起動**してください。

3.3. TypeA ご利用ソフトのインストール

「TypeA ご利用ソフト」をインストールします。

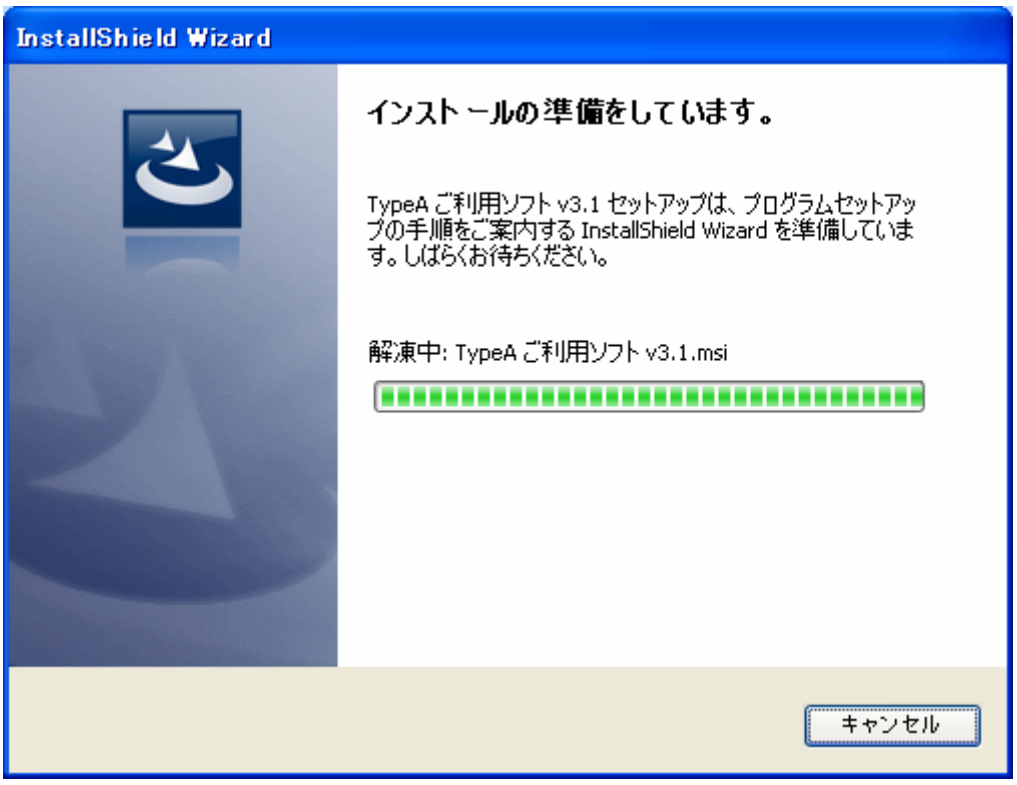
準備

インストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

手順

① 「3.1 IC カードリーダドライバのインストール」の③で展開したフォルダ内の「setup.exe」を起動し、インストールを開始します。

② 開始後、以下のような画面が表示されます。



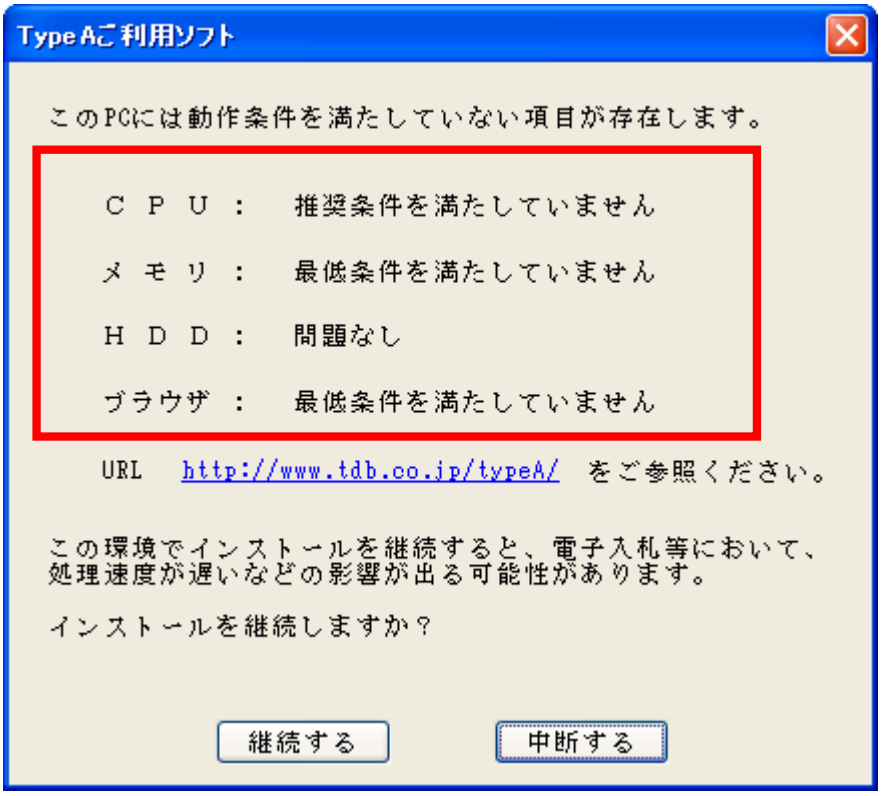
上記画面の表示後、以下のような項目に対して確認を行っているため、お使いのＰＣ環境によっては、しばらくお待ちいただく必要があります。
条件に適合している場合は③の画面が表示され、条件に不適合の場合には以下のような警告メッセージ画面が表示されるため、環境の見直しをおすすめします。

●動作ＯＳチェック
●パソコンの動作条件チェック
●ユーザ名・ドメイン名の２バイト文字チェック

★インストールする PC 環境のＯＳが TypeA ご利用ソフトの動作条件を満たしていない場合
TypeA ご利用ソフトの動作条件を満たしていない場合には、以下のようなメッセージが表示されます。内容を確認し、動作条件を満たすＯＳへインストールするようにしてください。

★インストールする PC 環境が TypeA ご利用ソフトの推奨する動作条件を満たしていない場合

TypeA ご利用ソフトの推奨する最低スペック、推奨スペックを満たしていない場合は、以下のようなメッセージが表示されます。全ての項目が動作条件を満たしている場合は、以下のようなメッセージは表示されません。



PC 動作条件判定基準

判定項目	ＯＳ	「問題なし」表示	「推奨条件を満たしていません」表示	「最低条件を満たしていません」表示
ＣＰＵ	Windows 2000 Windows XP	1200MHz クロック以上	800MHz クロック以上 ～ 1200MHz クロック未満	800MHz クロック 未満
	Windows Vista	1600MHz クロック以上	－	1600MHz クロック 未満
メモリ	Windows 2000 Windows XP	512MB 以上	256MB 以上 ～ 512MB 未満	256MB 未満
	Windows Vista	1024MB 以上	－	1024MB 未満
ＨＤＤ	Windows 2000 Windows XP	500MB 以上	－	500MB 未満
	Windows Vista	1.0GB 以上	－	1.0GB 未満
ブラウザ	Windows 2000	IE6.0 SP1	－	IE6.0 SP1 未満(IE6.0/5.5 等)
	Windows XP	IE6.0 SP2 IE7.0	－	IE6.0 SP2 未満(IE6.0 等)
	Windows Vista	IE7	－	－

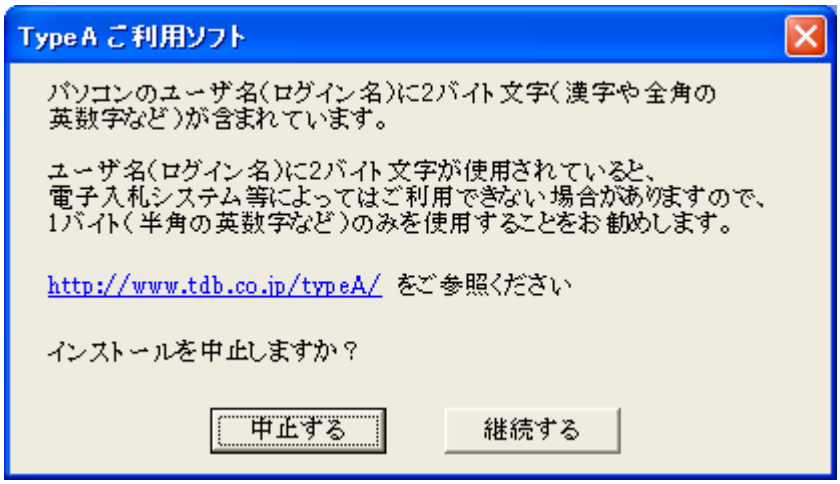
上記、メッセージが表示された場合は電子入札等において、処理速度が遅いなどの影響が出る可能性があるため、「中断」ボタンを押して、別パソコンに TypeA ご利用ソフトをインストールすることをおすすめします。
このままご使用になる場合は「継続」ボタンを押して初期セットアップを完了させてください。

★インストールするパソコンのユーザ名・ドメイン名に２バイト文字が含まれている場合

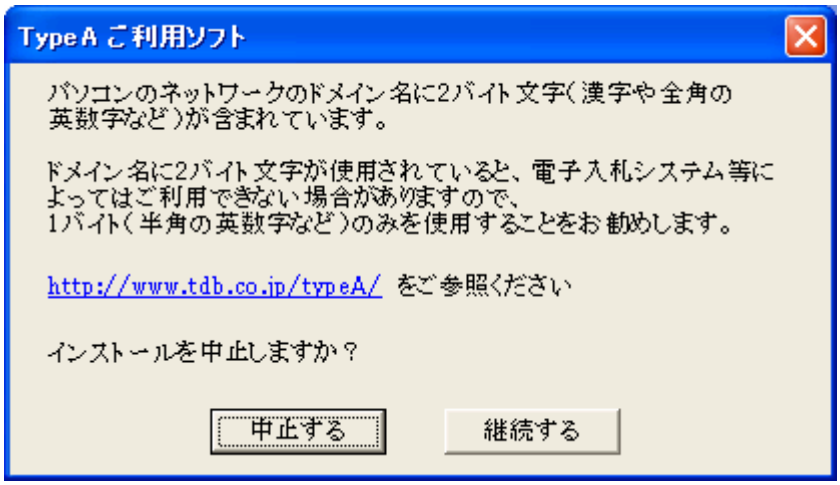
パソコンのユーザ名及びドメイン名に２バイト文字（漢字や全角の英数字など）が含まれている場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

２バイト文字が含まれた環境では、電子入札システム等にてご利用できない場合がありますので、「中止する」ボタンを押してインストールを中断し、１バイト文字（半角の英数字など）に変更してからインストールすることをおすすめします。

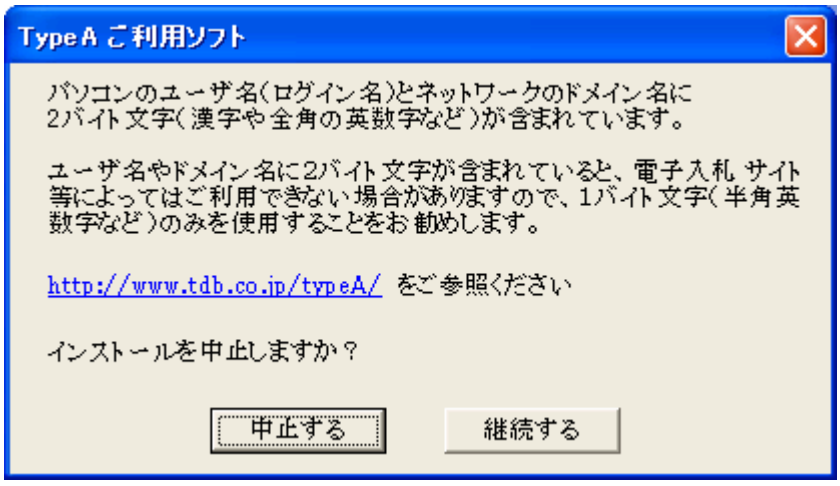
●ユーザ名（ログイン名）に２バイト文字が含まれている場合のメッセージ



●ドメイン名に２バイト文字が含まれている場合のメッセージ

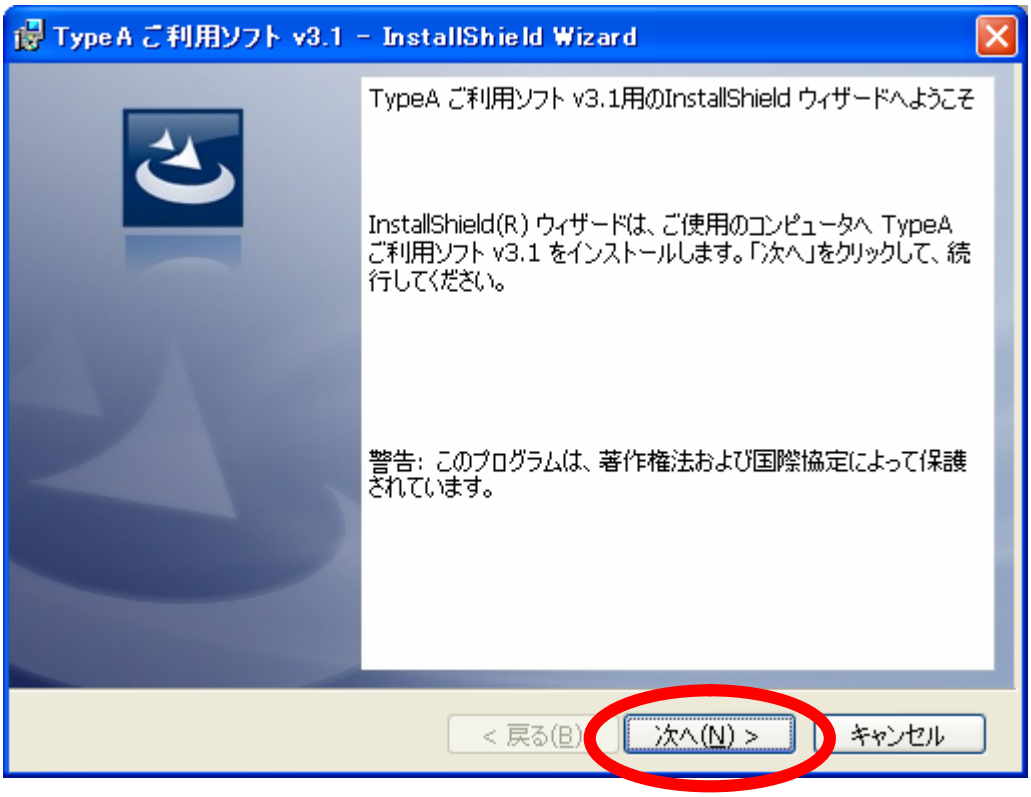


●ユーザ名（ログイン名）、ドメイン名両方に２バイト文字が含まれている場合のメッセージ

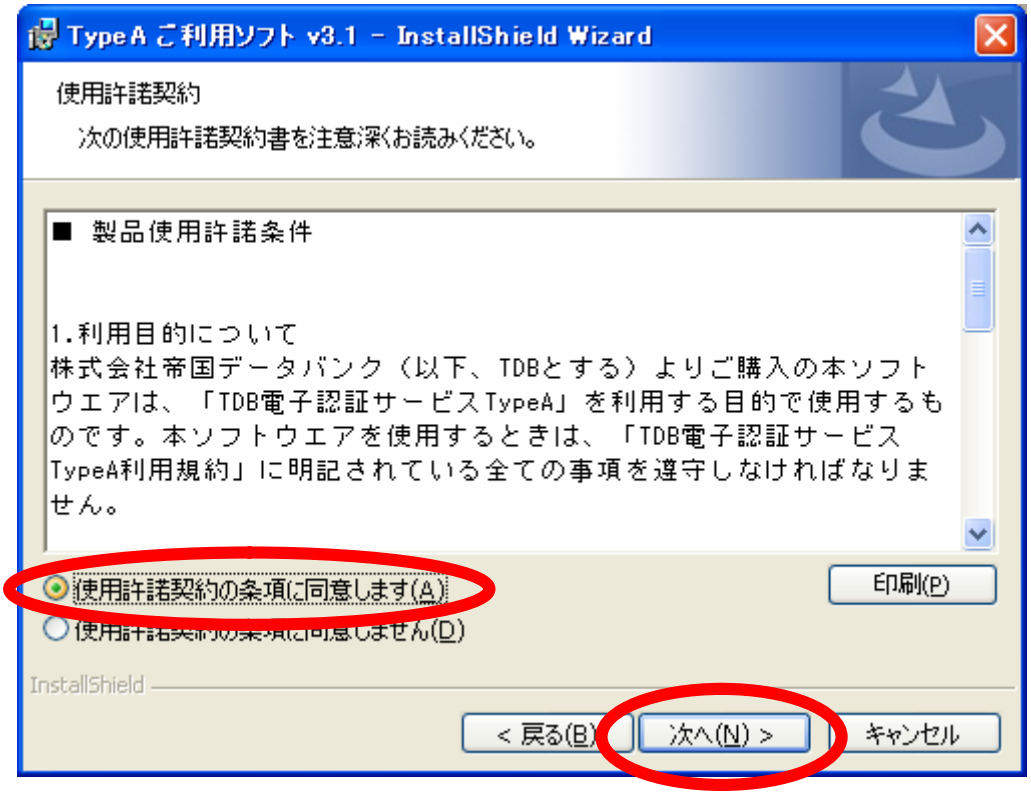


※ ユーザ名（ログイン名）とドメイン名に関する制限につきましては、電子入札コアシステム開発コンソーシアムの【電子入札コアシステムを利用する応札者向け制限事項の周知について】を併せてご確認ください。
URL： http://www.cals.jacic.or.jp/coreconso/parts/ousatu.pdf

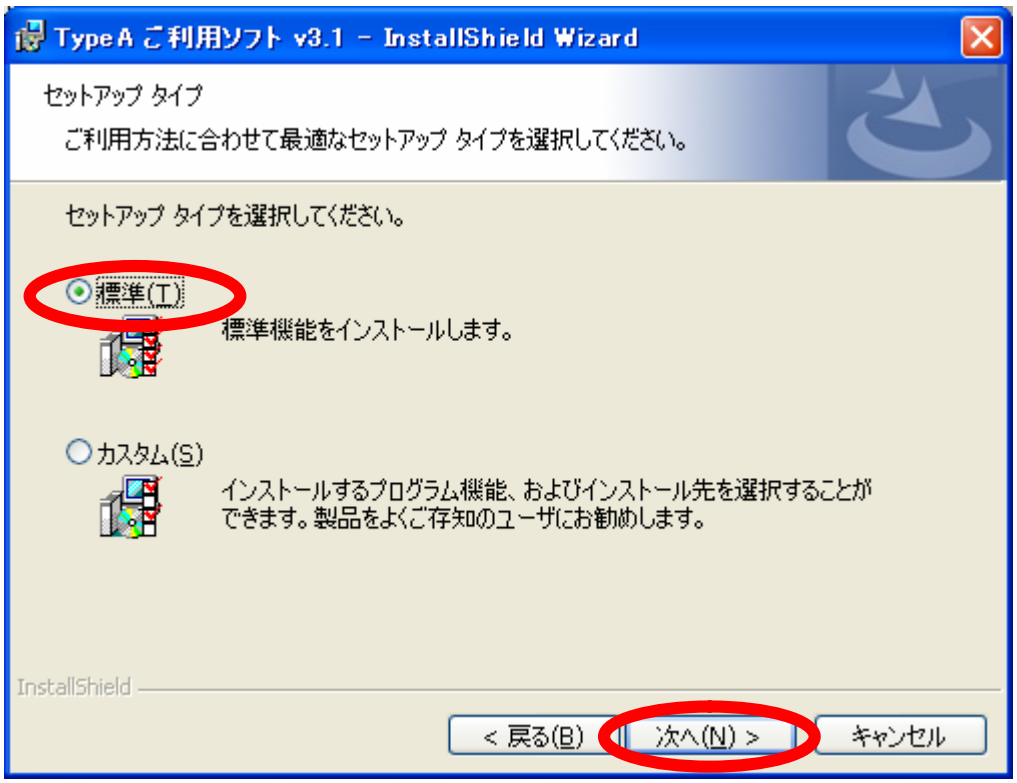
③ インストールの準備に問題がなければ以下の画面が表示されますので、[次へ]ボタンを押してください。



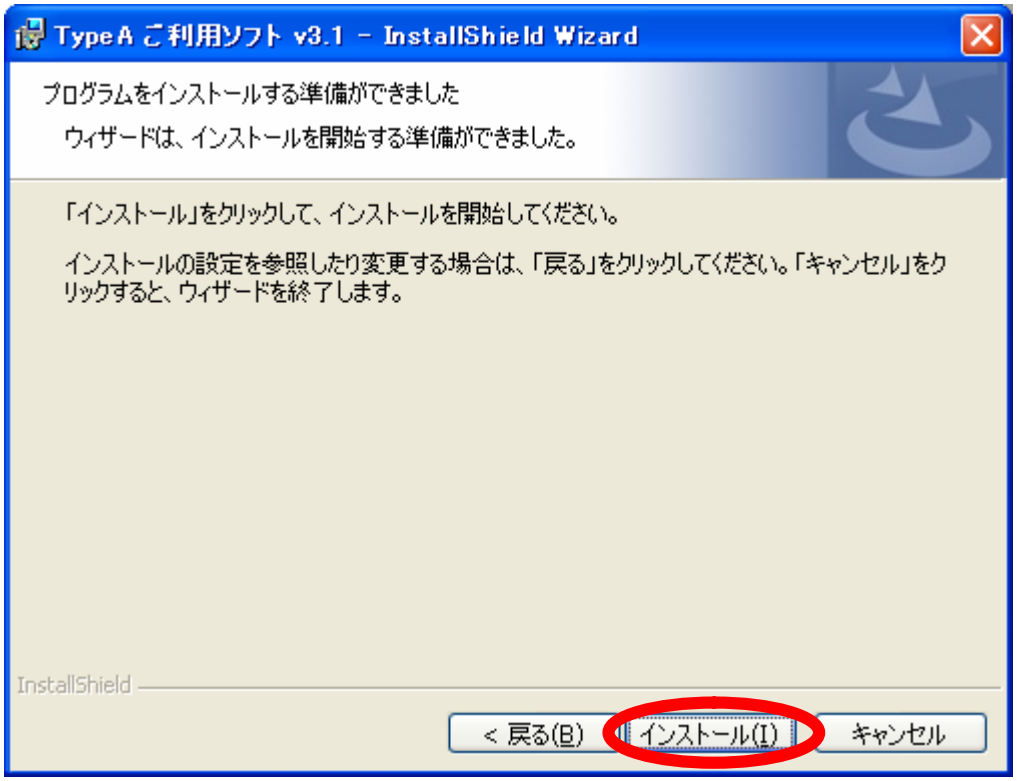
④ 使用許諾契約条件をお読みになり、同意されましたら[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]ボタンを押してください。

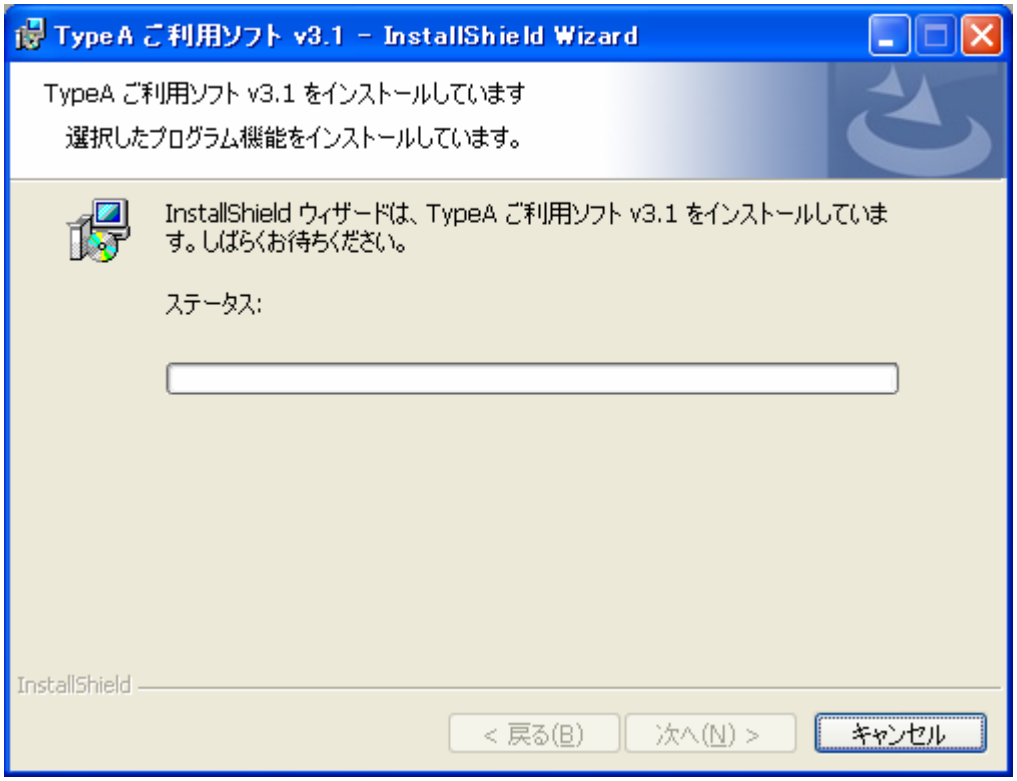


⑤　セットアップタイプの選択画面が表示されますが、問題がない限り[標準]を選択し[次へ]ボタンを押してください。

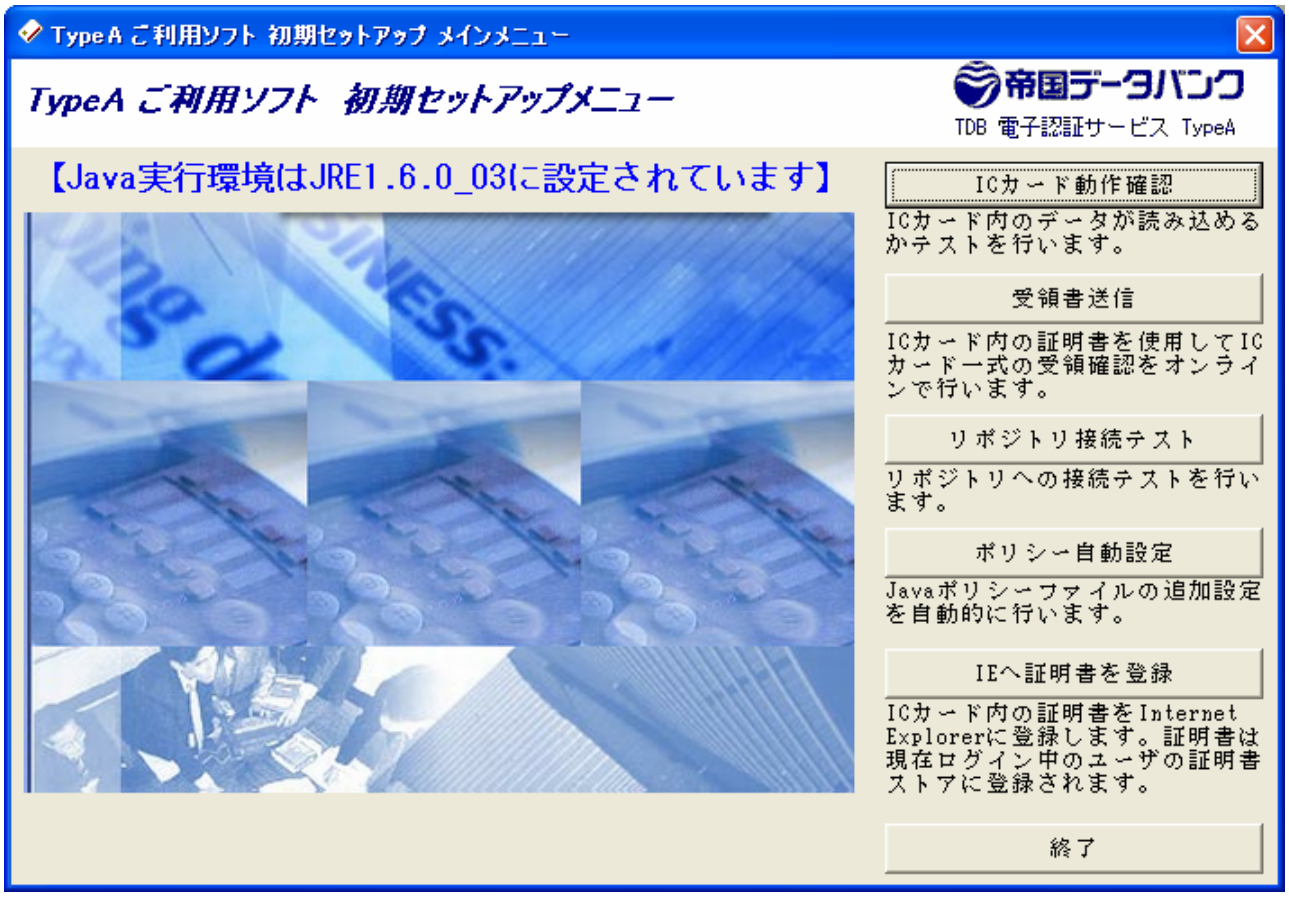


⑥　[インストール]ボタンを押し、インストールを開始してください。
次ページのような画面が表示されます。



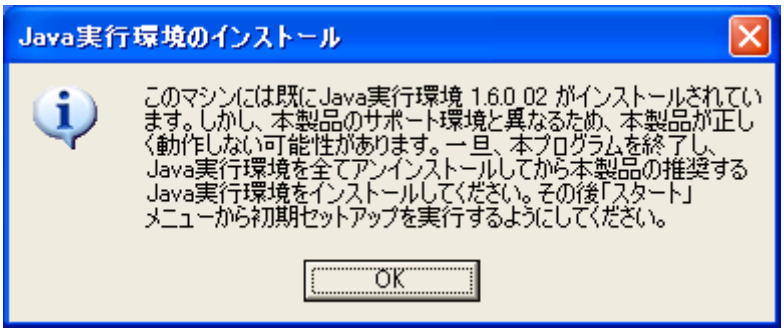


⑦　インストールが完了すると、「初期セットアップ」画面が表示されます。
詳細は29ページの「初期セットアップ（環境設定）」にて説明します。



★Java 実行環境の環境判定外のバージョンがインストールされている場合

インストール済みの Java 実行環境バージョンが環境判定外のバージョンの場合には、以下のようなメッセージが表示されます。



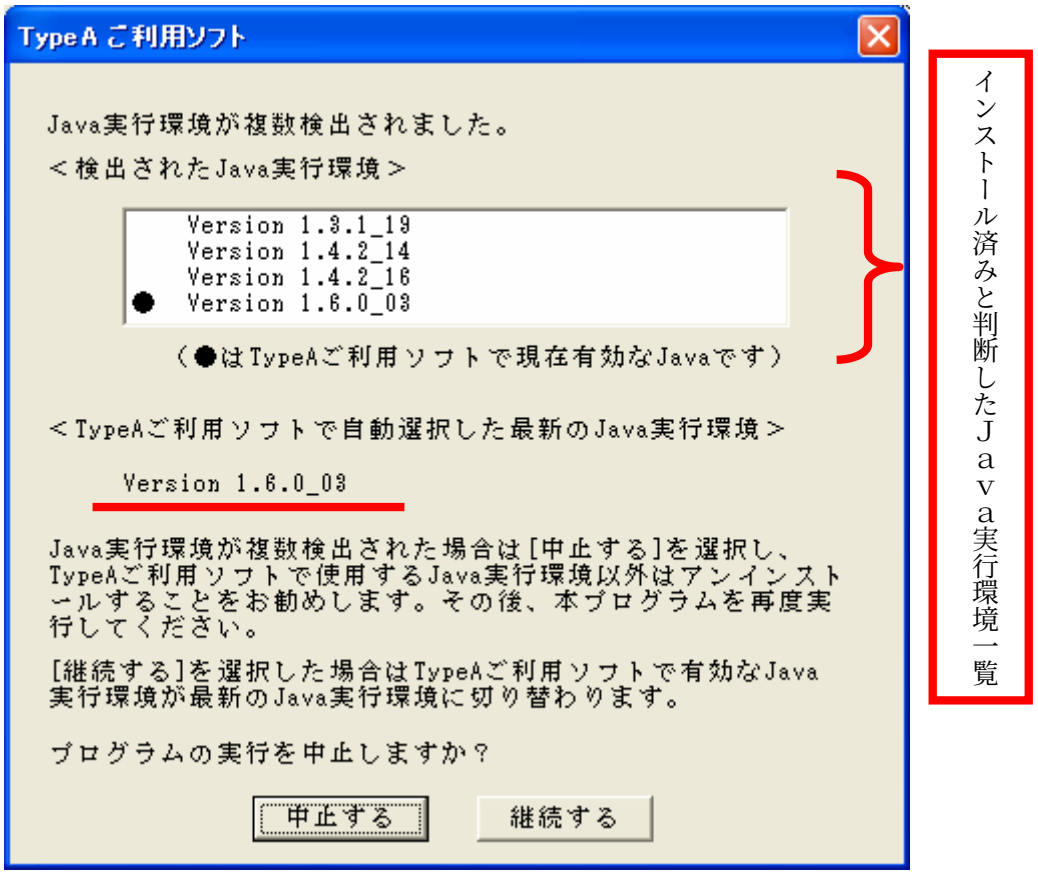
Java 実行環境にてサポート環境と判定されるバージョン一覧

・JRE 1.3.1_09 ～ JRE 1.3.1_20
・JRE 1.4.0_01 ～ JRE 1.4.2_17
・JRE 5.0(1.5.0) ～ JRE 5.0 Update 15(1.5.0_15)
・JRE 6.0 Update 3(1.6.0_03)

初期セットアップが正常に完了しない場合は各種ツール含め電子入札・電子申請など全ての機能が動作しません。
現在の Java 実行環境をアンインストールしてから適切な Java 実行環境をインストール後、スタートメニューより[帝国データバンク]－[TDB 電子認証サービス TypeA]－[初期セットアップ]を起動し、初期セットアップを完了させてください。

★Java 実行環境に複数のバージョンがインストールされている場合

お使いのパソコンに複数の Java 実行環境がインストールされている場合には、以下のようなメッセージが表示されます。



初期セットアップ中に複数の Java 実行環境が検出された場合は、TypeA ご利用ソフト用として、最新バージョンの Java 実行環境が自動選択されます。

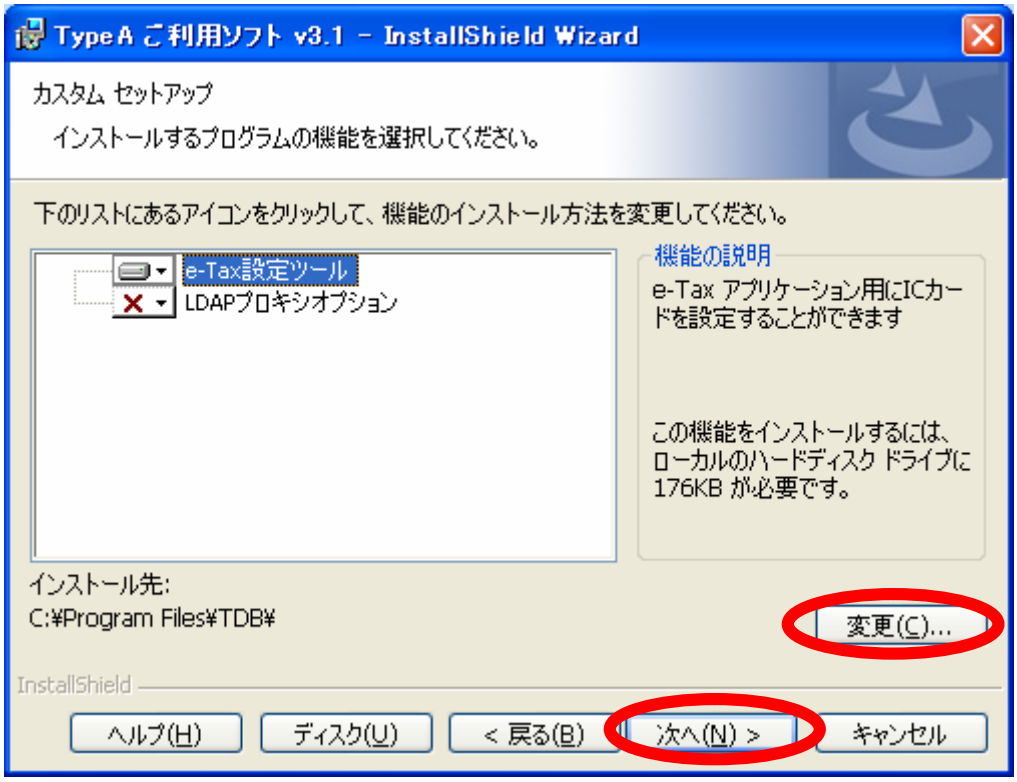
発注機関が推奨するバージョンと自動選択された Java 実行環境が異なる場合は、「中止する」ボタンを押してください。その後、現在の自動選択された Java 実行環境をアンインストールしてから、発注機関が推奨するバージョンの Java 実行環境をインストールし、スタートメニューより[帝国データバンク]－[TDB 電子認証サービス TypeA]－[初期セットアップ]を起動し、初期セットアップを完了させてください。

自動選択された Java 実行環境に問題がなければ「継続する」ボタンを押し、初期セットアップを完了させてください。

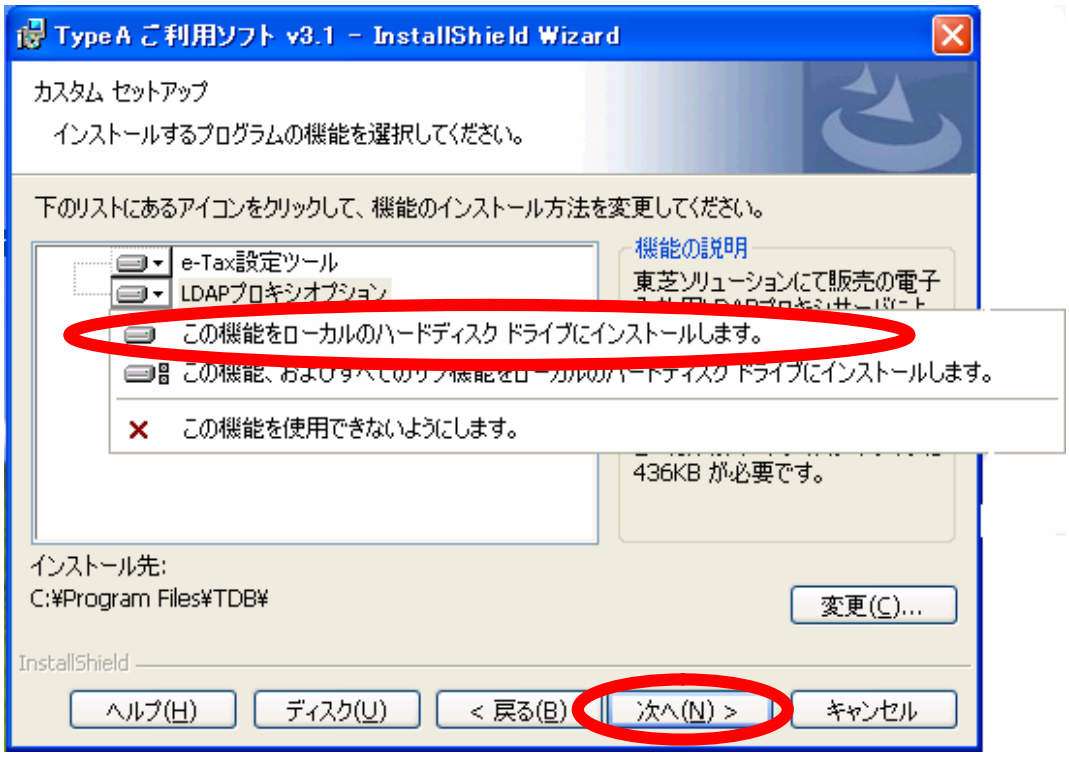
なお、初回インストール時には「●」は表示されません。

★⑤で[カスタム]を選択した場合

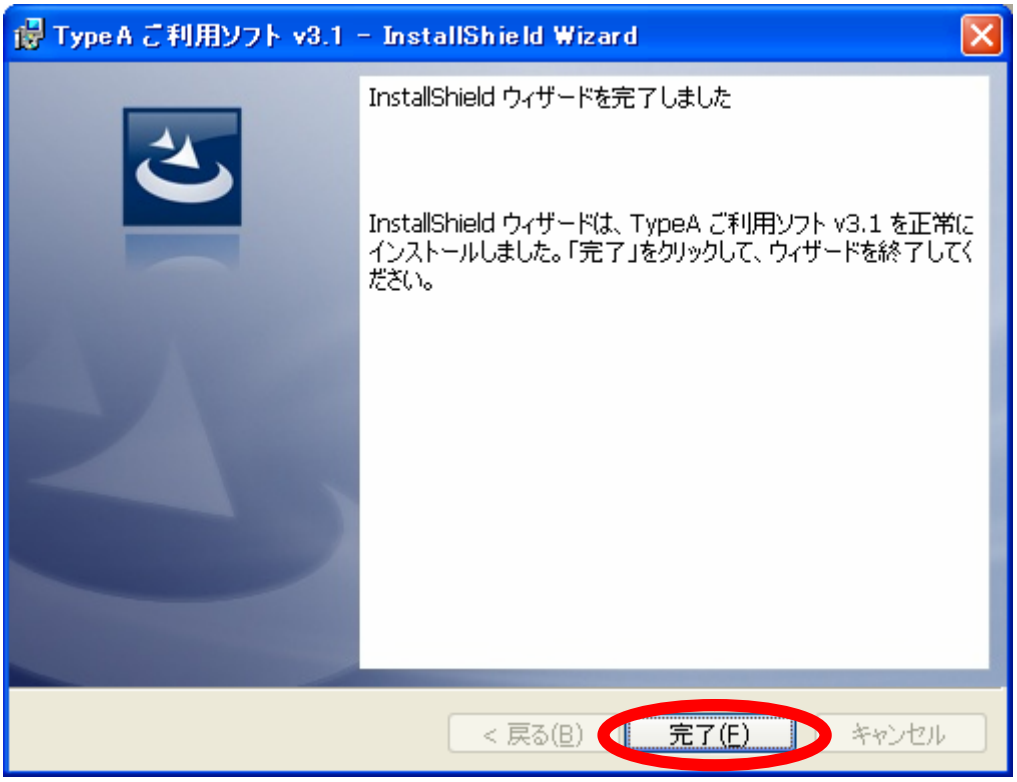
[カスタム]を選択後、[次へ]ボタンを押すことにより以下の画面が表示され、オプションツールのインストールについて設定を行うことが出来ますが、通常は[標準]を選択しておいてください。
また、インストール先を変更する場合は「変更」ボタンにて変更することができます。



ＬＤＡＰプロキシオプションは、インストールしない設定になっているため、ご利用になる場合には以下のように「この機能をローカルのハードディスクにインストールします」を選択し「次へ」ボタンを押してください。

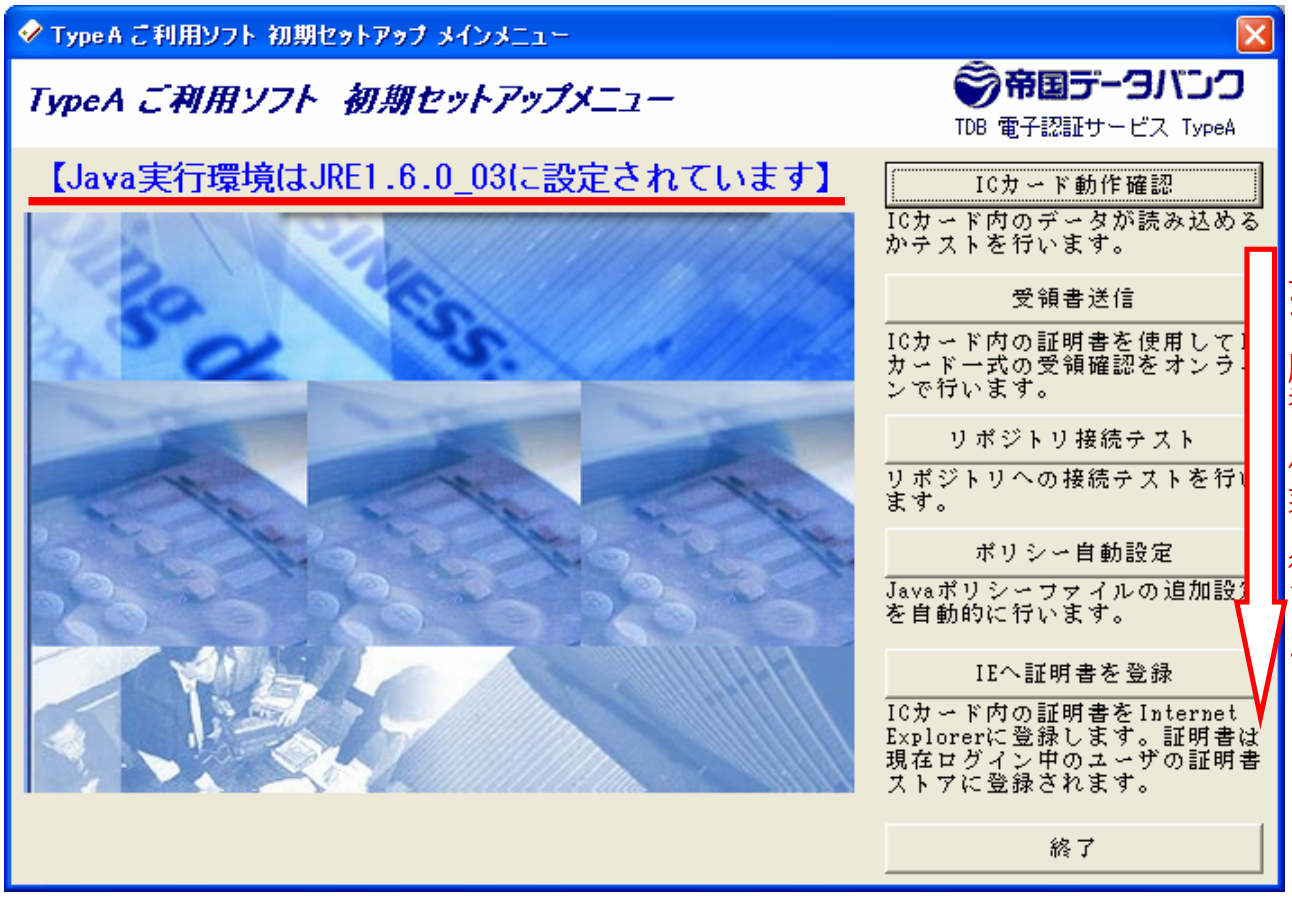


⑧　初期セットアップ含めインストールが完了すると、以下の画面が表示されます。[完了]ボタンを押してください。



初期セットアップ（環境設定）

「TypeA ご利用ソフト 初期セットアップメニュー」（以下、「初期セットアップメニュー」）がインストールの最後に自動的に起動されます。



「初期セットアップメニュー」を起動すると自動判別した Java 実行環境が上部に表示されます。
ここに表示された Java 実行環境バージョンと、お使いになる発注機関が推奨する Java 実行環境バージョンが違う場合は、現在インストールしてある Java 実行環境をアンインストールし発注機関が推奨する Java 実行環境をインストールし、「初期セットアップメニュー」を起動してください。
また、Java 実行環境を入れかえた時は、TypeA ご利用ソフトで有効とするための設定として、必ず「初期セットアップメニュー」を実行してください。

3.4. IC カード動作確認

3.4.1. IC カード動作確認

以下の３点について、確認を行います。

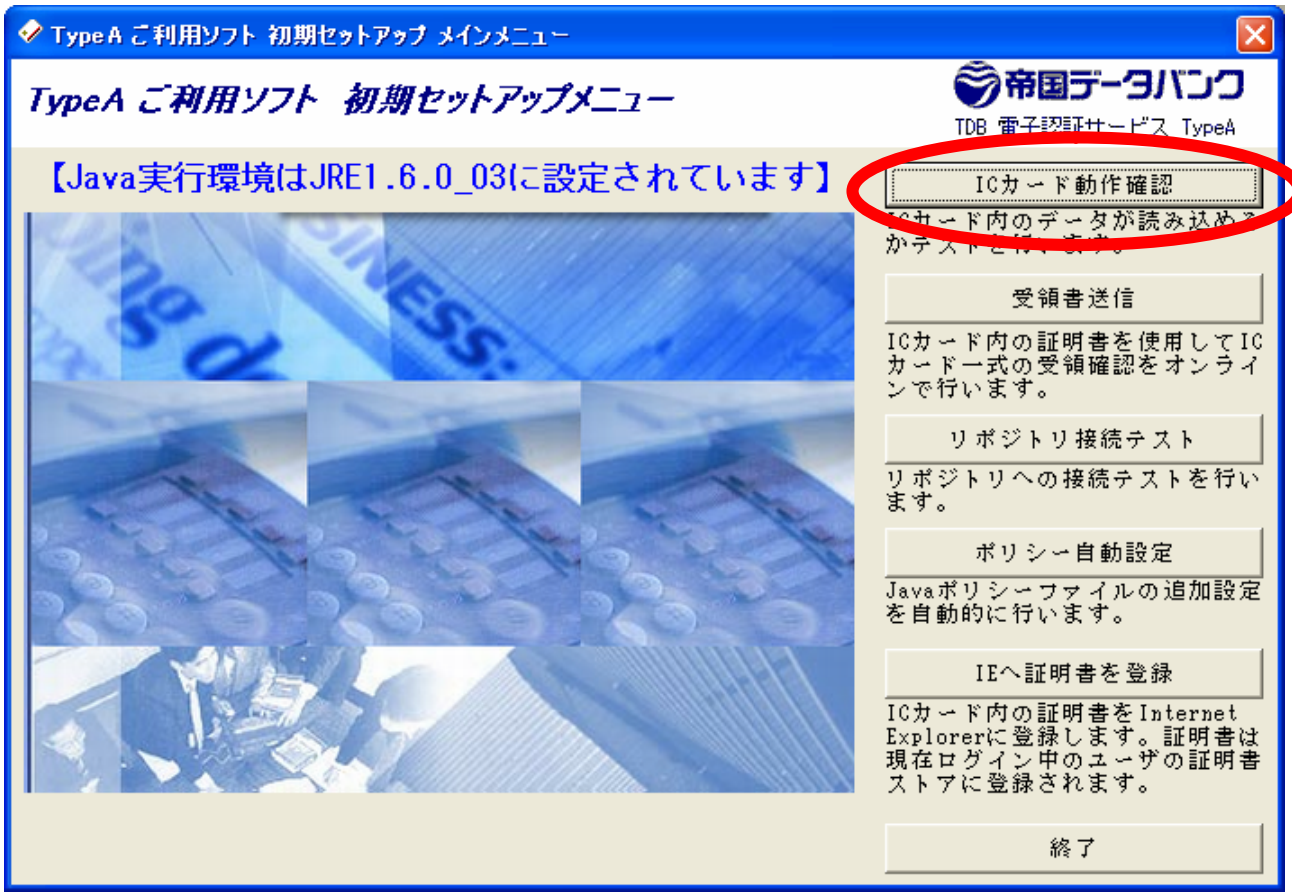
1. 「IC カードリーダ ドライバソフト」、「Java 実行環境」、および「TypeA ご利用ソフト V3.1」の各種インストール作業が正しく行われていること
2. IC カードに格納されている電子証明書の記載内容に誤りがないこと
3. IC カードに初期不良がなく、使用が可能であること

準備

インストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。
IC カードリーダが、お使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

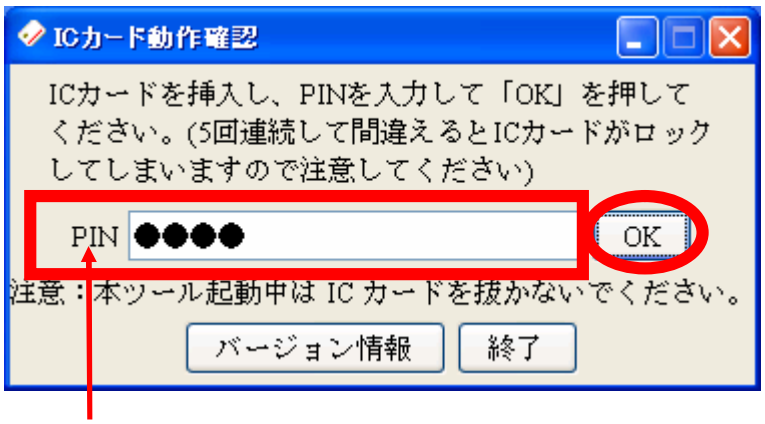
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[IC カード動作確認]ボタンを押します。
IC カード動作確認ツール起動時に、TDB 電子認証サービス TypeA の認証局証明書が自動的にお使いのパソコンに読み込まれます。



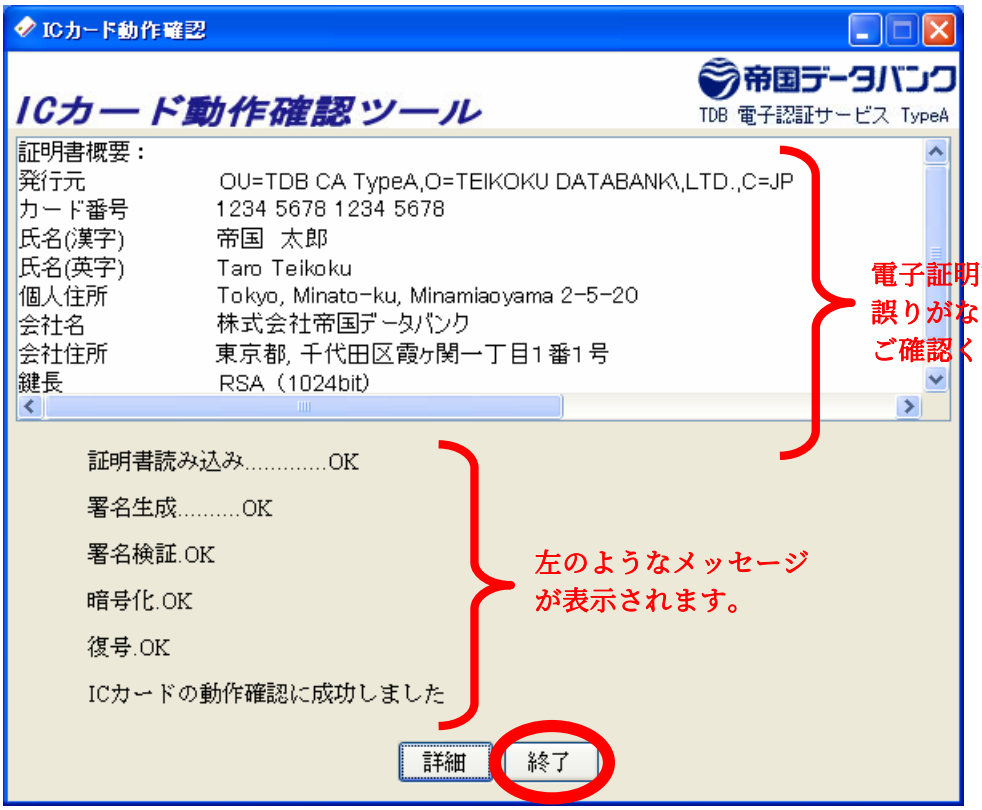
《ご参考》IC カード動作確認ツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [IC カード動作確認] を選択することでも起動できます。

② PIN 入力ウィンドウが表示されますので、IC カード用 PIN 通知書に記載された「IC カード用 PIN」（暗証番号）を入力し、[OK]ボタンを押してください。



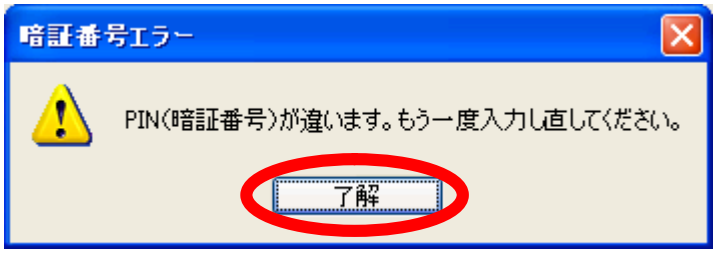
PIN を入力すると、「●または＊」が表示されます。

③　IC カードが正常な場合、以下のようなメッセージが表示されます。証明書の記載内容に誤りがないか確認します。
確認できましたら、[終了]ボタンを押してください。



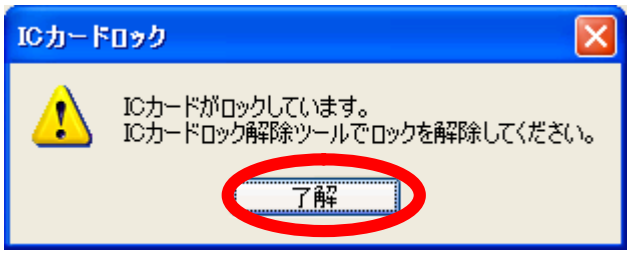
★PIN が正しく認識されない場合

PIN を入力した際、次のようなメッセージが表示された場合、PIN が間違っています。
[了解]ボタンを押して PIN をご確認の上もう一度入力してください。
５回連続して入力を間違えますと、IC カードがロックしますので、お気をつけください。
なお IC カードをロックさせてしまった場合には、IC カードのロックを解除し、使用してください（詳細は、50ページの「4.1　IC カードロック解除ツール」をご参照ください）。

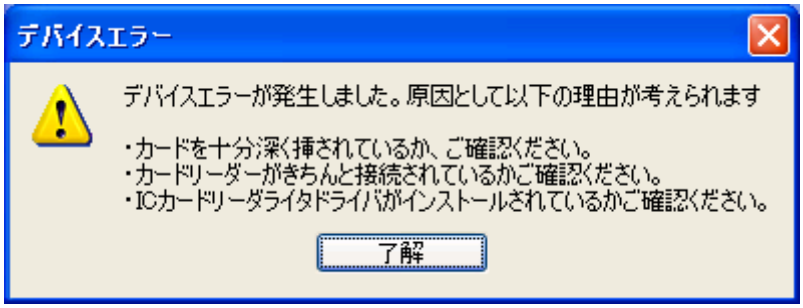


★IC カードがロックしている場合

PIN を入力した際、次のようなメッセージが表示された場合、IC カードがロックされています。IC カードロック解除ツールでロックを解除してください。
詳細は、50ページの「4.1　IC カードロック解除ツール」をご参照ください。

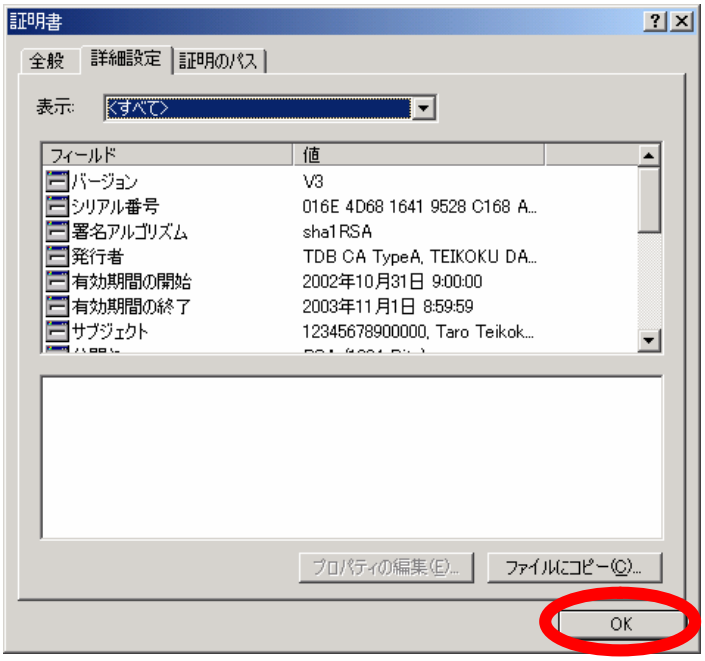


以下のようなメッセージが表示された場合、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。



《ご参考》[詳細]ボタンを押すか、概要表示部分をダブルクリックしますと、Internet Explorer の機能を使用して、IC カード内に格納された電子証明書の詳細がご参照いただけます。

電子証明書の詳細が表示されます。終了する場合には[OK]ボタンを押してください。



3.4.2. 受領書送信

受領書送信は、お客さまご自身のICカードを確かに受領したことを、インターネットを経由して電子認証局に通知するためのもので、電子証明書の「電子署名」技術を利用しています。

準備

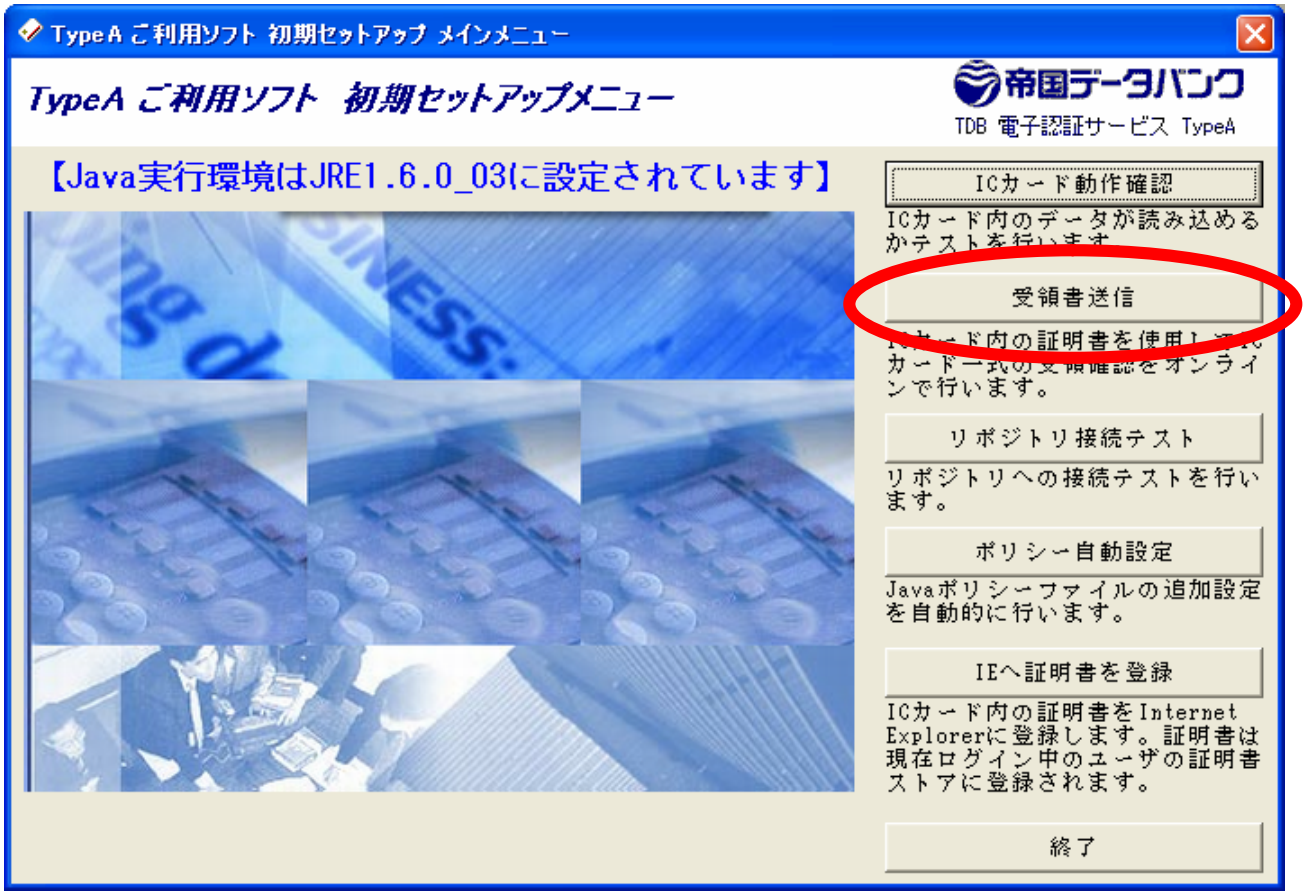
本作業は、お手持ちのICカード毎に行う必要があります。
「IC カード動作確認」で動作確認を行ったIC カードを用意してください。

重要

9ページの「3.2 Java実行環境のインストール」で、Java実行環境「1.3.1_19」をインストールした場合は、「受領書送信ツール更新プログラム」を一度実施する必要があります。
TDBホームページ（URL http://www.tdb.co.jp/typeA/）の、[ダウンロード]－[・TypeA更新プログラム]より、「受領書送信ツール更新プログラム実行手順書」(PDFファイル)に従って「受領書送信ツール更新プログラム」を実施してください。

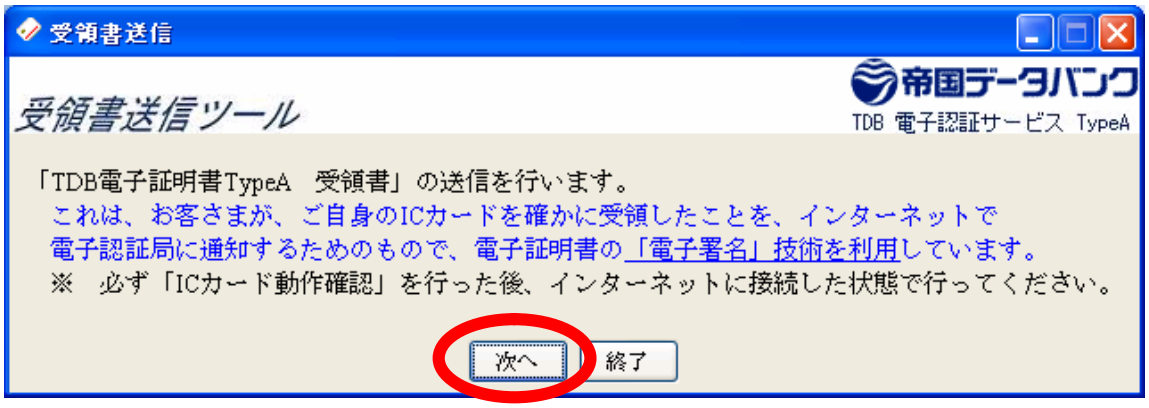
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[受領書送信]ボタンを押します。

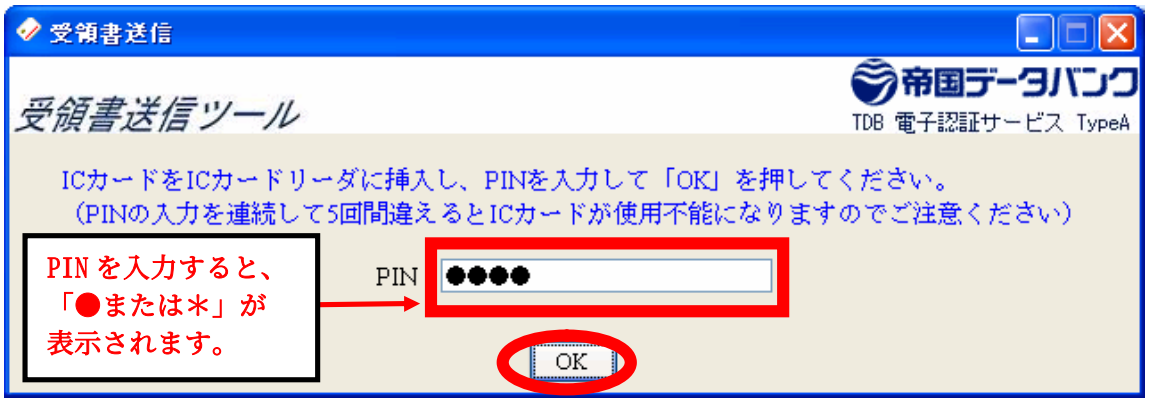


《ご参考》受領書送信ツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [受領書送信] を選択することでも起動できます。

② 以下の案内画面が表示されます。画面のメッセージをご確認の上、[次へ]ボタンを押してください。
IC カード動作確認をまだ実施していない等の理由で処理を中止する場合は[終了]ボタンを押してください。

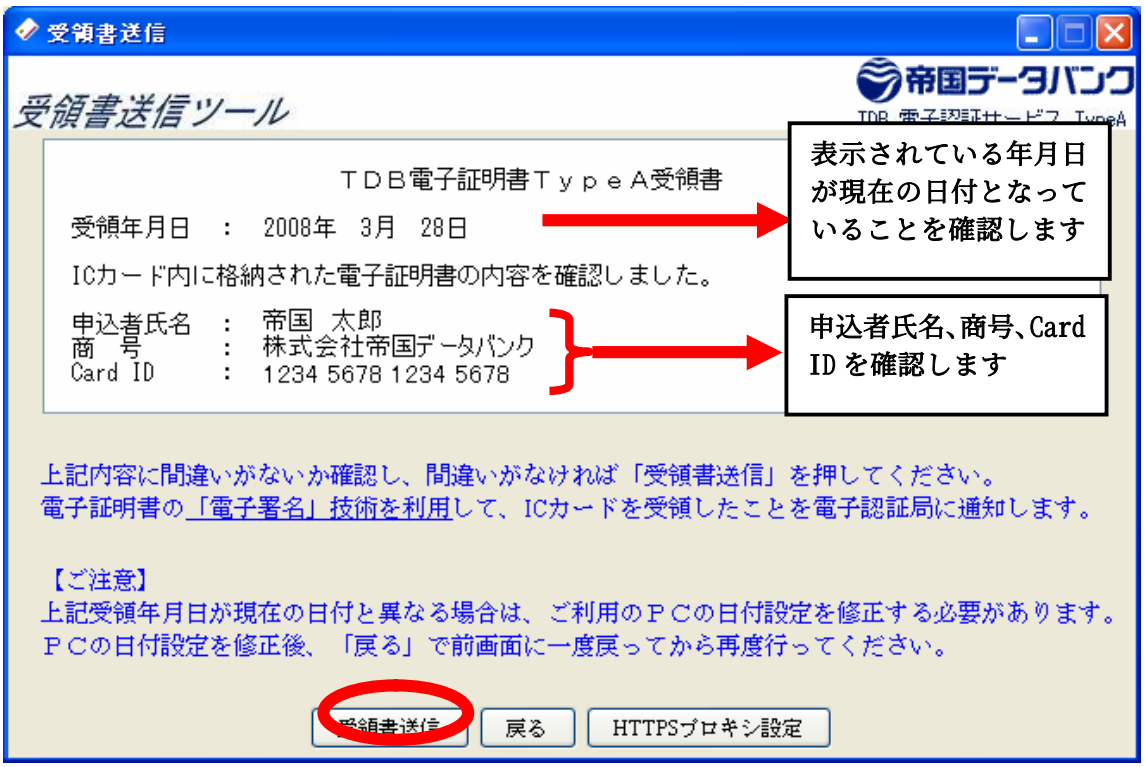


③ 以下の PIN 入力画面が表示されます。
IC カードを IC カードリーダに挿入し、PIN を入力して[OK]ボタンを押してください。



PIN を間違えたり IC カードが正しく挿入されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージの内容と対策は「IC カード動作確認」ツールと同じです。

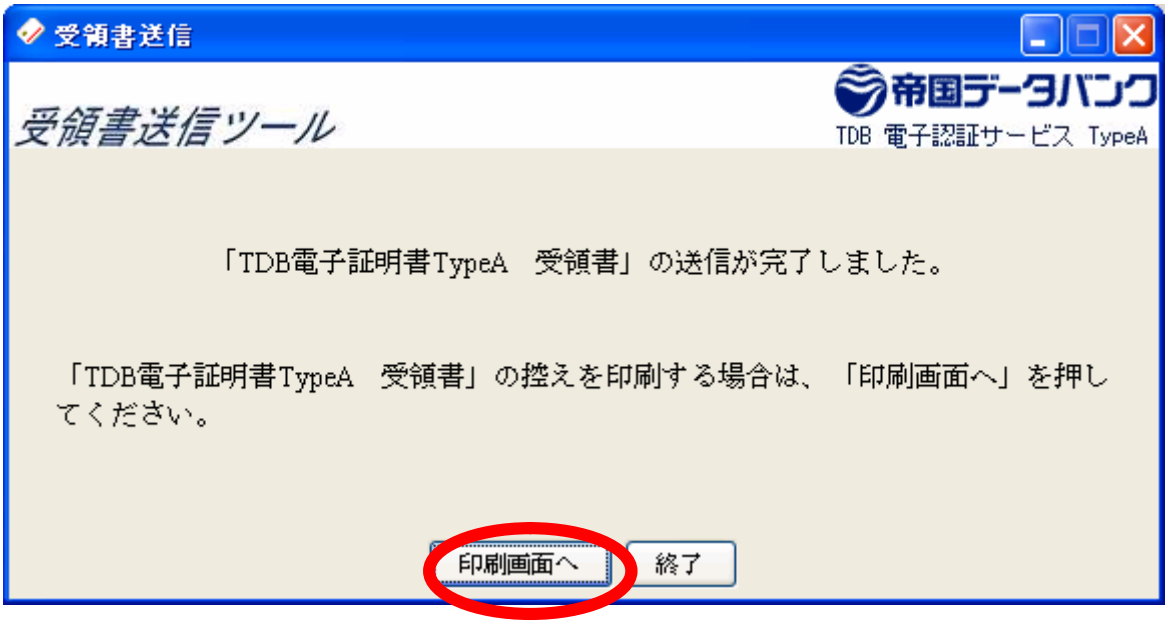
④　以下の確認画面が表示されます。
受領書の内容を確認し、[受領書送信]ボタンを押してください。



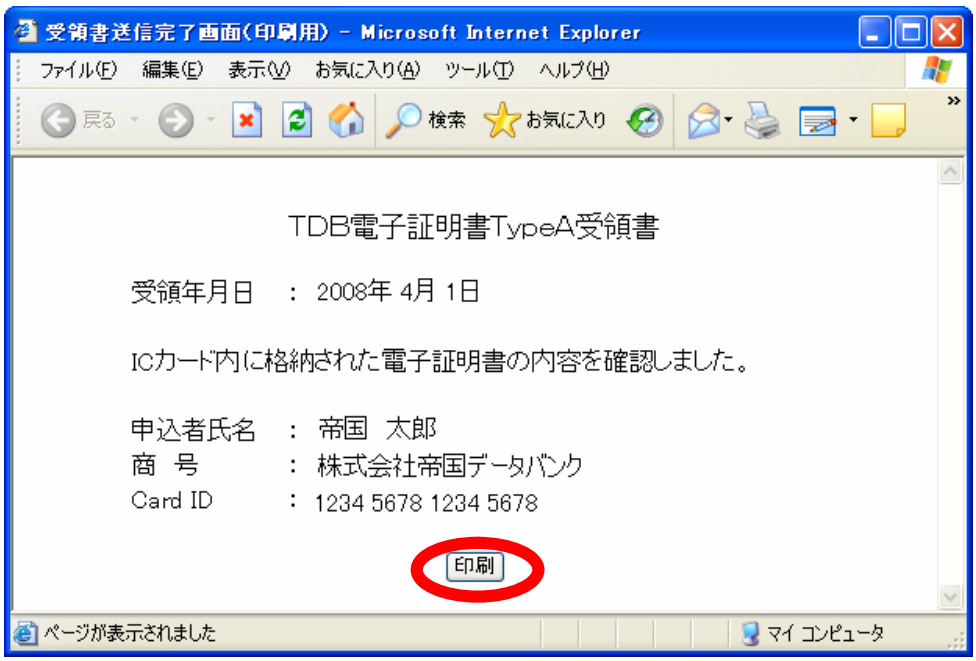
※受領年月日には現在の日付が表示されます。日付が正しくない場合は、お使いのパソコンの日付を正しく設定する必要があります。
パソコンの日付を変更後、[戻る]を押して案内画面（手順②）からやり直してください。

受領書送信でエラーが発生した場合は、78ページの「6.2　受領書送信に関するトラブルシューティング」を参照して対策を実施してください。

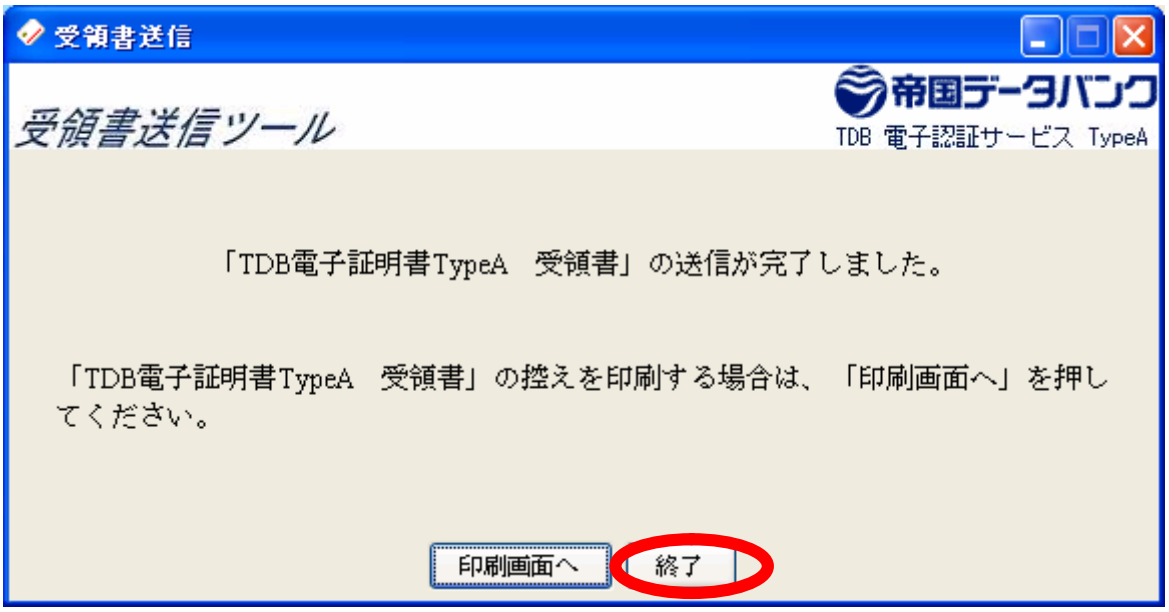
⑤　受領書の送信に成功すると、以下の完了画面が表示されます。
「TDB 電子証明書 TypeA 受領書」の控えを印刷する場合は、[印刷画面へ]を押してください。



⑥　[印刷画面へ]を押すと Web ブラウザが開き、受領書印刷用画面が表示されます。
[印刷]ボタンを押して画面を印刷し、控えとして大切に保管してください。
印刷が終了したら右上の[×]を押して画面を閉じてください。



⑦　完了画面で[終了]ボタンを押して受領書送信ツールを終了してください。



以上で、受領書の送信は完了です。
複数枚 IC カードをお持ちの場合は、IC カード毎にそれぞれ手順①から⑦までを実施してください。

3.5. リポジトリ接続テスト

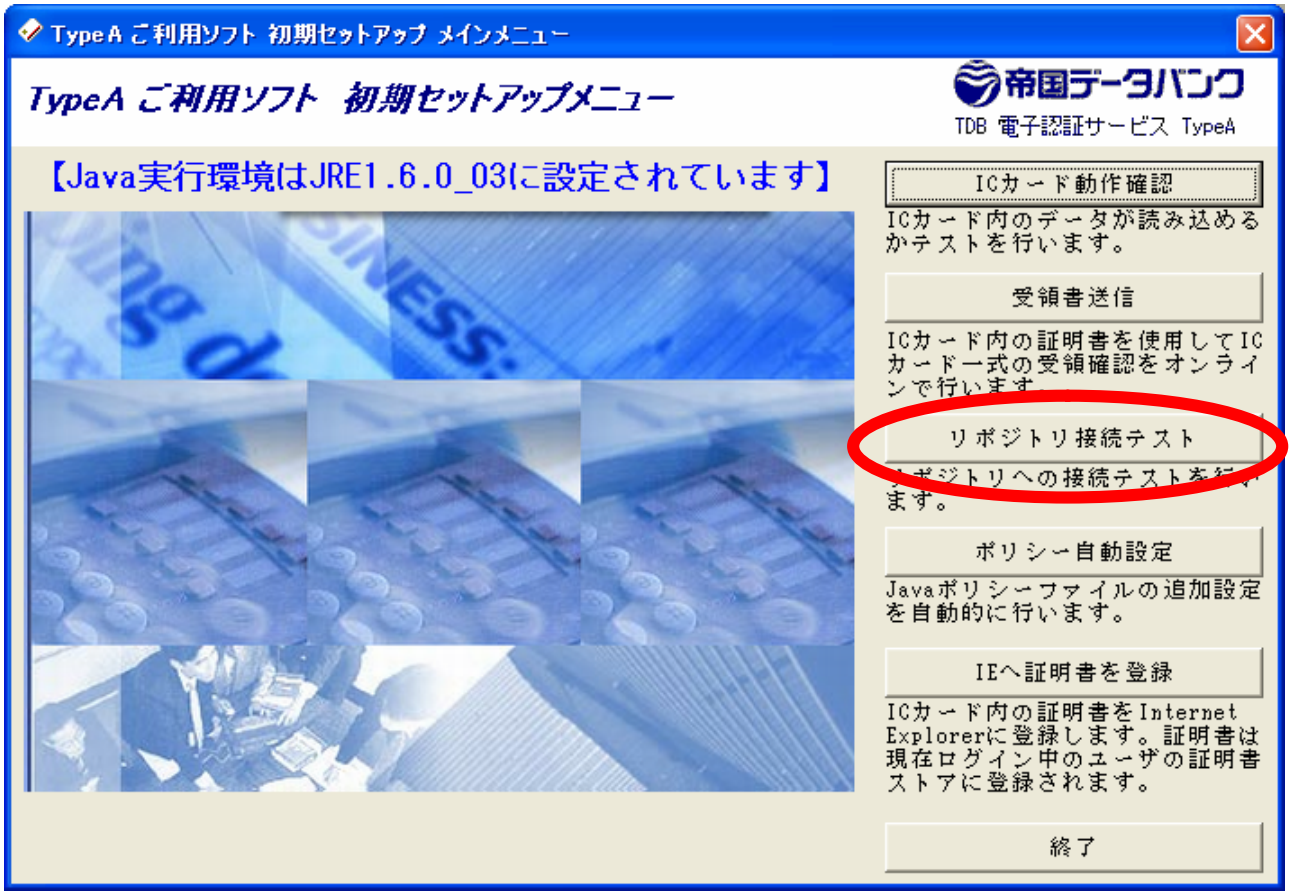
「TypeA ご利用ソフト」を使用して電子入札を行う場合には、お使いのパソコンで LDAP 通信ができる必要があります。
以下の手順にて LDAP 通信が可能であるか、テストを行います。

準備

インターネットに接続してください。

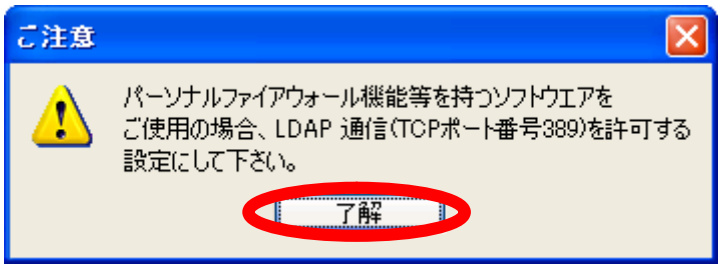
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[リポジトリ接続テスト]ボタンを押します。

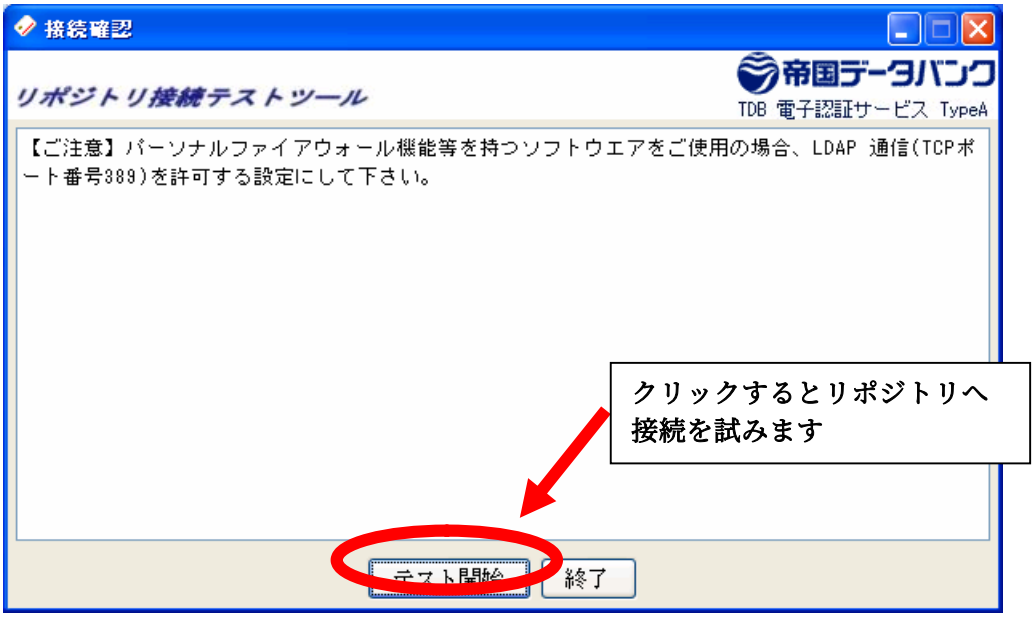


《ご参考》リポジトリ接続テストツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [リポジトリ接続テスト] を選択することでも起動できます。

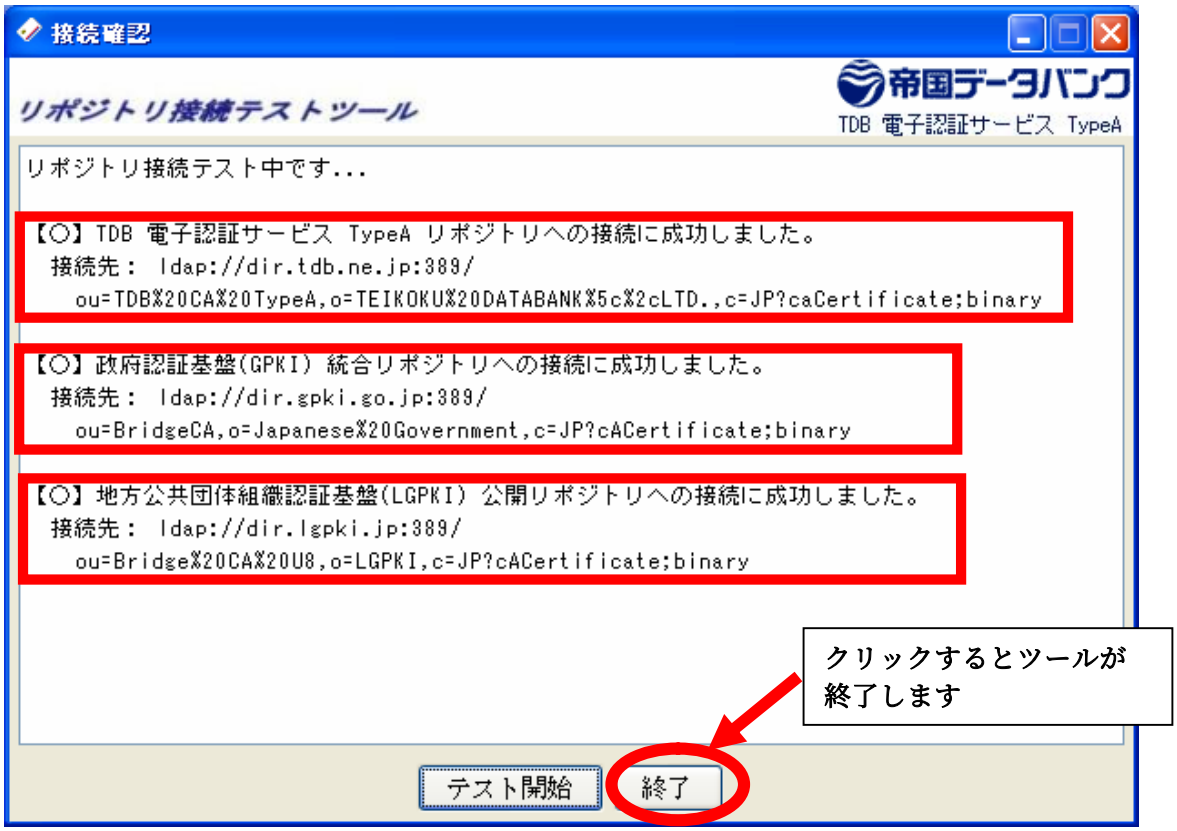
② テストツールが起動する前に、以下のメッセージが表示されます。[了解]ボタンを押してください。



③ リポジトリ接続テストツールが起動すると、以下のようなウィンドウが表示されます。[テスト開始]ボタンを押してください。



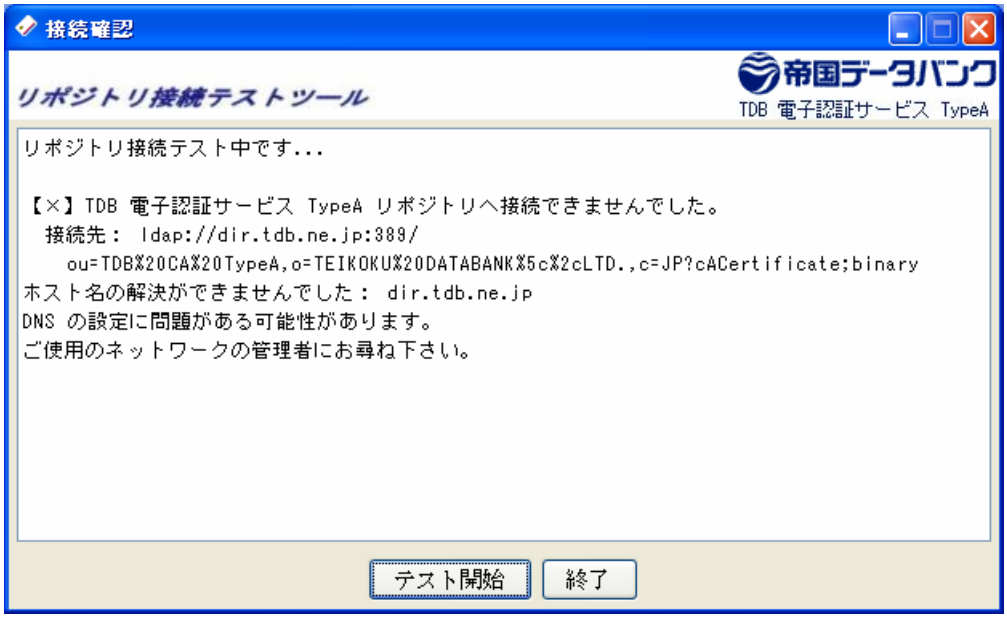
④　「接続に成功しました」というメッセージが出るとリポジトリへアクセスが可能です。
[終了]ボタンを押してツールを終了してください。



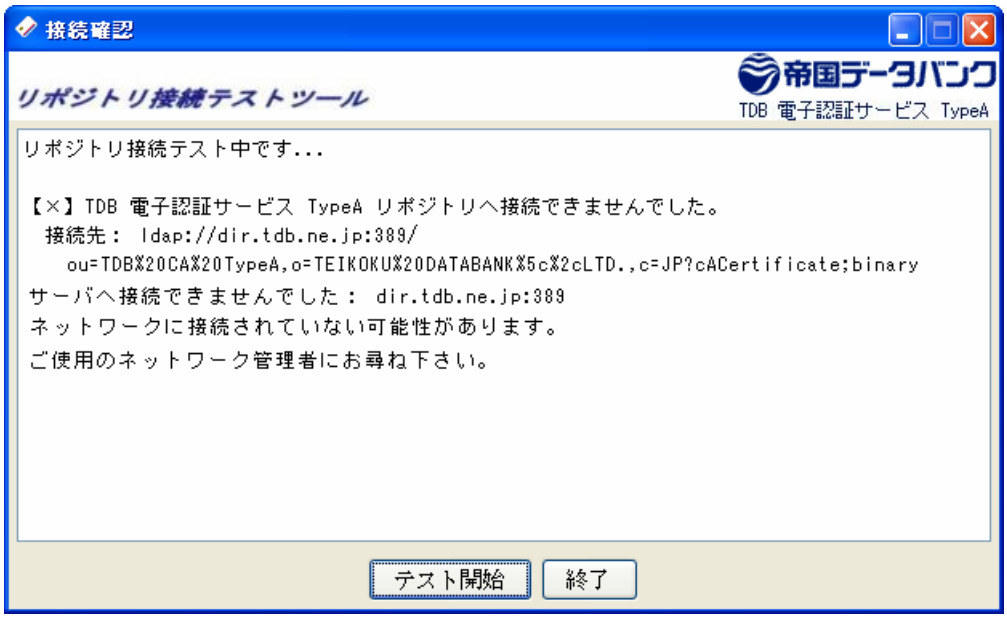
以下（A）から（E）のようなメッセージが出た場合は、ネットワークの設定が原因の可能性があります。
パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。

※注お使いのパソコン・ネットワーク環境によっては以下以外のメッセージが表示される場合もあります。

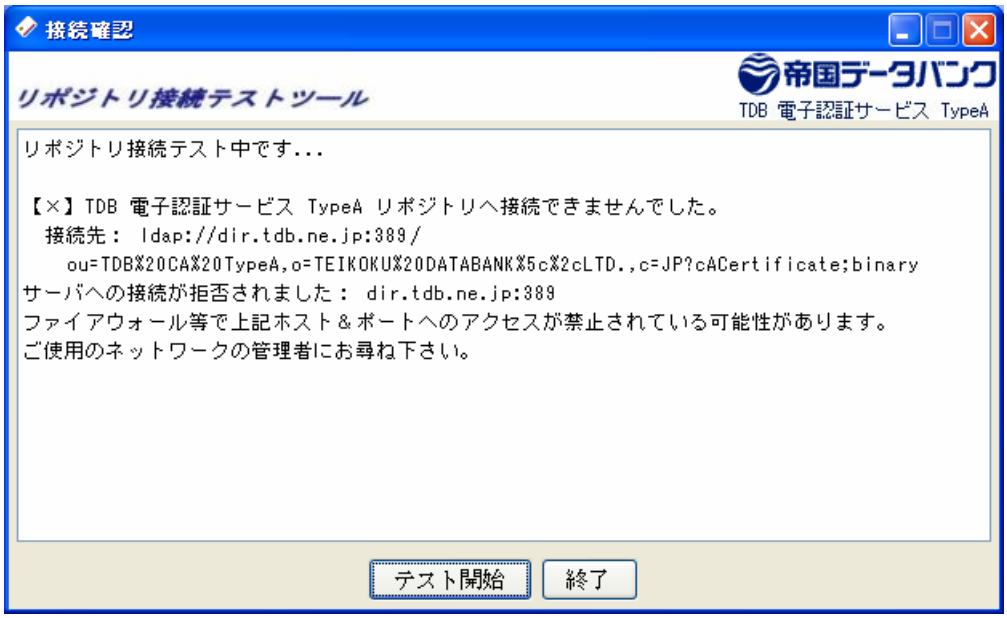
（A）



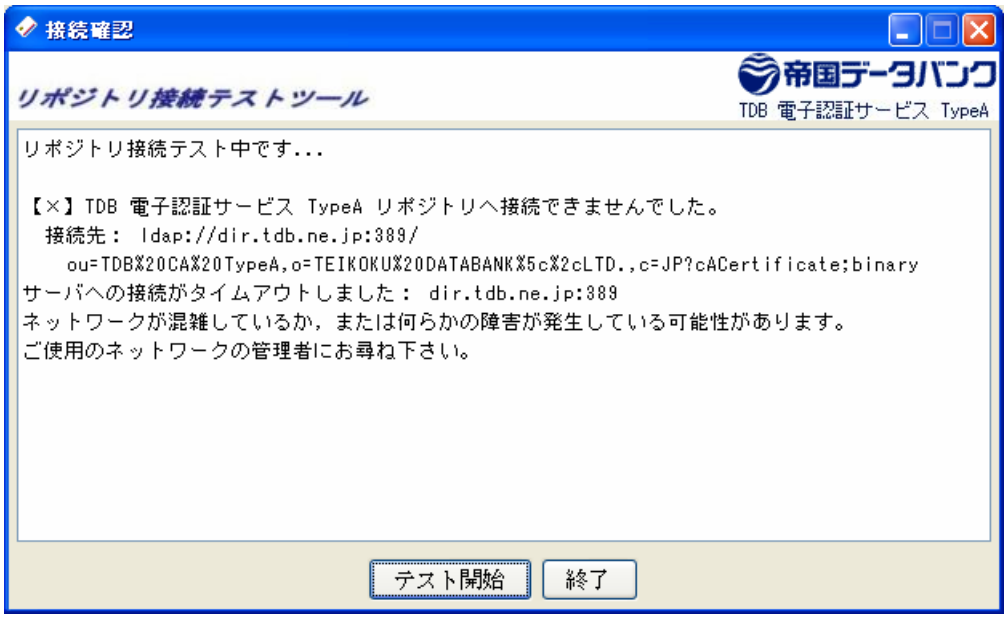
（B）


接続確認
リポジトリ接続テストツール
帝国データバンク
TDB 電子認証サービス TypeA
リポジトリ接続テスト中です...
【×】TDB 電子認証サービス TypeA リポジトリへ接続できませんでした。
接続先： ldap://dir.tdb.ne.jp:389/
ou=TDB%20CA%20TypeA,o=TEIKOKU%20DATABANK%5c%2cLTD.,c=JP?cACertificate;binary
サーバへ接続できませんでした： dir.tdb.ne.jp:389
ネットワークに接続されていない可能性があります。
ご使用のネットワーク管理者にお尋ね下さい。
テスト開始
終了

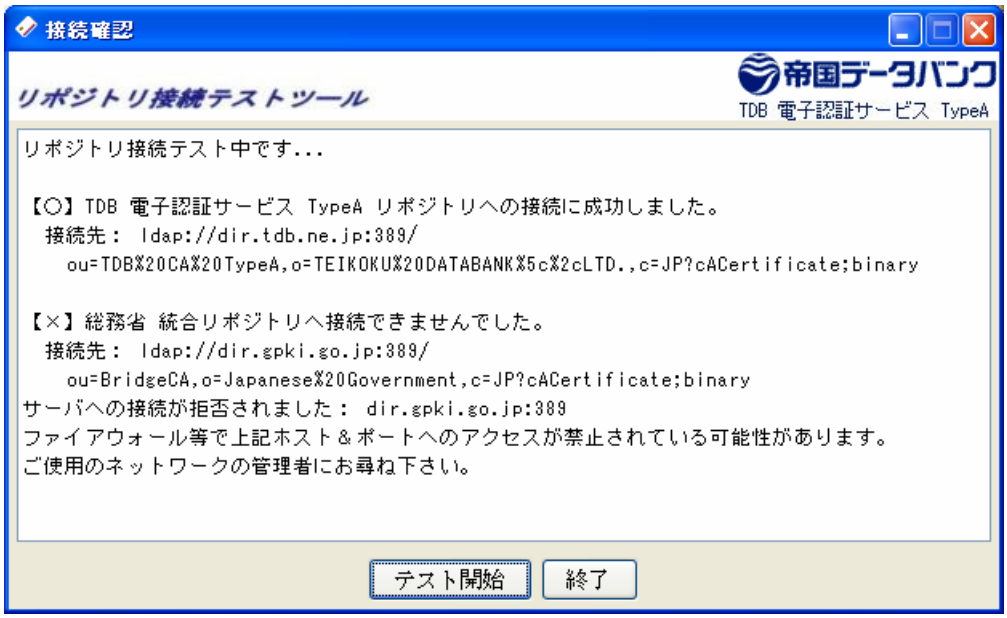
（C）


接続確認
リポジトリ接続テストツール
帝国データバンク
TDB 電子認証サービス TypeA
リポジトリ接続テスト中です...
【×】TDB 電子認証サービス TypeA リポジトリへ接続できませんでした。
接続先： ldap://dir.tdb.ne.jp:389/
ou=TDB%20CA%20TypeA,o=TEIKOKU%20DATABANK%5c%2cLTD.,c=JP?cACertificate;binary
サーバへの接続が拒否されました： dir.tdb.ne.jp:389
ファイアウォール等で上記ホスト＆ポートへのアクセスが禁止されている可能性があります。
ご使用のネットワークの管理者にお尋ね下さい。
テスト開始
終了

（D）


接続確認
リポジトリ接続テストツール
帝国データバンク
TDB 電子認証サービス TypeA
リポジトリ接続テスト中です...
【×】TDB 電子認証サービス TypeA リポジトリへ接続できませんでした。
接続先： ldap://dir.tdb.ne.jp:389/
ou=TDB%20CA%20TypeA,o=TEIKOKU%20DATABANK%5c%2cLTD.,c=JP?cACertificate;binary
サーバへの接続がタイムアウトしました： dir.tdb.ne.jp:389
ネットワークが混雑しているか，または何らかの障害が発生している可能性があります。
ご使用のネットワークの管理者にお尋ね下さい。
テスト開始
終了

（E）


接続確認
リポジトリ接続テストツール
帝国データバンク
TDB 電子認証サービス TypeA
リポジトリ接続テスト中です...
【○】TDB 電子認証サービス TypeA リポジトリへの接続に成功しました。
接続先： ldap://dir.tdb.ne.jp:389/
ou=TDB%20CA%20TypeA,o=TEIKOKU%20DATABANK%5c%2cLTD.,c=JP?cACertificate;binary
【×】総務省 統合リポジトリへ接続できませんでした。
接続先： ldap://dir.gpki.go.jp:389/
ou=BridgeCA,o=Japanese%20Government,c=JP?cACertificate;binary
サーバへの接続が拒否されました： dir.gpki.go.jp:389
ファイアウォール等で上記ホスト＆ポートへのアクセスが禁止されている可能性があります。
ご使用のネットワークの管理者にお尋ね下さい。
テスト開始
終了

3.6. セキュリティポリシー設定

セキュリティポリシーとは、Java 実行環境の動作を制御するための設定ファイルのことです。
電子入札コアシステムでは、セキュリティポリシーに発注機関用の設定情報を必ず設定する必要があります。

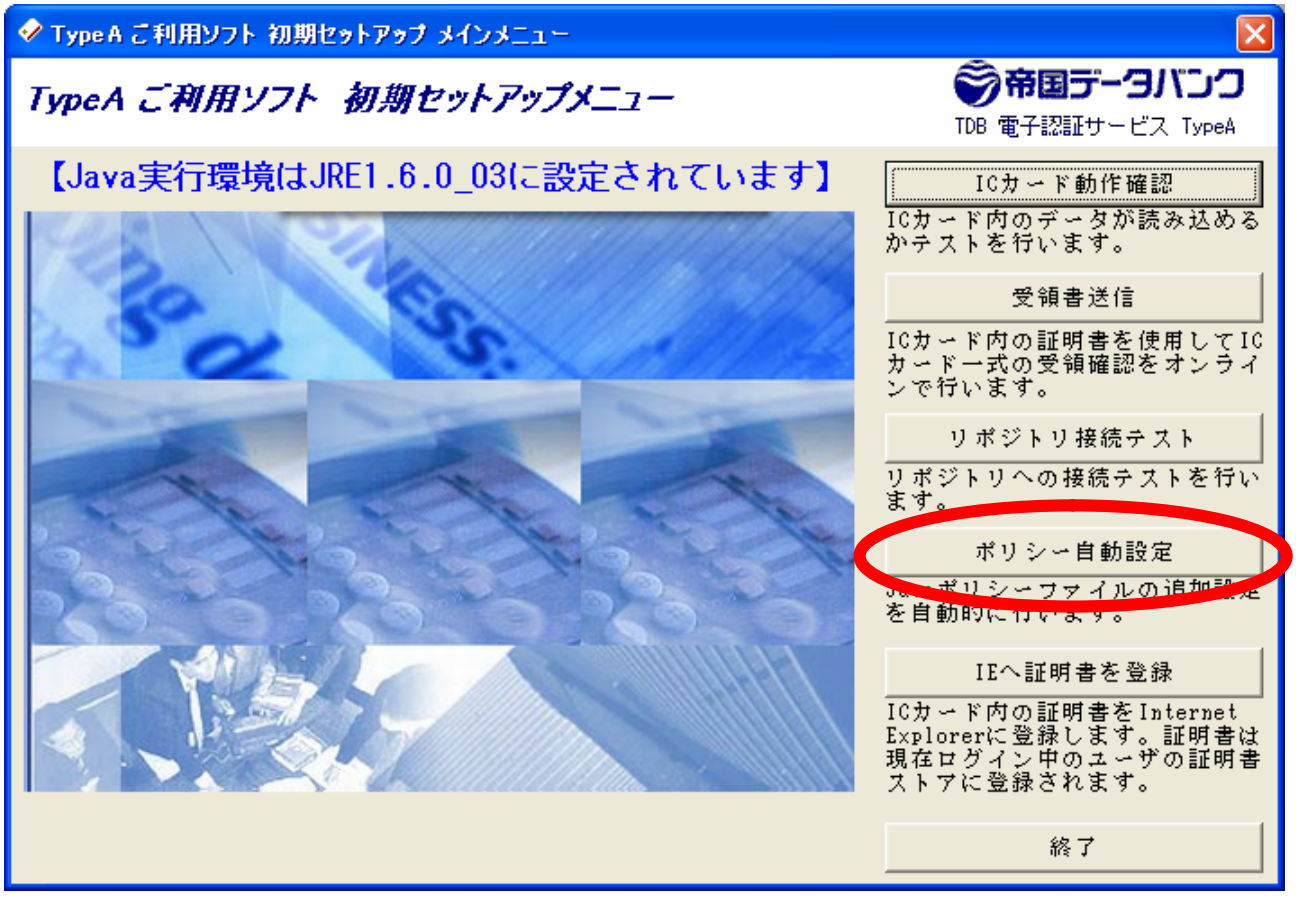
準備

インターネットに接続してください。

本作業は管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

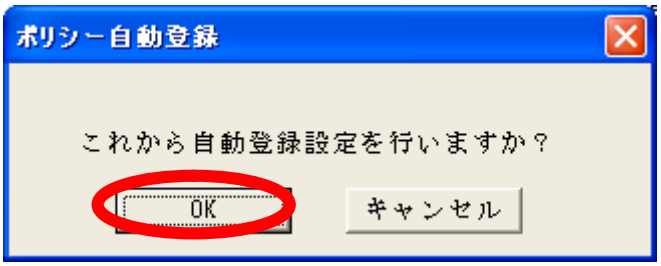
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[ポリシー自動設定]ボタンを押します。

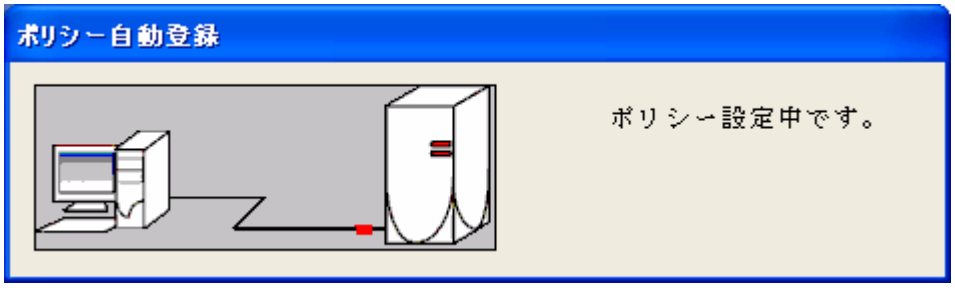


《ご参考》セキュリティポリシーの自動設定は、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [ポリシー設定] を選択して「ポリシー設定ツール」を起動し、ポリシー設定ツール画面からも行うことができます。

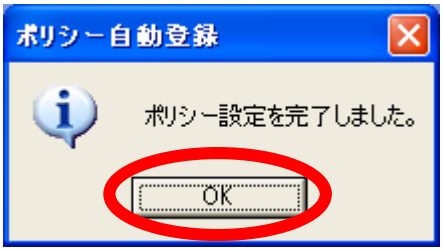
② 以下のようなメッセージが表示されますので、[OK]ボタンを押します。



③ 以下のようなポリシー設定中のメッセージが表示されます。



④ポリシー設定が完了すると、以下のようなメッセージが表示されます。[OK]ボタンを押してください。



以下のようなメッセージが表示された場合は、ネットワーク設定が原因の可能性があります。Internet Explorer のネットワーク設定においてプロキシサーバ等の設定が正しく行われているか確認してください。また、パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。

※注 お客さまのパソコン・ネットワーク環境によっては上記以外のメッセージが表示される場合もあります。

3.7. Internet Explorer への証明書登録

Internet Explorer へ証明書を登録します。

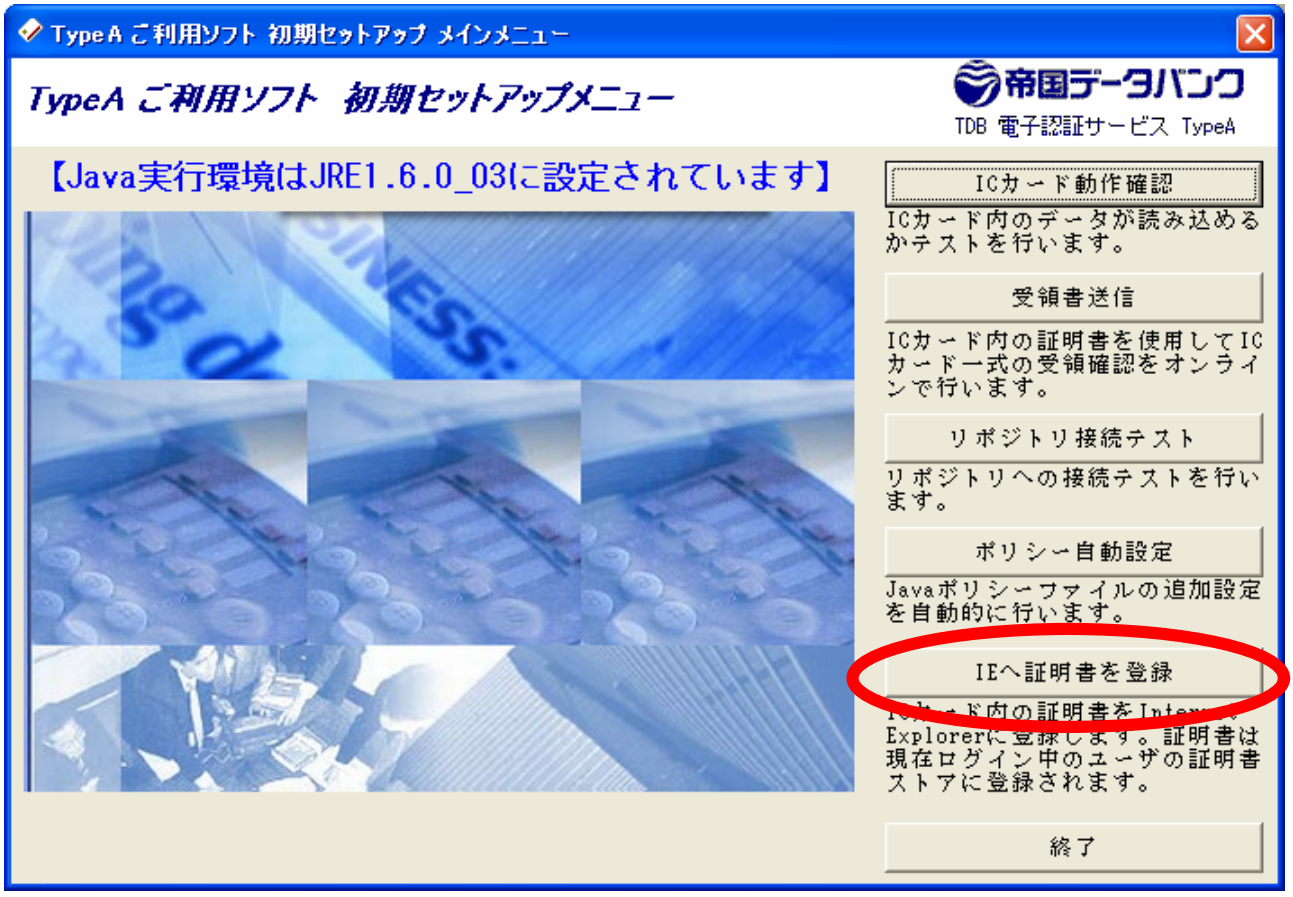
準備

本作業は、お手持ちの IC カード毎に行う必要があります。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダライタに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

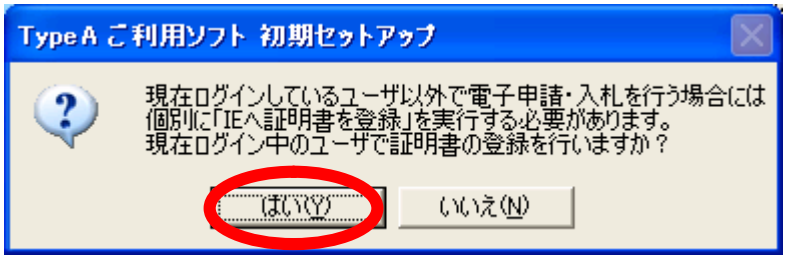
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[IE へ証明書を登録]ボタンを押します。



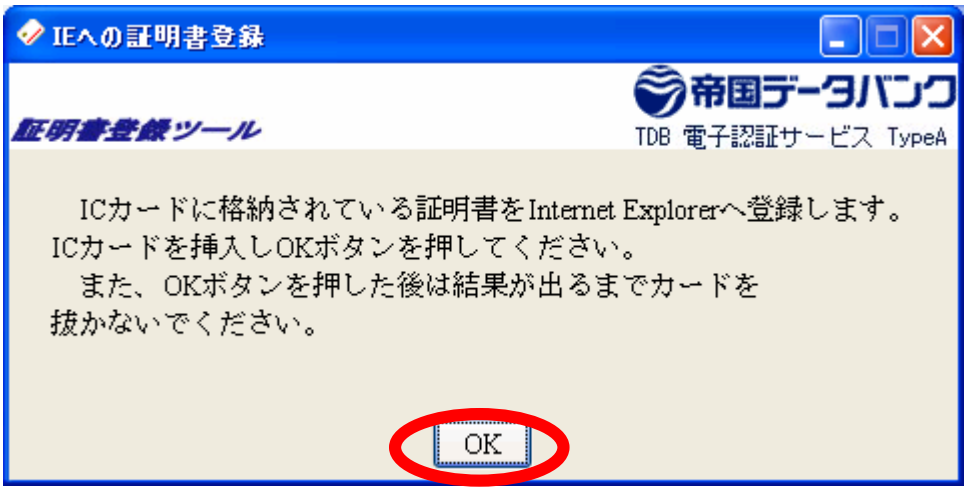
《ご参考》IE への証明書登録ツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [IE へ証明書を登録] を選択することでも起動できます。

② 以下のようなメッセージが表示されますので、メッセージ内容をご確認の上、[はい]ボタンを押してください。

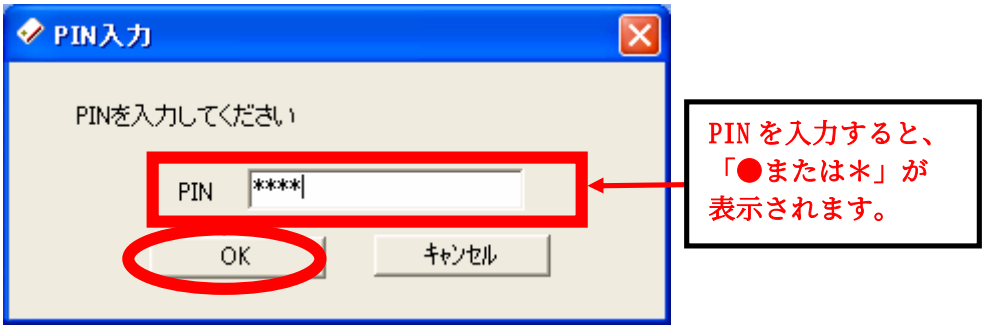


※注 Internet Explorer での証明書管理はユーザ毎に行なわれているため、電子申請・入札を行うユーザ毎に Internet Explorer への証明書登録を行う必要があります。

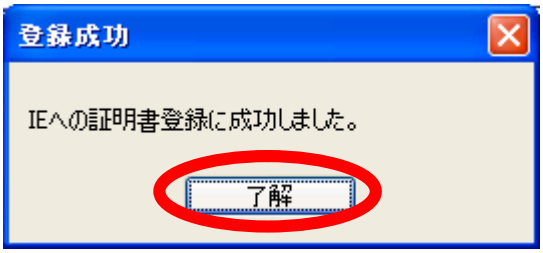
③ 以下のようなメッセージが現れますので、メッセージをご確認の上、[OK]ボタンを押してください。



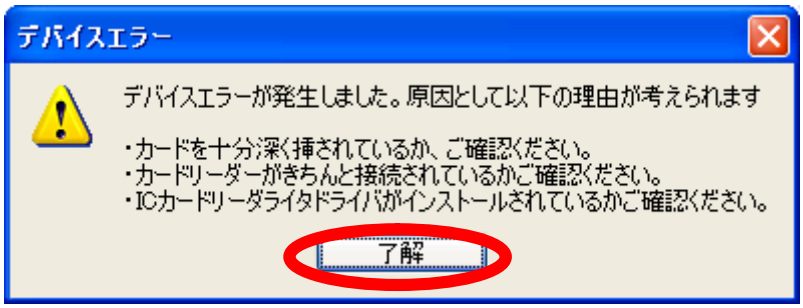
④ [OK]ボタンを押すと以下のようなウィンドウが表示されます。
ここで PIN を入力し、[OK]ボタンを押してください。
正しい PIN を入力されますと、Internet Explorer へ証明書の登録処理を開始します。



⑤　登録処理が正常に行われた場合は、以下のメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押してツールを終了してください。



★以下のようなメッセージが表示された場合、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。



以上で初期セットアップ（環境設定）は終了です。

4. クライアントツール

この章の設定は、通常は行う必要はありません。
必要に応じて設定を行ってください。

4.1. IC カードロック解除ツール

IC カードは安全のため、PIN を 5 回連続して誤入力するとロックがかかります。
ロックを解除する手順を以下に示します。

準備

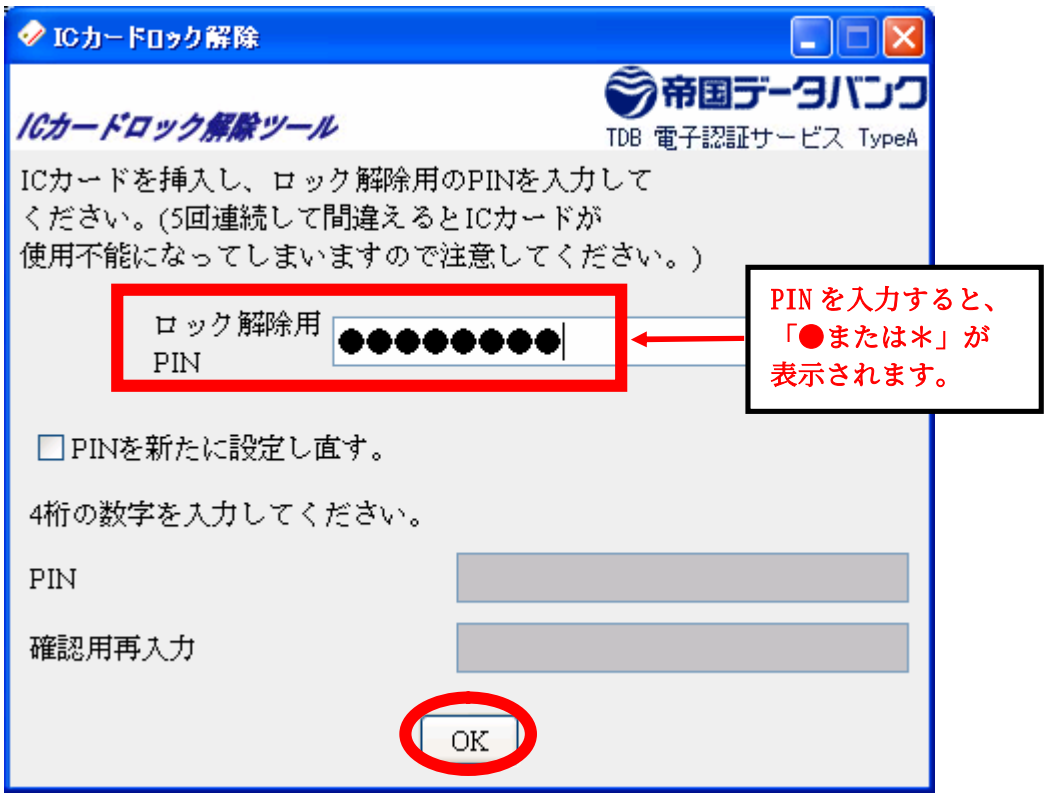
IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

起動

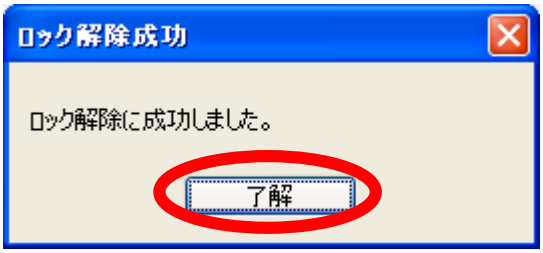
インストールフォルダ（デフォルトは C:¥Program Files¥Tdb¥TDBCATypeA）の下にある[IC カードロック解除のショートカット]をダブルクリックしてください。

（a）ロック解除

① ツールが立ち上がりますと以下のようなウィンドウが表示されます。
IC カードロック解除用 PIN を入力し、[OK]ボタンを押してください。

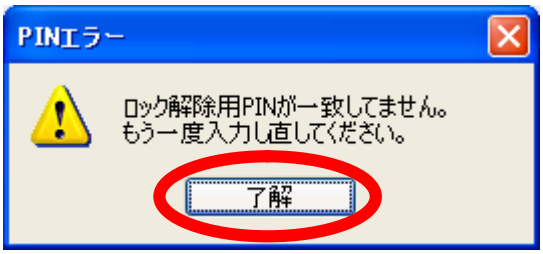


② ロックの解除に成功すると以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押して終了してください。

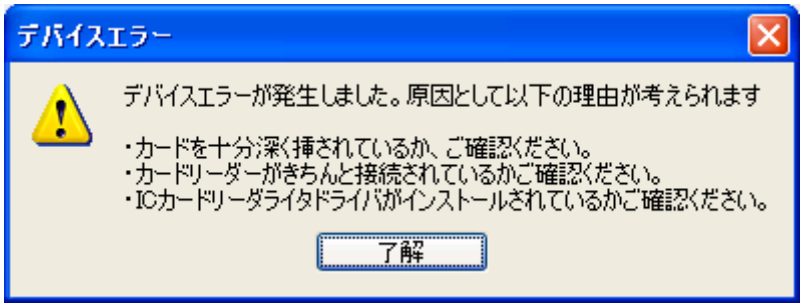


★以下のようなメッセージが表示された場合、IC カードロック解除用 PIN が間違っています。
[了解]ボタンを押して IC カードロック解除用 PIN をご確認の上もう一度入力してください。

※注 IC カードロック解除用 PIN を 5 回連続して誤入力すると IC カードが使用不能になりますのでご注意ください。

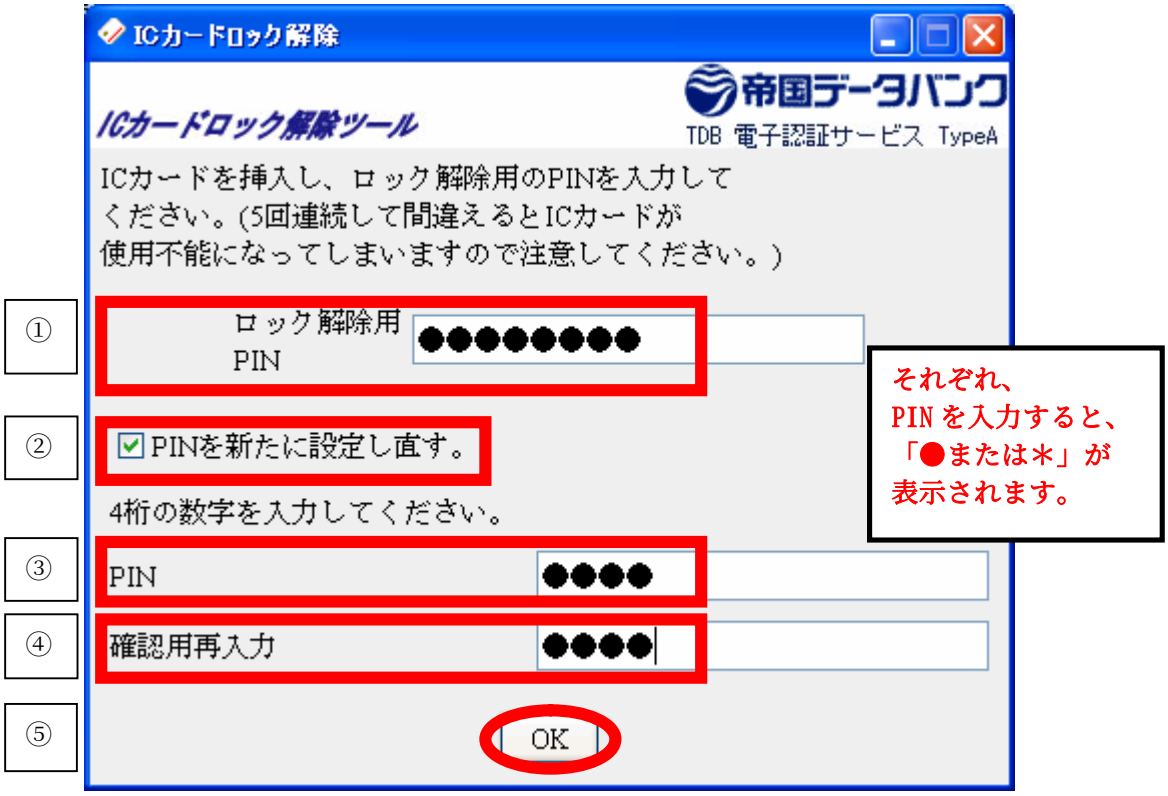


★以下のようなメッセージが表示された場合、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。



(b) PIN 変更

IC カードロック解除ツールは PIN を忘れてしまった方のために、PIN を変更する機能を備えています。PIN を変更する時は以下の手順で操作を行ってください。



① IC カードロック解除用 PIN を入力します。

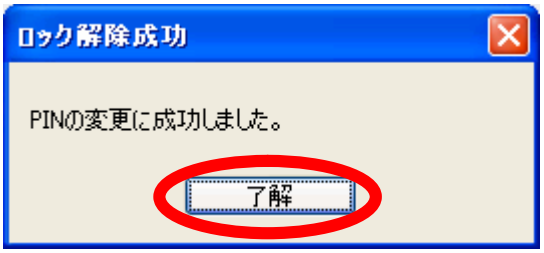
② [PIN を新たに設定し直す。]のチェックボックスにチェックを入れます。

③ 新しい PIN を入力します。

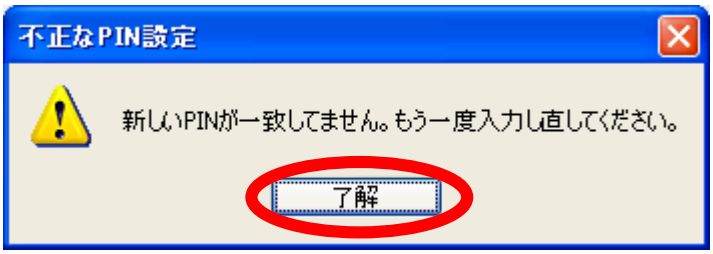
④ もう一度新しい PIN を入力します。

⑤ [OK]ボタンを押します。

⑥ PIN の変更が成功しますと以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押して、ツールを終了させてください。



一回目に入力した新しい PIN と二回目に入力した新しい PIN が一致しない場合、以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押して再度新しい PIN を入力し直してください。



4.2. 認証局証明書管理ツール

各地方自治体等での電子入札システムに参加する際、発注機関の指示により指定の「認証局証明書」を追加する必要があります。
必要に応じて設定を行ってください。

準備

本作業は管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。

IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

起動

[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [認証局証明書管理]を選び、「認証局証明書管理ツール」を起動します。

（a）認証局証明書一覧表示

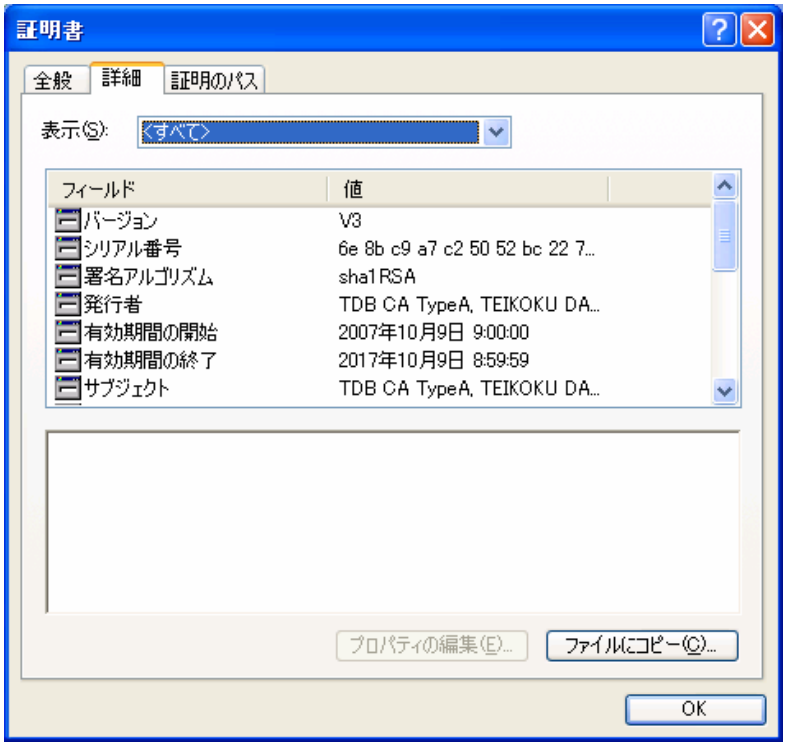
ツールが立ち上がりますと、上記のようなウィンドウが表示されます。
青字は TDB の認証局証明書をあらわしています。黒字は電子入札コアシステム対応認証局を表しています。緑字はその他の認証局を表しています。

(b) 詳細表示

証明書の詳細を表示するには以下の手順で操作を行ってください。

① 詳細を表示させたい証明書を選択します。
② [詳細]ボタンを押します。

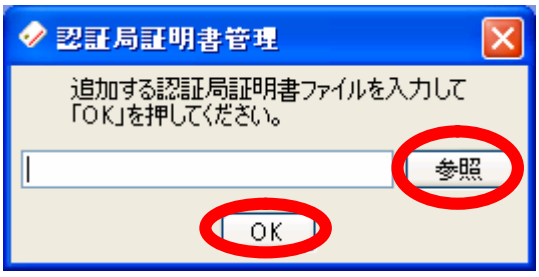
[詳細]ボタンを押すと以下のようなウィンドウが表示されます。



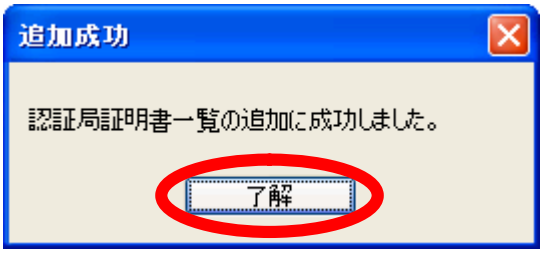
(c) 証明書の追加

① 証明書の追加を行うには[追加]ボタンを押してください。

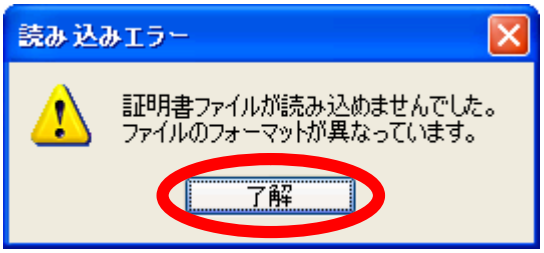
② [追加]ボタンを押すと以下のようなダイアログが表示されます。
[参照]ボタンを押して、追加するファイルを選んでください。選択が終わったら[OK]ボタンを押してください。



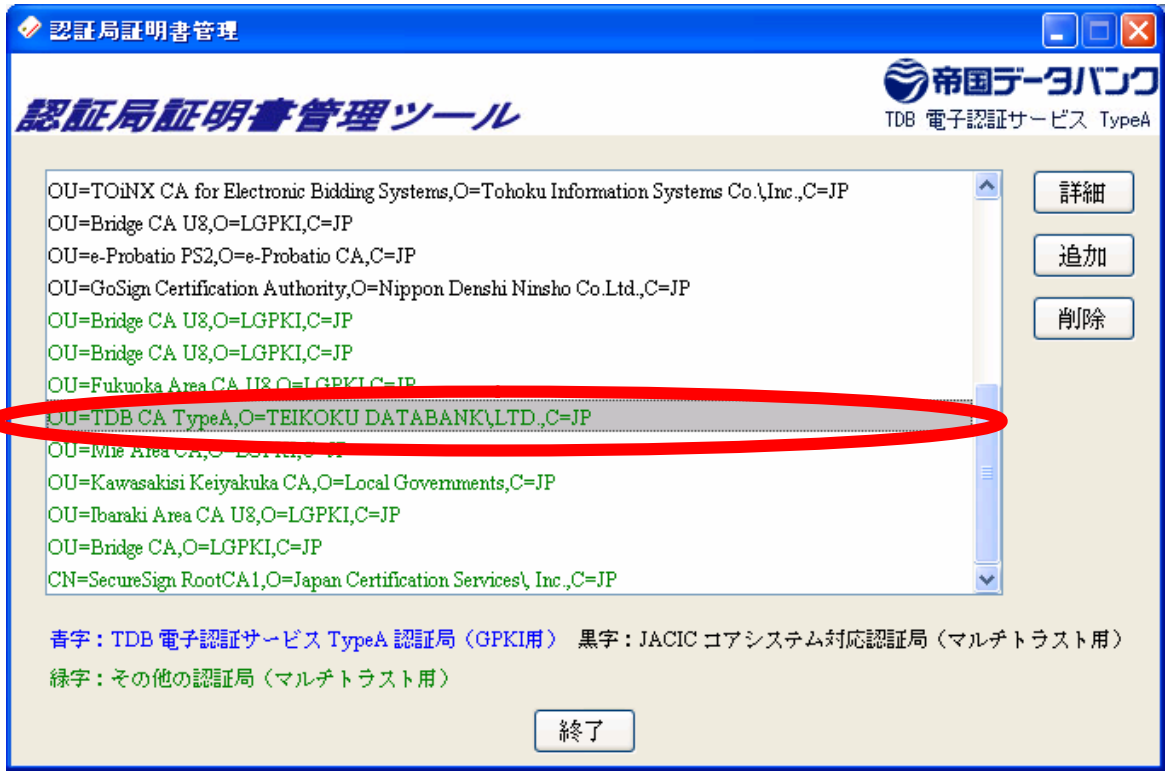
③ 証明書の追加に成功すると、以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押してください。



★証明書の追加に失敗した場合、以下のようなメッセージが表示されます。追加しようとしたファイルが証明書ファイルでないか、もしくはファイル自体が壊れている可能性があります。追加するファイルが証明書ファイルであるか、またファイル自体が壊れていないか、ご確認後、再度追加作業を行ってください。



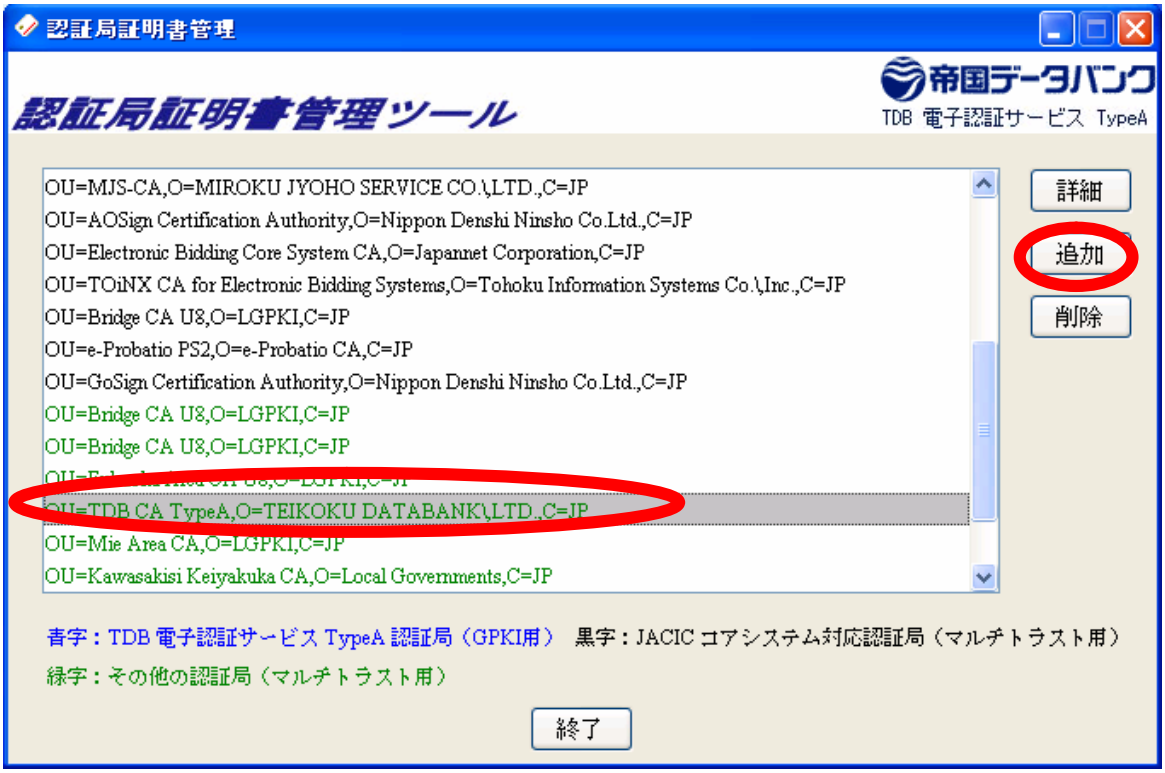
④ 証明書一覧画面に戻ると登録した証明書の発行元が緑字で追加されていることを、ご確認ください。



(d) 証明書の削除

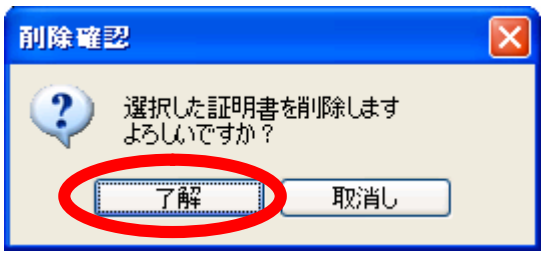
証明書を削除するには以下の手順で操作を行ってください。

※ 削除可能な証明書は緑字で表示されている証明書のみです。その他の証明書を削除することはできません。

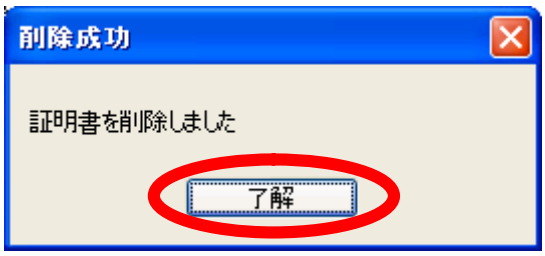


① 表示されている証明書を選択します。

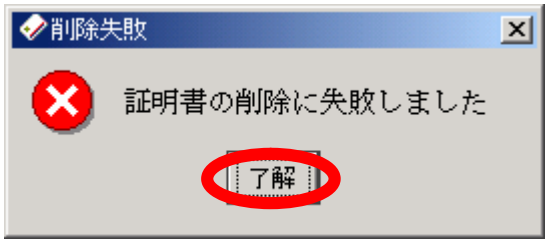
② [削除]ボタンを押します。
以下のような確認ダイアログが表示されます。
削除する場合は[了解]ボタンを押してください。



③ 削除に成功すると以下のようなメッセージが表示されます。[了解]ボタンを押すと一覧表示画面へ戻ります。



削除に失敗した場合、以下のようなメッセージが表示されます。この場合は証明書保管庫が壊れている可能性があります。
この場合は、TypeA ご利用ソフトをアンインストール後に、再度インストールする必要があります（詳細は、75ページの「5.3　TypeA ご利用ソフトのアンインストール」をご参照ください）。



④証明書一覧画面に戻ると選択した証明書が一覧から削除されていることをご確認ください。

4.3. ポリシー設定ツール

ポリシー設定ツールは、セキュリティポリシーを手動で設定するツールです。
通常は、45ページ「3.6 セキュリティポリシー設定」で自動設定することを推奨します。

手動で設定する場合は、本節の手順に従って設定してください。
セキュリティポリシーの設定を誤ると接続したサーバから不正にアクセスされる恐れがあります。
本設定は十分注意して行うようにしてください。

準備

本作業は管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

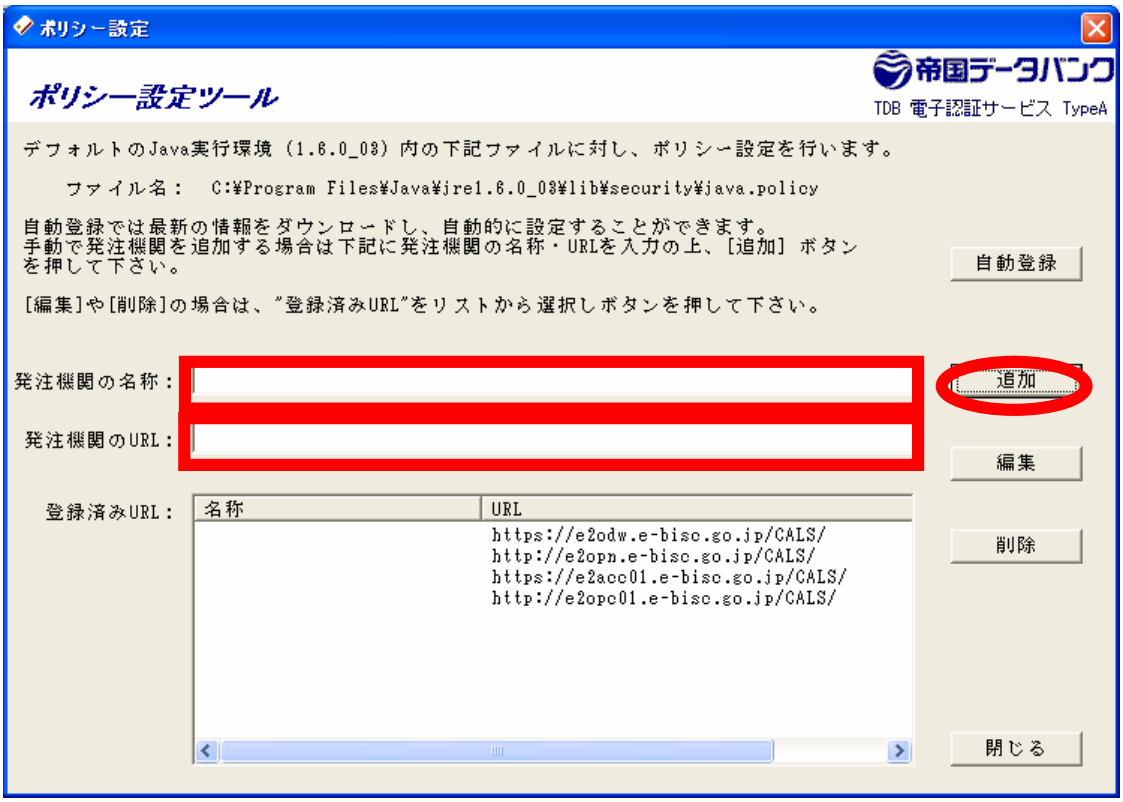
各発注機関の URL を用意しておいてください。
URL につきましては、各発注機関の「環境設定ツール」に関する箇所をご覧ください。

手順

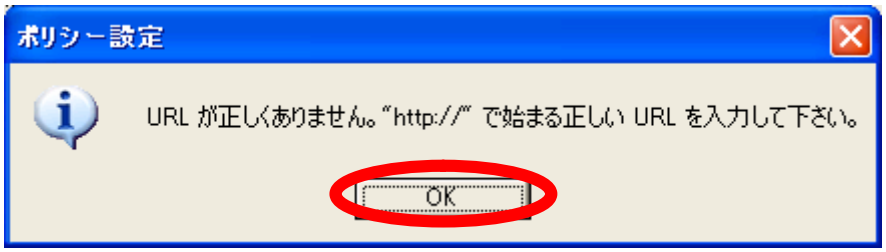
（a）発注機関の名称または URL の追加

① [スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [ポリシー設定] を選び、「ポリシー設定ツール」を起動します。
処理を中止する場合は、[閉じる]ボタンを押してダイアログを終了させてください。

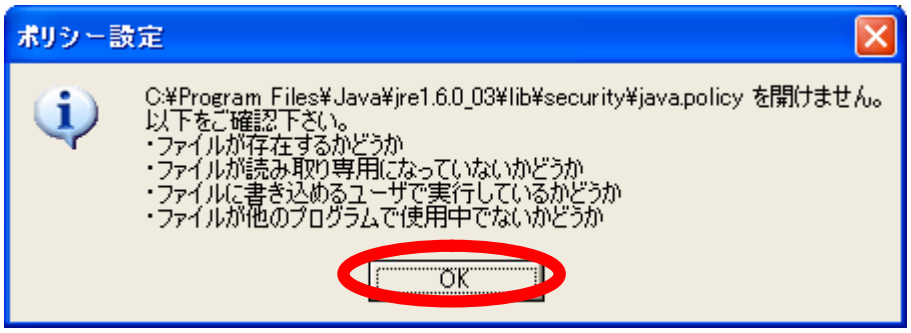
② 以下のようなメッセージが現れますので、メッセージをご確認の上、発注機関の名称と URL を入力し、[追加]ボタンを押してください。
発注機関の名称の入力は必須ではありませんが、入力されますと判別しやすくなりますので入力していただくことをお奨めいたします。



URL 記載にミスがあると、以下のメッセージが表示されます。
この場合には、[OK]ボタンを押して元の画面に戻り、正しい URL を入力して再度[追加]ボタンを押してください。

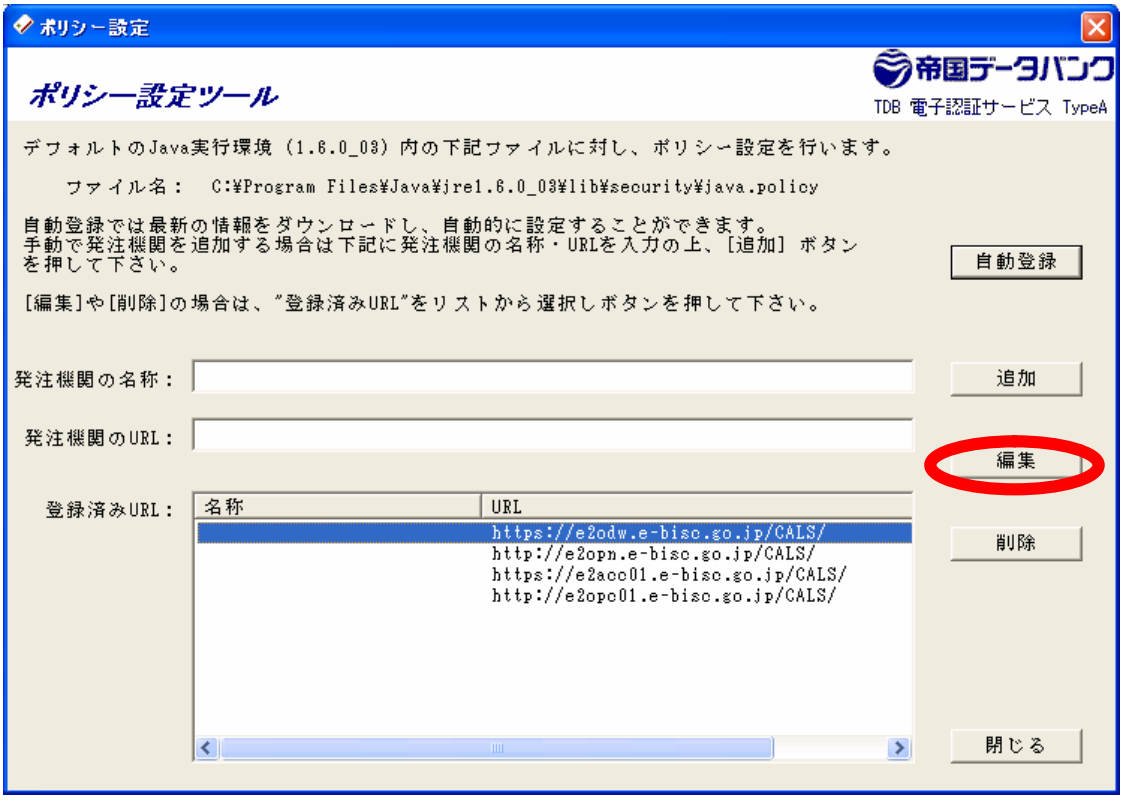


設定時またはツール終了時にエラーが生じた場合には以下のようなメッセージが表示されますので、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。

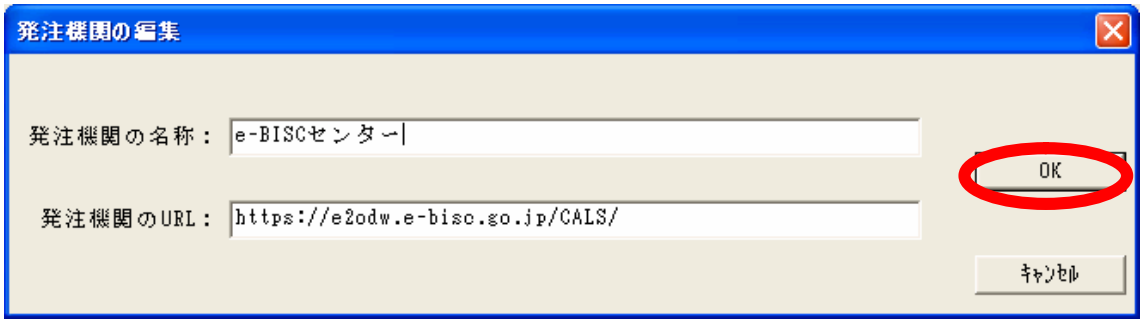


(b) 発注機関の名称または URL の編集

①「登録済み URL」のリストから編集したい項目を選択の上、[編集]ボタンを押してください。

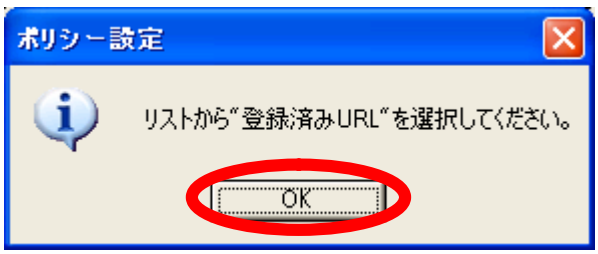


②新しいダイアログが表示されますので、発注機関の名称と URL を入力し[OK]ボタンを押します。
編集を中止するときは[キャンセル]ボタンを押してください。



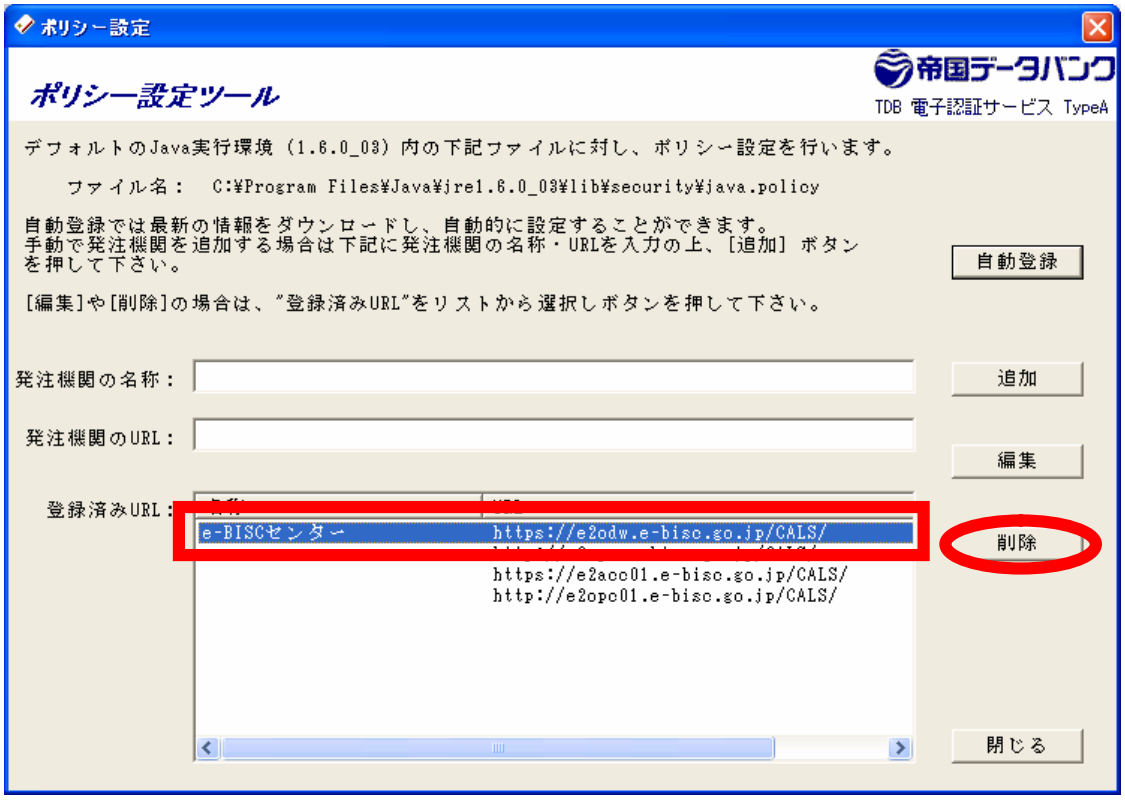
★[編集]ボタンを押した時のエラー

[編集]ボタンを押したときに、リスト内の項目が選択されていないと、以下のメッセージが表示されます。

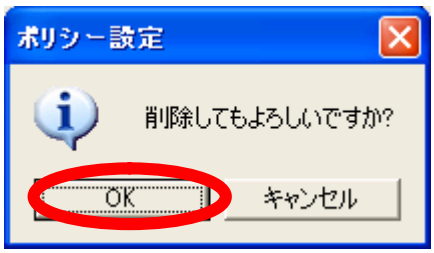


(c) 発注機関の名称・URL の削除

①「登録済み URL」のリストから削除したい項目を選択の上、[削除]ボタンを押してください。

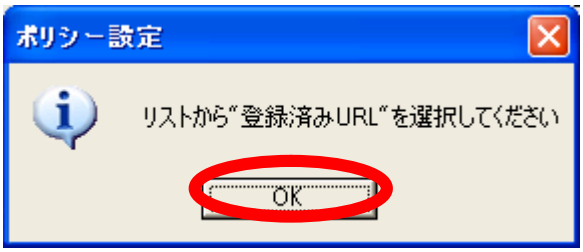


②削除の確認を行うメッセージが表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、削除を中止する場合は[キャンセル]ボタンを押してください。



★[削除]ボタン押した時のエラー

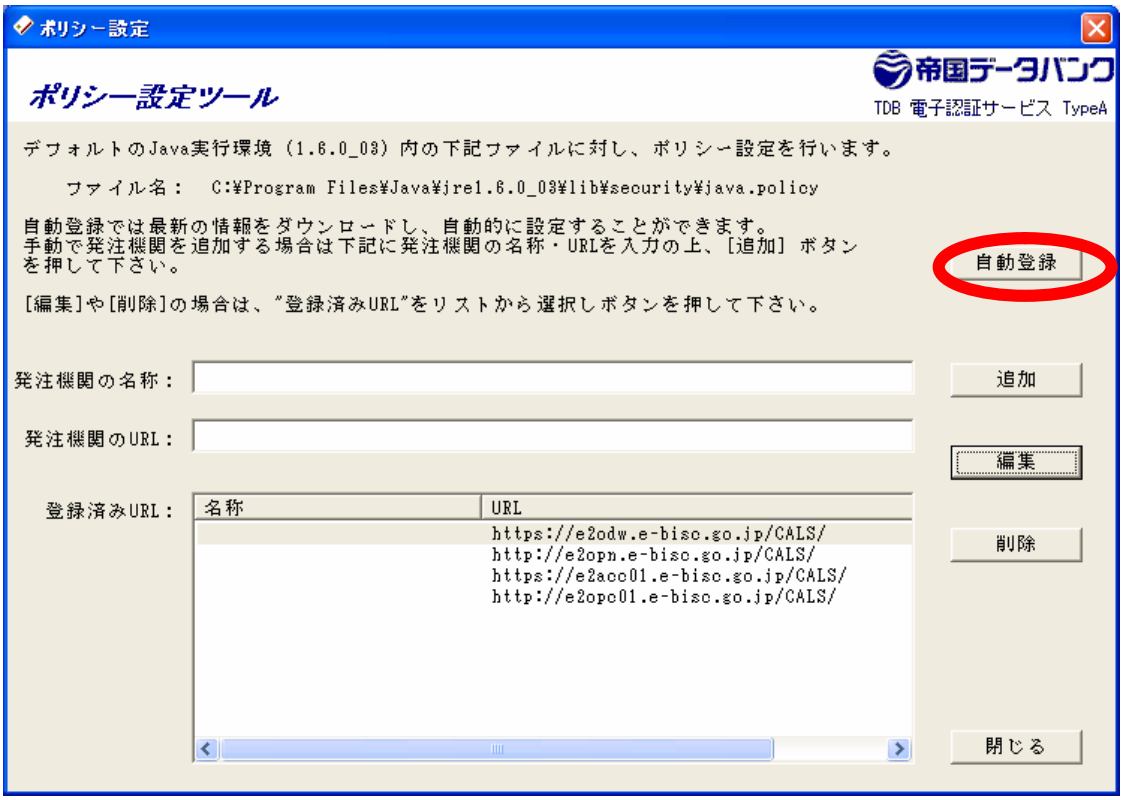
[削除]ボタンを押したときに、リスト内の項目が選択されていないと、以下のメッセージが表示されます。



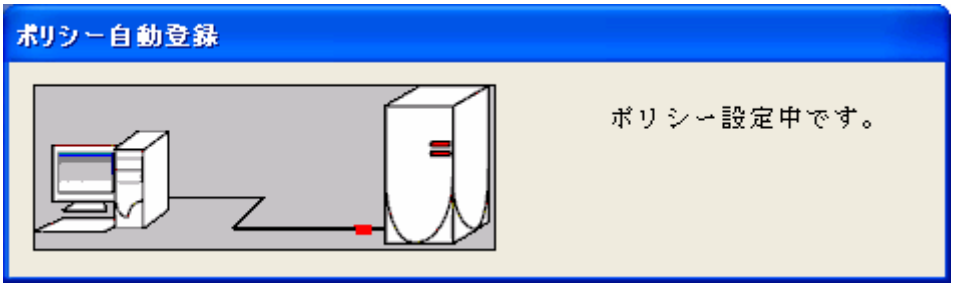
(d) 自動登録

セキュリティポリシーの自動登録は、「3.6　セキュリティポリシー設定」による手順の他に、ポリシー設定ツールからも可能です。

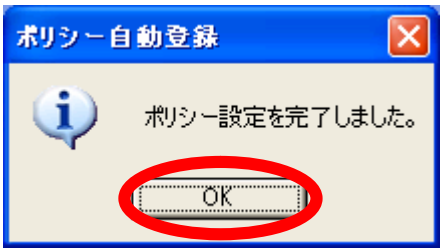
① 自動登録を行う場合は、[自動登録]ボタンを押してください。



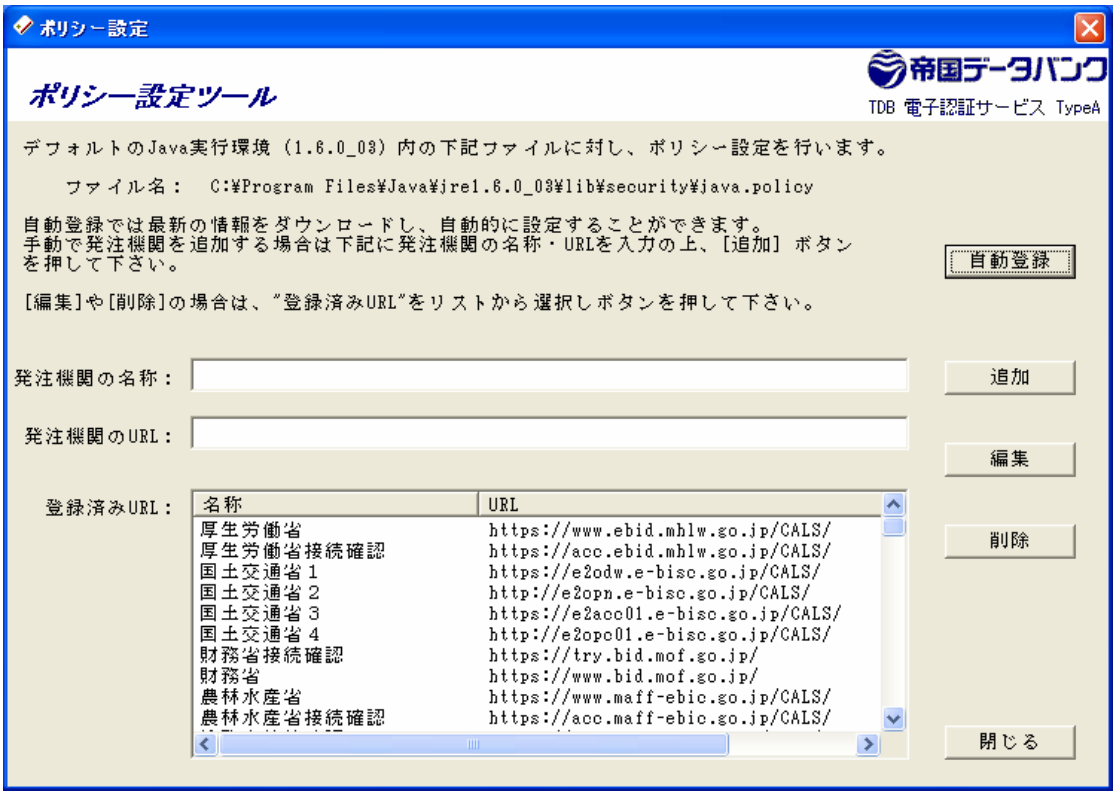
② 以下のようなポリシー設定中のメッセージが表示されます。



③ ポリシー設定が完了すると、以下のようなメッセージが表示されます。[OK]ボタンを押してください。



④ 自動登録された内容が「登録済み URL」の欄に表示されます。



以下のようなメッセージが表示された場合は、ネットワーク設定が原因の可能性があります。
Internet Explorer のネットワーク設定においてプロキシサーバ等の設定が正しく行われているか確認してください。
また、パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。

※注 お使いのパソコン・ネットワーク環境によっては上記以外のメッセージが表示される場合もあります。

4.4. e-Tax 設定ツール

e-Tax 設定ツールは、IC カードの内容を、国税電子申告・納税システム（e-Tax、以下 e-Tax）および、地方税ポータルシステム（eLTAX、以下 eLTAX）対応に設定するツールです。

e-Tax、または eLTAX により各種申告を行う場合は、予め IC カードの内容を e-Tax 対応に設定しておく必要があります。

注意

既に、TypeA ご利用ソフト V1.0/V1.1 の e-Tax プラグインソフト（e-Tax 設定ツール）で、IC カードの内容を e-Tax 対応に設定、または初期状態に設定した場合は、そのままではご利用できません。
必ず本バージョンの e-Tax 設定ツールで IC カードの内容を設定し直してください。

準備

全ての Windows プログラムを必ず終了してから行ってください。

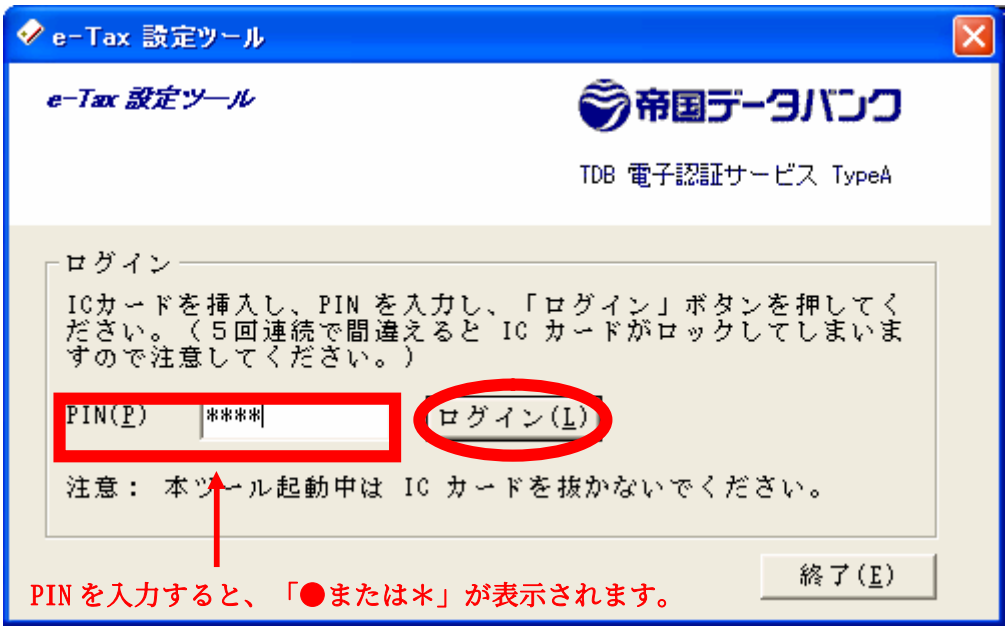
IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

起動

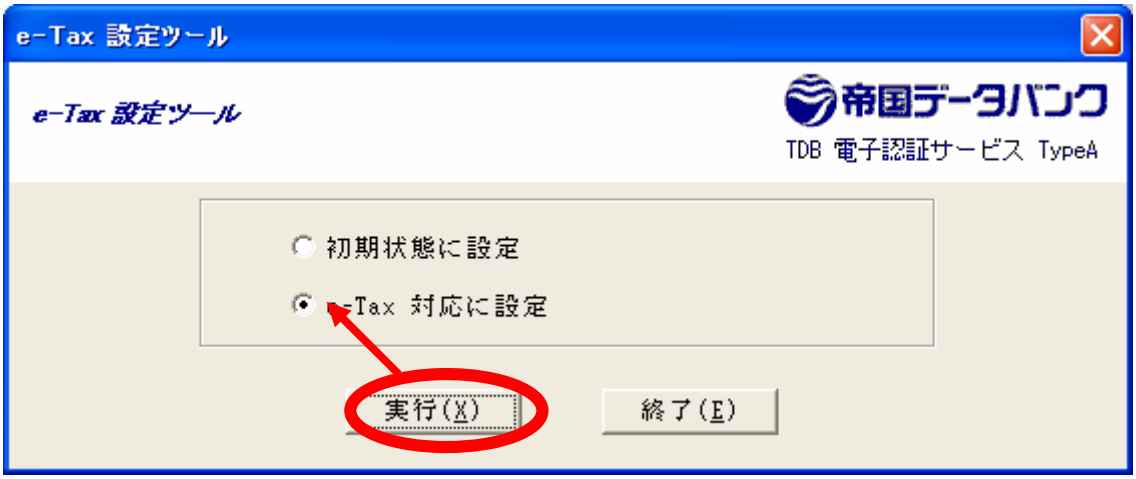
[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [e-Tax 設定ツール]を選び、「e-Tax 設定ツール」を起動します。

（a）e-Tax 対応に設定

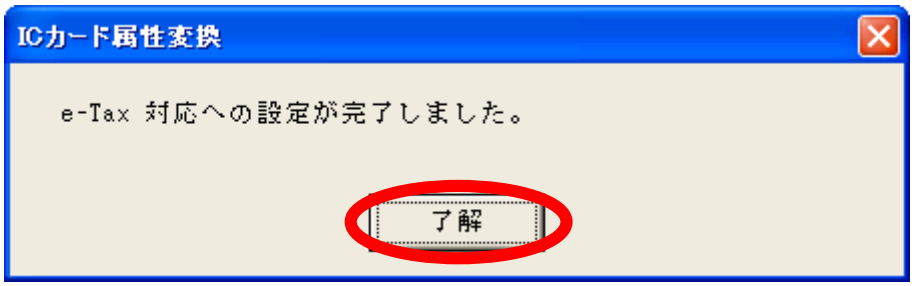
① ツールが起動されると、PIN 入力画面が表示されますので、IC カードの PIN（暗証番号）を入力し、[ログイン]ボタンを押してください。



② ログインに成功すると以下の画面が表示されます。
[e-Tax 対応に設定]の選択ボタンを押し、[実行]ボタンを押します。



③ e-Tax 対応への設定が完了すると以下のメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押し、e-Tax 設定ツールを終了します。

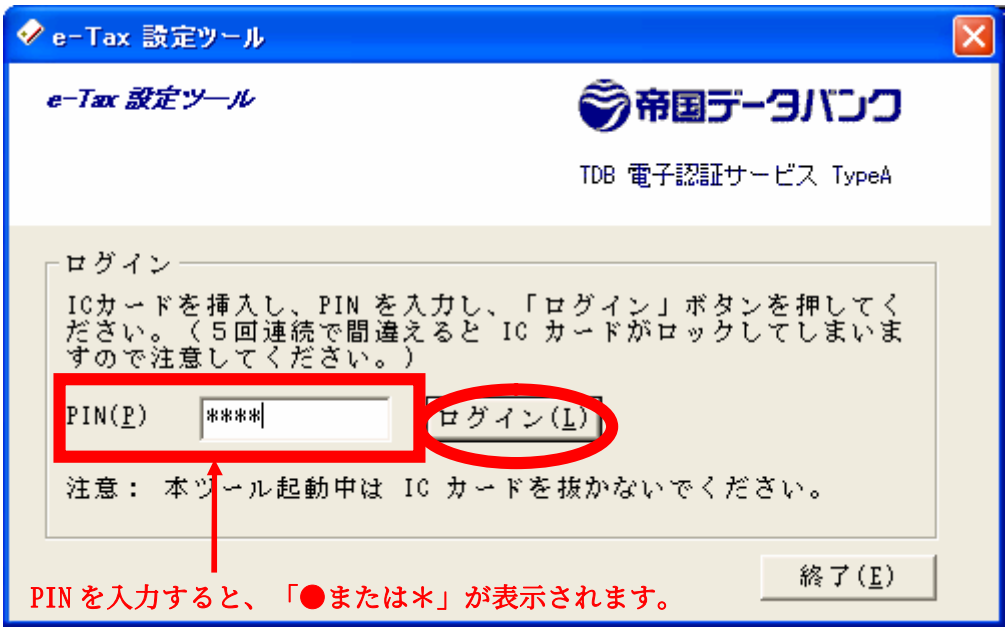


(注意)
各省庁等の電子入札・申請システムにおいて、Internet Explorer などへの証明書の登録を必要とする場合、再度、証明書を登録し直す必要があります。
Internet Explorer への証明書の登録は、Windows システムのユーザ毎に行う必要があります。

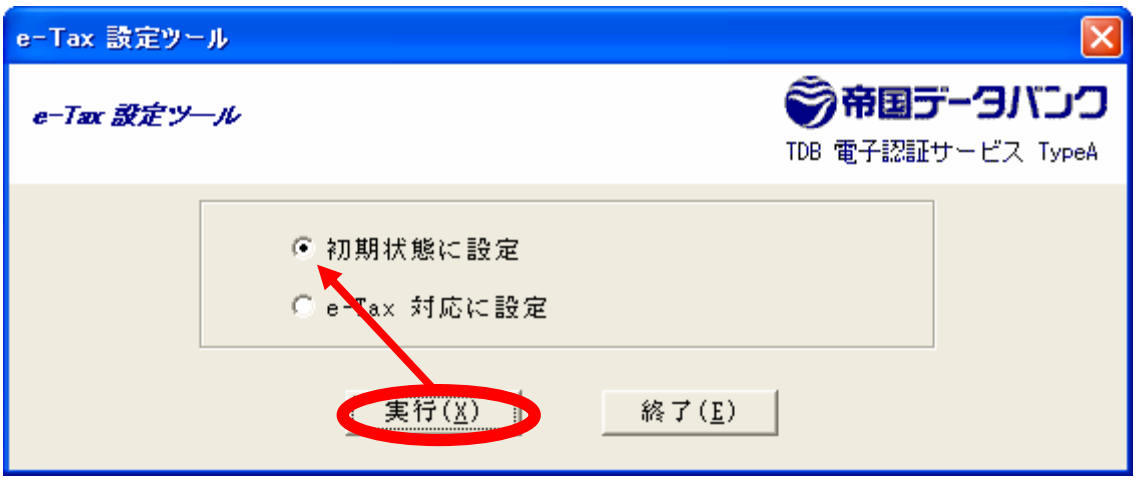
証明書の登録方法については、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページ(URL：http://www.tdb.co.jp/typeA/)、各省庁等のシステムのホームページに掲載されている利用手続き等の内容をご確認ください。

(b) 初期状態に設定

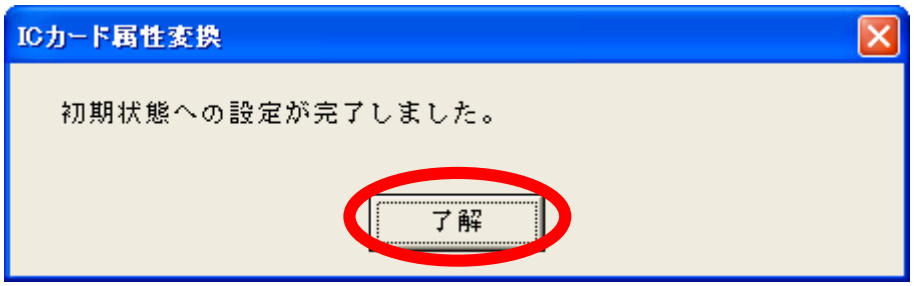
① ツールが起動されると、PIN 入力画面が表示されますので、IC カードの PIN（暗証番号）を入力し、[ログイン]ボタンを押してください。



② ログインに成功すると以下の画面が表示されます。
[初期状態に設定]の選択ボタンを押し、[実行]ボタンを押します。



③ 初期状態への設定が完了すると以下のメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押し、e-Tax 設定ツールを終了します。

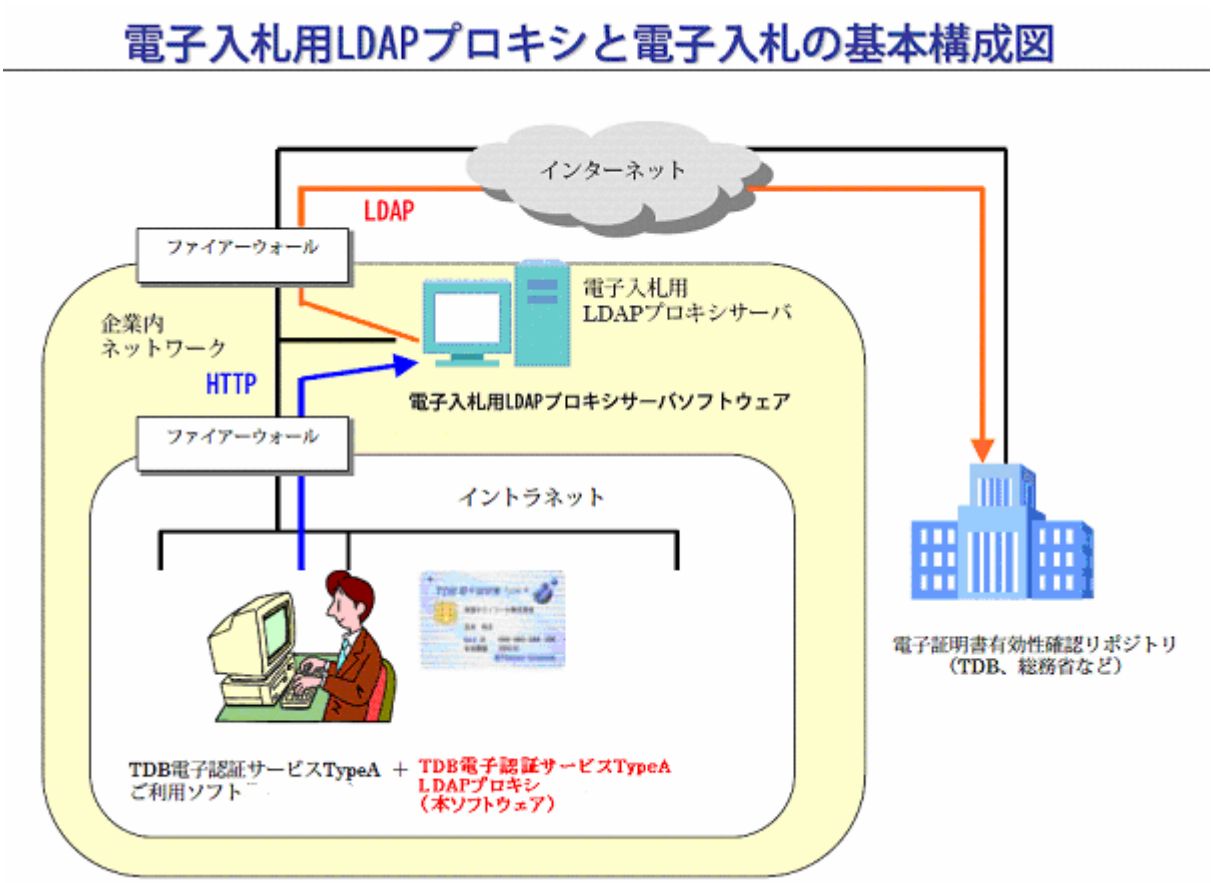


（注意）
各省庁等の電子入札・申請システムにおいて、Internet Explorer などへの証明書の登録を必要とする場合、再度、証明書を登録し直す必要があります。
Internet Explorer への証明書の登録は、Windows システムのユーザ毎に行う必要があります。

証明書の登録方法については、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページ(URL：http://www.tdb.co.jp/typeA/)、各省庁等のシステムのホームページに掲載されている利用手続き等の内容をご確認ください。

4.5. リポジトリ接続プロトコル設定ツール

リポジトリ接続プロトコル設定ツールは、インターネットに接続する際ファイアウォールが途中に存在し、TDB 電子認証サービス TypeA を使用できないネットワーク環境において、外部に LDAP プロキシサーバを用意することで、TDB 電子認証サービス TypeA による電子入札を可能するための「LDAP プロキシオプション」を設定するためのツールです。



注意

本ツールで設定を行うのみでは「LDAP プロキシオプション」を利用することはできません。「LDAP プロキシオプション」を使用するためには、東芝ソリューション株式会社にて販売している「電子入札用ＬＤＡＰプロキシサーバソフトウェア」を別途購入し構築しておく必要があります。

「電子入札用 LDAP プロキシサーバソフトウェア」に関するお問い合わせ先

東芝ソリューション株式会社　プラットフォームソリューション事業部
ＵＲＬ：http://www.toshiba-sol.co.jp/nsd/sec/p007.htm
メール：itpf@toshiba-sol.co.jp

準備

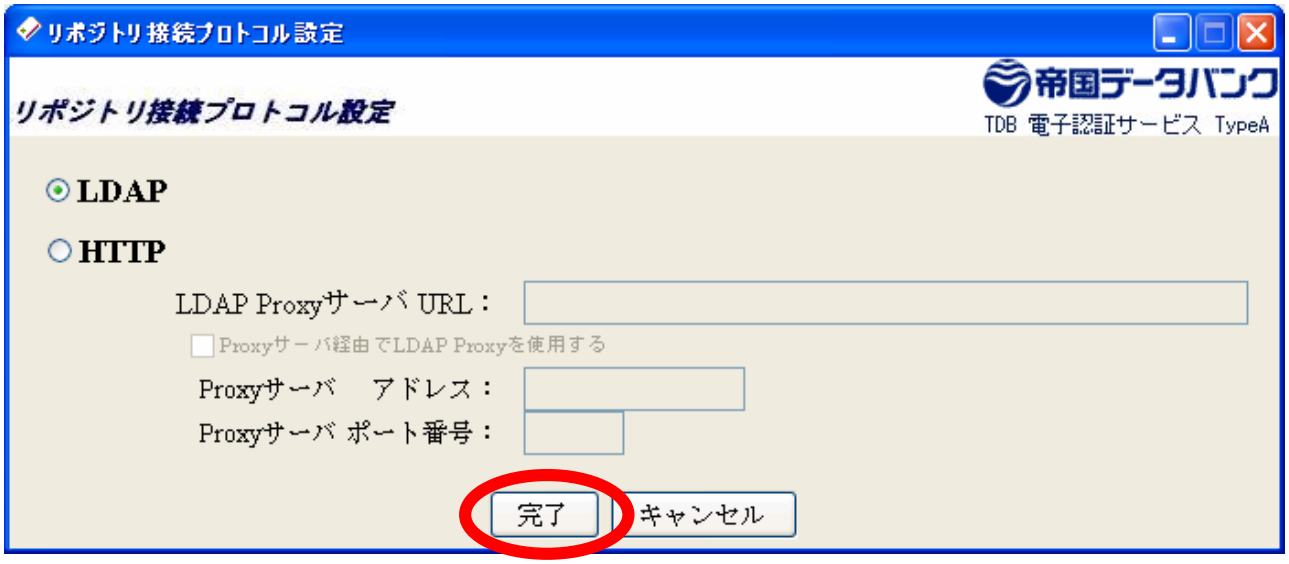
全ての Windows プログラムを必ず終了してから行ってください。

インストール時のカスタムオプションにて、「インストールする」を選択していないと、本ツールの起動はできません。

起動

[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> 「リポジトリ接続プロトコル設定」を選び「リポジトリ接続プロトコル設定」ツールを起動します。

起動後、画面内の各項目をネットワークの環境に合わせて設定し、[完了]ボタンを押します。



◆リポジトリ接続プロトコル設定

項　目	説　明
LDAP	直接リポジトリに接続して、電子入札を行う場合に選択します。 LDAP プロキシサーバ経由で使用しない場合と同じ動作となり、通信プロトコルに LDAP が使用されます。
HTTP	電子入札用 LDAP プロキシサーバ経由にてリポジトリに接続し、電子入札を行う場合に選択します。 通信プロトコルとして HTTP が使用されます。
電子入札用 LDAP Proxy サーバ URL	電子入札用 LDAP プロキシサーバの URL を指定します。 IIS5.0 に対し電子入札用 LDAP プロキシサーバを使用する場合の標準的な設定値は以下となります。 **http : // [LDAP プロキシサーバのホスト名または IP アドレス] / Scripts / LDAPProxy / LDAPProxy.cgi** IIS6.0 に対し電子入札用 LDAP プロキシサーバを使用する場合の標準的な設定値は以下となります。

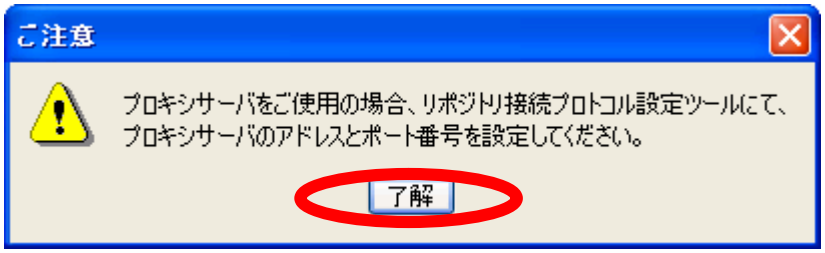
	http : // [LDAP プロキシサーバのホスト名または IP アドレス] **/ cgi-bin / LDAPProxy / LDAPProxy.cgi**
	本設定は、通信プロトコルに HTTP を指定した場合のみ有効です。
Proxy サーバ経由で LDAP Proxy を使用する	電子入札用 LDAP プロキシサーバと接続する際に、HTTP プロキシサーバを使用する場合に選択します。 本ツールをインストールした端末から Web ブラウザを使用する際に、プロキシサーバの設定をしている場合は、チェックボックスをチェックしてください。 **本設定は、通信プロトコルに HTTP を指定した場合のみ有効です。**
Proxy サーバアドレス	上記の[Proxy サーバ経由で LDAPProxy を使用する]をチェックした場合、使用する HTTP プロキシサーバのアドレスを入力します。 通常は、Web ブラウザで使用しているプロキシサーバの IP アドレスまたはホスト名と同じ値を設定します。 **本設定は、通信プロトコルに HTTP を指定した場合のみ有効です。**
Proxy サーバポート番号	上記の[Proxy サーバ経由で LDAPProxy を使用する]をチェックした場合、使用する HTTP プロキシサーバのポート番号を入力します。 通常は、Web ブラウザで使用しているプロキシサーバの HHTP におけるポート番号と同じ値を設定します。 **本設定は、通信プロトコルに HTTP を指定した場合のみ有効です。**

（注意）[LDAP Proxy サーバ URL]に設定する値は、電子入札用 LDAP プロキシサーバの管理者にお問い合わせいただくか、電子入札用 LDAP プロキシサーバの設定内容を確認ください。
（注意）HTTP プロキシサーバに関する情報は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

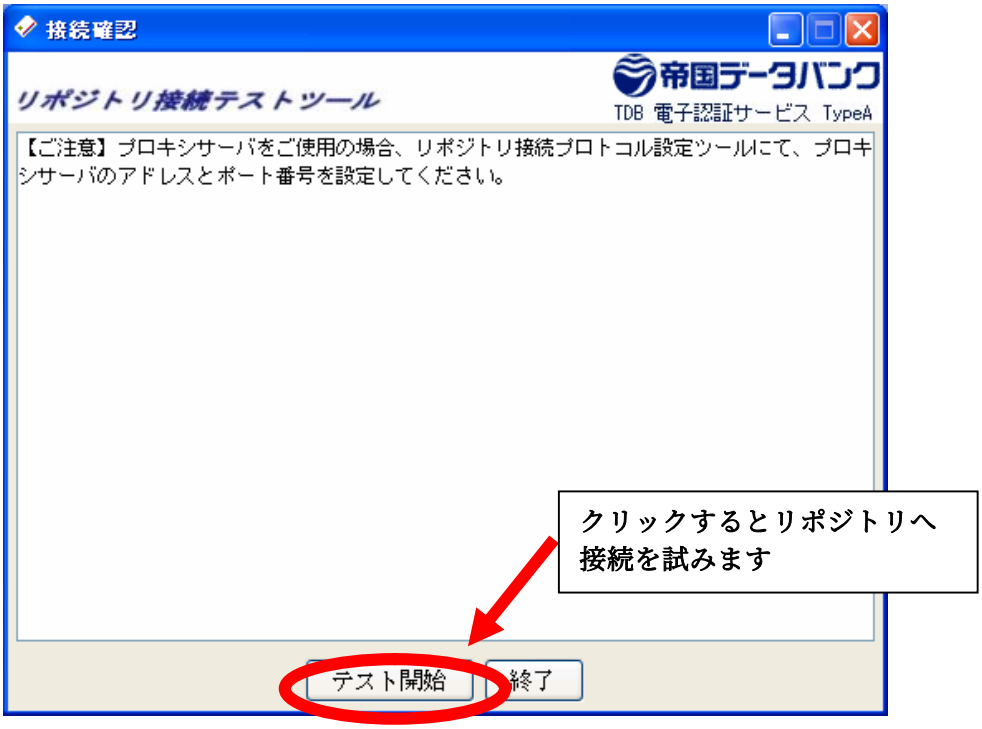
確認

［スタートメニュー］-> ［プログラム］-> ［帝国データバンク］-> ［TDB 電子認証サービス TypeA］->「リポジトリ接続テスト」を選び、「リポジトリ接続テスト」ツールを起動します。
LDAP 通信時とはメッセージ内容に違いがあります。

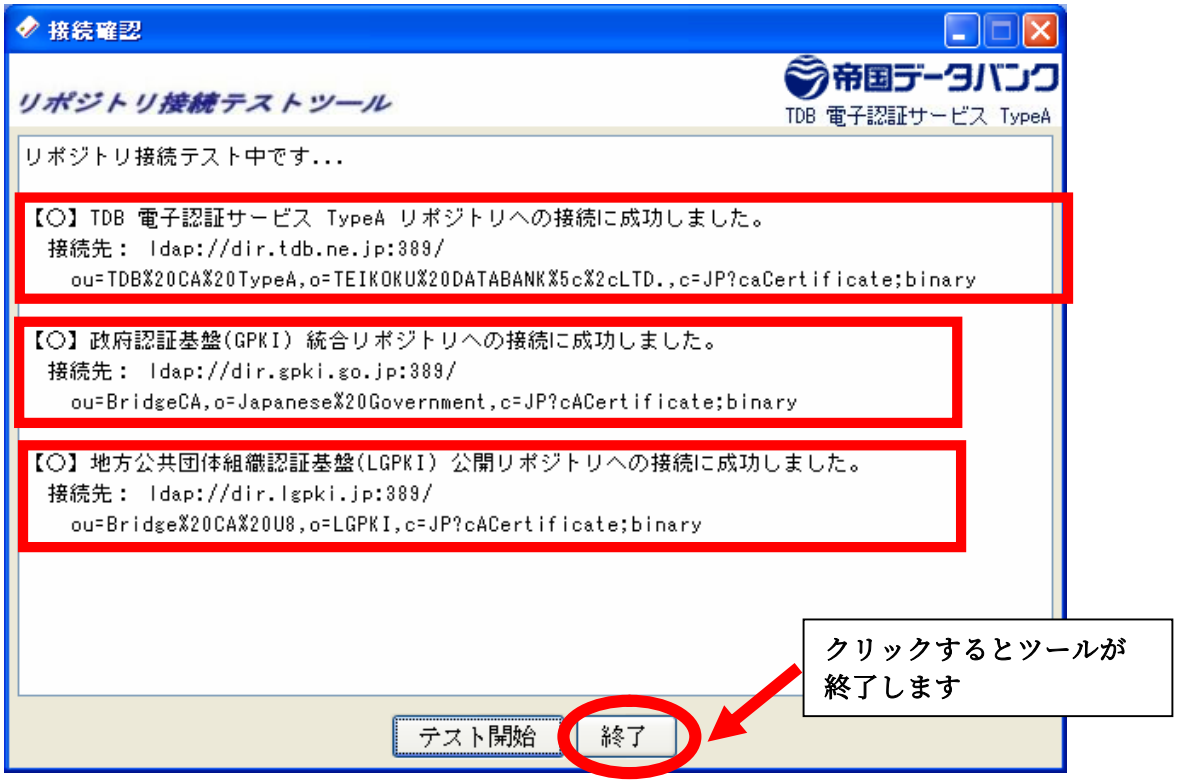
テストツールが起動する前に、以下のメッセージが表示されます。［了解］ボタンを押してください。表示される内容はＬＤＡＰ通信時とＨＴＴＰ通信時でメッセージが違います。



リポジトリ接続テストツールが起動すると、以下のようなウィンドウが表示されます。
[テスト開始]ボタンを押してください。表示される注意文はＬＤＡＰ通信時とＨＴＴＰ通信時でメッセージが違います。



「接続に成功しました」というメッセージが出るとリポジトリへアクセスが可能です。
[終了]ボタンを押してツールを終了してください。



(注意)エラーが発生した場合は、電子入札用 LDAP プロキシサーバの管理者にお問い合わせいただくか、電子入札用 LDAP プロキシサーバの設定内容を確認ください。

5. アンインストール

この章の設定は、通常は行う必要はありません。
必要に応じて設定を行ってください。

5.1. IC カードリーダ ドライバのアンインストール

準備

アンインストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

手順

各 IC カードリーダ ドライバのアンインストール手順につきましては、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

5.2. Java 実行環境のアンインストール

準備

アンインストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

なお、以下は Java 実行環境のバージョンが「6.0 Update3」である場合の手順です。
「6.0 Update3」以外のバージョンをアンインストールする場合は、「6.0 Update3」を該当のバージョンに読み替えて作業を行ってください。

手順

① [スタート] -> [（設定）] -> [コントロールパネル]を選択し、[アプリケーション（プログラム）の追加と削除]（Windows Vista の場合は[プログラムと機能]）を起動してください。

② [アプリケーション（プログラム）の追加と削除」から[Java (TM) 6 Update 3]を選択して、[削除] （Windows Vista の場合は[アンインストール]）を押してください。

③ 「コンピュータから Java (TM) 6 Update 3 を削除しますか？」と表示されるので、[はい]を押してください。

④ アンインストールが完了したら、[OK]を押してウィザードを終了させてください。

⑤ パソコンを手動で再起動してください。

5.3. TypeA ご利用ソフトのアンインストール

準備

アンインストールは管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

手順

① [スタート] -> [（設定）] -> [コントロールパネル]を選択し、[アプリケーション（プログラム）の追加と削除]（Windows Vista の場合は[プログラムと機能]）を起動してください。[コントロールパネル] -> [プログラムの追加と削除]を選択します。[TypeA ご利用ソフト v3.1]を選択して[削除]ボタンを押してください。
以下のような画面が表示されますので[はい]ボタンを押してください。

② [アプリケーション(プログラム)の追加と削除]から[TypeA ご利用ソフト v3.1]を選択して、[削除] （Windows Vista の場合は[アンインストール]）を押してください。

③ 「コンピュータから TypeA ご利用ソフト v3.1 を削除しますか？」と表示されるので、[はい]を押してください。

④ アンインストールが完了したら、[OK]を押してウィザードを終了させてください。

⑤ パソコンを手動で再起動してください。

6. トラブルシューティング

6.1. Java 実行環境に関するトラブルシューティング

この節の設定は、通常は行う必要はありません。
必要に応じて設定を行ってください。

TypeA ご利用ソフト取扱説明書が推奨する方法でインストールを行い、その後に Java 実行環境に関する設定を変更していなければ、特に新たな設定は必要ありません。

ただし、以下 1.～3.に該当した場合は、Java 実行環境に関する設定を合わせておく必要があります。該当した場合は「6.1.1　Java 実行環境の確認方法」へお進みください。

1. Java 実行環境のインストール時に、”Microsoft Internet Explorer”への設定を行わなかった場合
2. Java 実行環境のインストール後、”Microsoft Internet Explorer” をインストールし直した場合、あるいは、バージョンアップした場合
3. 別の Java 実行環境をインストールした場合

6.1.1. Java 実行環境の確認方法

Java 実行環境については、Windows システムフォルダの指すデフォルト実行環境を正しく設定する必要があります。

Windows システムフォルダの指すデフォルト Java 実行環境は、最後にインストールした Java 実行環境がデフォルトとなります。

このため、本製品のサポート対象外の Java 実行環境をインストールした場合には、該当 Java 実行環境をアンインストールします（詳細は、74ページの「5.2　Java 実行環境のアンインストール」をご参照ください）。

なお、「TypeA ご利用ソフト V3.1」をインストールした後に本製品サポート対象外の Java 実行環境をインストールした場合には、以下の手順に従って、本製品付属の Java 実行環境を再度インストールしてください。

① 本製品サポート対象外の Java 実行環境をアンインストールする。
（詳細は、74ページの「5.2　Java 実行環境のアンインストール」をご参照ください）
② [スタート]→[すべてのプログラム(プログラム)]→[帝国データバンク]→[TDB 電子認証サービス TypeA]→[初期セットアップ]と選択し、初期セットアップを起動し、終了させる。

デフォルトの Java 実行環境のバージョンは、以下の手順にて確認することができます。

(1) コマンドプロンプト画面を起動します。

OS	起動方法
Windows 2000	[スタート]->[プログラム] -> [アクセサリ] -> [コマンドプロンプト]
Windows XP Windows Vista	[スタート] -> [すべてのプログラム] -> [アクセサリ] -> [コマンドプロンプト]

(2) java.exe -version を実行します。

OS	起動方法
Windows 2000 Windows XP Windows Vista	%WINDIR%¥system32¥java.exe -version

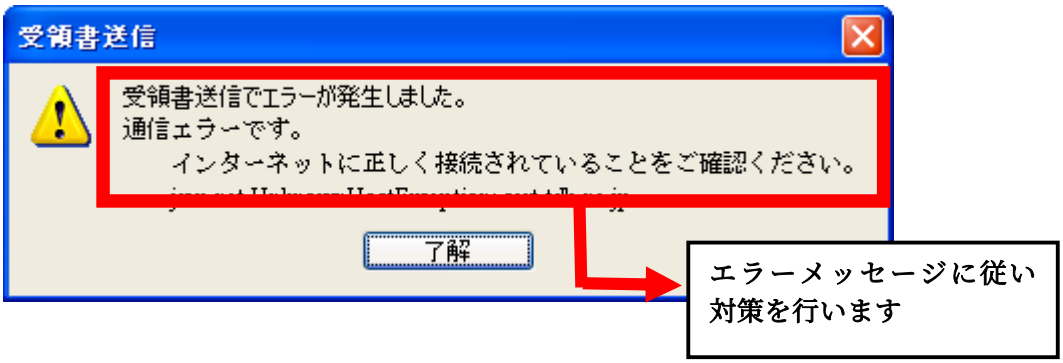
＜実行例＞

```
C:¥>%WINDIR%¥system32¥java.exe -version
java version "1.6.0_03"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.6.0_03-b05)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 1.6.0_03-b05, mixed mode, sharing)
```

6.2. 受領書送信に関するトラブルシューティング

6.2.1. 受領書送信でエラーが発生する。

エラーが発生すると以下のようなエラー画面が表示されます。

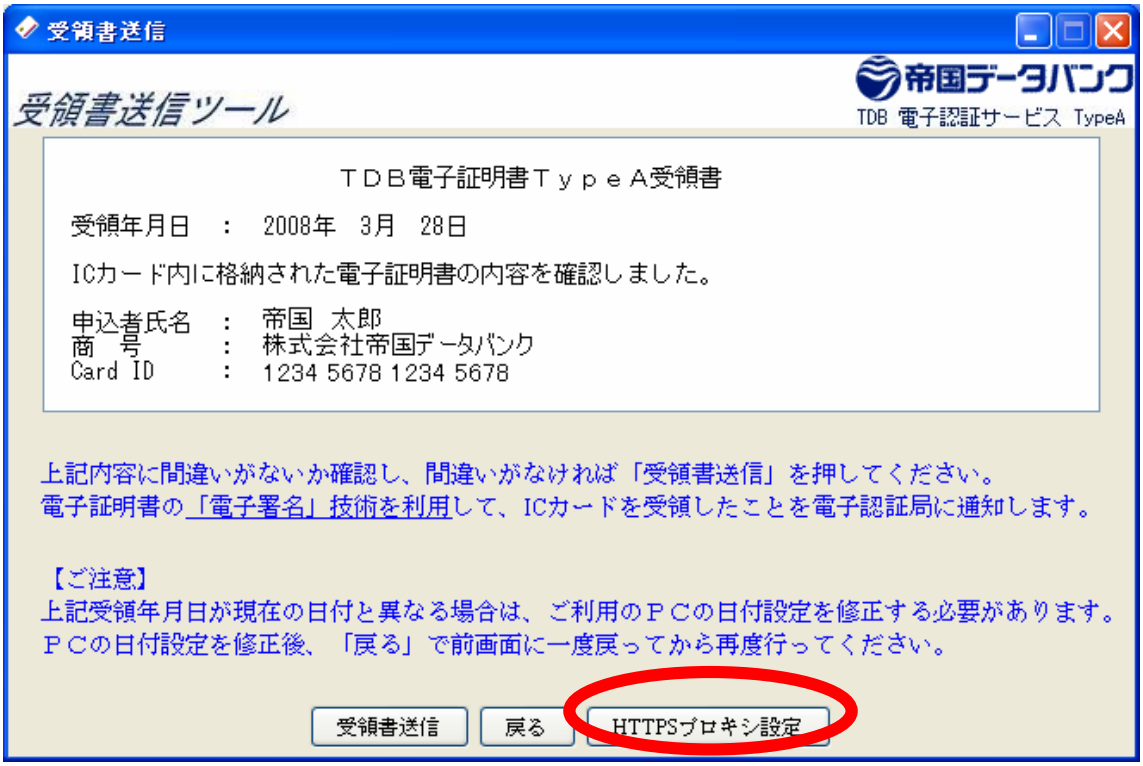


画面の二行目以降に表示されるエラーメッセージに従って、下表に示す対策を行ってください。

エラーメッセージ	説明／対策
受領書送信でエラーが発生しました。 通信エラーです。 インターネットに正しく接続されていることをご確認ください。 javax.net.ssl.SSLException: untrusted server cert chain	**9ページの「3.2 Java 実行環境のインストール」で、Java 実行環境「1.3.1_19」をインストールした場合は、「受領書送信ツール更新プログラム」を一度実施する必要があります。** TDB ホームページ(URL http://www.tdb.co.jp/typeA/)の、[ダウンロード]－[・TypeA 更新プログラム]より、「受領書送信ツール更新プログラム実行手順書」(PDF ファイル)に従って「受領書送信ツール更新プログラム」を実施してください。
通信エラー	後述する「★通信エラーの対策」を参照してください。
既に受領書を受付済みです。	当該 IC カードの受領書は、本ツールもしくは紙の受領書によって受付済みです。受領書の送信は不要です。
この IC カードは失効しています。	失効された IC カードを使用しています。失効された IC カードで受領書送信を行うことはできません。
この IC カードは有効期限切れです。	期限切れの IC カードを使用しています。期限切れの IC カードで受領書送信を行うことはできません。
TDB 電子認証サービス TypeA の IC カードではありません。	不正な IC カードを使用している場合に発生するメッセージです。正しい IC カードを使用して本メッセージが発生する場合はヘルプデスクまでお問い合わせください。
電子証明書の有効性を確認できませんでした。（code＝<数字>）	不正な ICカードを使用している場合に発生するメッセージです。正しいICカードを使用して本メッセージが発生する場合はサーバでトラブルが発生している可能性があります。ヘルプデスクまでお問い合わせください。
サーバでエラーが発生しました。（code＝<数字>） ヘルプデスクにお問合せください。	サーバトラブルによりエラーが発生しています。ヘルプデスクまでお問い合わせください。

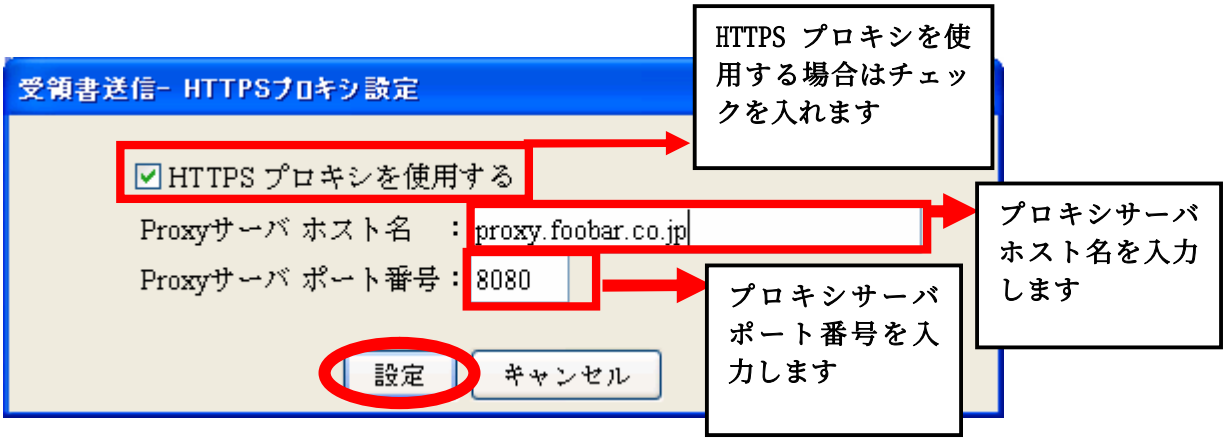
★ 通信エラーの対策

まず HTTPS プロキシの設定を確認します。「3.4.2　受領書送信」手順④の確認画面で[HTTPS プロキシ設定]ボタンを押してください。



以下の HTTP プロキシ設定画面が表示されます。
お客様の通信環境に応じて設定を実施してください。
[設定]ボタンを押すと設定が変更されます。
再度、確認画面から「受領書送信」を実施してください。

- Windows 2000／Windows XP／Windows Vista の場合、Internet Explorer の HTTPS プロキシ設定が予め設定されていますので、内容を確認／変更してください。



この設定を行っても通信エラーが発生する場合は、ネットワーク関係の設定／環境に原因がある可能性があります。
パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。

6.3. e-Tax 設定に関するトラブルシューティング

本節では、e-Tax 設定ツールで IC カードの内容を「e-Tax 対応に設定」、または「初期状態に設定」した後、各省庁等の電子入札・申請システムを使用する場合の注意事項について説明します。

なお、本節に述べられている注意事項の他、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページ(URL：http://www.tdb.co.jp/typeA/）、各省庁等のシステムのホームページに掲載されている注意事項、および利用手続き等の内容も併せてご確認ください。

e-Tax（国税庁：国税電子申告・納税システム）

① 国税電子申告・納税システム利用者ソフトウェア（e-Tax ソフト）の[利用者情報登録]→[電子証明書登録]で、以下のエラーメッセージが表示される。

⇒IC カードの内容が初期状態になっています。
66ページの「4.4　e-Tax 設定ツール」に従い、e-Tax 対応に設定してください。

② 国税電子申告・納税システム利用者ソフトウェア（e-Tax ソフト）の[電子署名]→[署名]で、以下のエラーメッセージが表示される。

⇒IC カードの内容が初期状態になっています。
66ページの「4.4　e-Tax 設定ツール」に従い、e-Tax 対応に設定してください。

総務省：電子入札・開札システム、電子申請・届出システム

① 電子署名処理において、以下のようなエラーメッセージが表示される。

※ 詳細情報等の内容は、下記エラーメッセージとは異なるものが表示される場合があります。

⇒47ページの「3.7 Internet Explorer への証明書登録」に従い、再度、Internet Explorer への証明書登録を行ってください。

7. 用語解説

用語	解説
PIN	Personal Identification Number 利用者本人であることを識別するための暗証番号
電子入札コアシステム	日本建設情報総合センター（JACIC）にて開発された複数の公共発注機関に適用可能な汎用性の高い電子入札システム
PC/SC	PC上でのスマートカードを利用するための標準を定めたもの。PC/SCの仕様は大きく分けてスマートカード，カードリーダ，カードリソースを 管理するリソースマネージャ，カードを操作するアプリケーションの4つから成る。
PKI	Public Key Infrastructure（公開鍵暗号基盤）電子署名と暗号技術を兼ね備えることで、安全な電子通信を確保している）
TARGUSYS	利用者本人認証PKI/ICカードシステム（ターガシス）

8. よくある質問

各種インストールや動作確認について、お客さまからお寄せいただいたよくある質問については TDB ホームページに公開しております（URL　http://www.tdb.co.jp/typeA/の「よくある質問」）。
ご質問いただく前に、ご参照ください。

株式会社帝国データバンク